

厚生労働省 令和6年度老人保健健康増進等事業

# 介護技能向上を目的としたコンテスト の効果分析に関する調査研究事業

## 報告書

令和7年3月

社会福祉法人 こうほうえん

# はじめに

「オールジャパンケアコンテスト」（以下、AJCC）と言う）は、「介護の質の向上と地域との繋がりを目指して」という理念のもと、介護の仕事に携わる人たちが生き甲斐を感じ、知識や技術の向上を高めるとともに、地域や社会において介護への関心と理解を深めることが必要であるとの考えで開催しているものである。

2010（平成22）年に第1回大会を開催し、爾来、毎年継続開催してきた全国規模のケアコンテストである。今年度のAJCC2024（第14回）大会は、東京ビッグサイトを会場に全国から140名の選手が参加し、過去最大規模での開催となった。介護福祉士等の養成校の学生・生徒を対象とした動画投稿コンテストを同時開催し、大学・専門学校・高等学校から38作品の応募を得て実施したところである。

本年度の第14回大会においては、厚生労働省の「令和6年度 老人保健健康増進等事業」として、「介護技能の向上を目的とするコンテストの効果分析に関する調査研究事業」を合わせて実施させていただいた。本書は、その調査研究事業報告書として取りまとめたものである。

調査研究は、ケアコンテストを通じた介護技術・技能の向上、ならびにその付随的な影響を多角的に分析・検討することを目的に、具体的には、AJCCの選手及び選手派遣事業所等の活動とその成果、社会的インパクトについての分析・検討を行った。AJCCの過去13回に及ぶ継続活動とその成果を検証しながら、本年度の第14回大会については、選手及び選手派遣事業所等を対象とするアンケート及びヒアリングを実施し、具体的な活動の評価とその成果、社会的インパクトについての検証を行った。

調査研究事業を通じて、全国レベルのケアコンテストを継続開催してきたAJCCの意義、その効果性や多様な影響（インパクト）について具体的に分析・検証し、可視化できたことは誠に意義深いことである。調査研究事業に関わられた調査検討委員会の委員をはじめ、ご協力いただいた関係者各位に深く感謝申し上げる次第である。

団塊の世代のすべてが75歳の後期高齢人口になり、日本は世界に類を見ない超高齢社会を迎えている。介護ニーズの量的拡大、重度化等のなかで介護人材の養成と確保が喫緊の課題となっている。そうしたなかで、いま介護職は、「社会機能を支えるエッセンシャルワーカー」であるとの認識が広がっている。AJCCは、引き続きケアコンテストを拡充し、介護の価値創造と社会的評価の向上、そして新しい介護文化の創造を目指した取り組みを継続していくことにしたい。

令和7年3月

調査検討委員会 委員 廣江 研  
（社会福祉法人 こうほうえん 会長）

## 目次

はじめに (1)

<b>第1章 介護技能の向上を目的としたコンテストの効果分析 に関する調査研究事業の概要</b> .....	4
1. 調査研究事業の目的.....	4
2. 調査検討委員会での検討.....	5
【調査検討委員会 委員】 【オブザーバー】 【技術支援】 (5)	
3. 調査研究の方法及び事業内容.....	5
● 調査員による参加観察 (5)	
● ロジックモデルのフレームワークに基づく検証 (6)	
● アンケート及びヒアリングによる検証 (6)	
<b>第2章 AJCC の開催ドキュメント</b> .....	7
1. AJCC2024(第14回)大会ドキュメント.....	7
● 開会式 (7)	
● 分野別・部門別ケアコンテスト (8)	
● 「看取り」分野 A部門 (9)	
● 看取り分野 A部門の課題設定・評価基準・事前課題 (10)	
● 各ブースでのアドバイザーミーティング (12)	
● 動画投稿部門の展示ブース (13)	
● 表彰式と優秀賞の発表 (13)	
● アドバイザーの総評・閉会式 (14)	
2. AJCC2024(第14回) 前夜祭ドキュメント.....	15
● 前夜祭フィナーレ (15)	
● 前夜祭の開始 (16)	
3. AJCC2023 第13回大会までの歩み.....	18
<b>第3章 選手及び選手派遣事業所等の活動とその成果</b> .....	24
1. 選手の活動とその成果.....	24
(1) 参加選手の属性 (24)	
(2) 参加回数・動機 (26)	
(3) 事前準備 (28)	
(4) 前夜祭 (32)	
(5) ケアコンテストの実技 (34)	
(6) アドバイザーコメント (38)	
(7) 職場での関係性 (40)	

(8) ケアコンテストの意義 (41)	
(9) これからやりたいこと、介護の仕事観 (44)	
(10) ケアコンテストの継続について (50)	
2. 選手派遣事業所等の活動と成果	52
(1) 選手派遣事業所の属性 (52)	
(2) 選手へのサポート (53)	
(3) コンテスト開催の意義 (55)	
<動画投稿養成校アンケート調査の結果から> (56)	
<来場者アンケート調査の結果から> (58)	
3. 個別法人・事業所等の活動とその成果	62
<b>第4章 AJCC のアウトカムと今後への期待</b>	<b>74</b>
1. 継続活動による成果	74
(1) 介護の「見える化」による社会的認知の向上 (74)	
(2) 基本理念・エビデンスに基づく介護の実践 (76)	
(3) 介護のプロ意識、他者貢献動機の向上 (77)	
(4) 外国籍選手の活躍、介護人材のダイバーシティ (77)	
(5) 介護の実践力向上、トレーニングモデル (78)	
(6) 介護職のネットワーク、地域との繋がり醸成 (79)	
(7) 介護の魅力、介護職へのリスペクトの深化 (79)	
2. 期待される成果・中長期の視点での影響	80
(1) 介護技術及び技能の向上 (81)	
(2) 介護サービスの質の向上 (81)	
(3) 介護職の社会的評価の向上 (81)	
(4) 介護人材の養成と確保 (82)	
(5) 新しい介護文化の創造 (82)	
3. AJCC への期待と課題	83
(1) 大会の継続と参加機会の拡充 (83)	
(2) 学びと交流のさらなる促進 (83)	
(3) 現場に即した分かり易い課題・評価基準の設定 (84)	
(4) 動画投稿コンテストの充実 (84)	
(5) 養成校との連携、外国籍選手枠の拡充 (85)	
<参考資料>	86
AJCC2024(第14回)調査研究事業 選手事前アンケート (86)	
AJCC2024(第14回)調査研究事業 選手事後アンケート (89)	
AJCC2024(第14回)調査研究事業 選手ヒアリング (92)	
AJCC2024(第14回)調査研究事業 選手派遣事業所アンケート (94)	
AJCC2024(第14回)調査研究事業 動画投稿養成校アンケート (96)	
AJCC2024(第14回)調査研究事業 来場者アンケート (98)	

## 第1章

# 介護技能の向上を目的としたコンテストの効果分析 に関する調査研究事業の概要

### 1. 調査研究事業の目的

オールジャパンケアコンテスト（以下、「AJCC」と言う。）は、「介護の質の向上と地域との繋がりを目指して」という理念を掲げ、2010年（平成22年）に第1回大会を開催し、以降、毎年多くの参加者と共に成長を重ねてきた。第14回大会となった今年は、全国の介護現場で働く140人が選手としてエントリーし、東京ビックサイトに集い、ケアコンテストの各分野・部門で培ってきた介護実技を披露し、地域社会へその成果を広めるための場として意義深いものとなっている。

本調査研究事業の目的は、ケアコンテストを開催することで期待される介護技術・技能の向上、およびその付随的な影響を多角的に分析し、今後のさらなる発展に向けた指針を得ることである。具体的には、ケアコンテストとしてのAJCCが介護現場にどのような影響を与えているのか、介護技術・技能の向上のみならず、職員のモチベーション維持や向上、職員同士の連携強化、離職防止、職場定着促進といった効果の広がりを検証する。これにより、介護職の働きがいや魅力の発信、さらには地域とのつながりを含む社会的なインパクトがどのような形で実現しているかを見極めるものである。

さらに、エッセンシャルワーカーとしての介護人材の養成と確保が喫緊の社会的課題と認識されるなかで、介護職に対する魅力の向上、社会的評価の向上が重要視されている。ケアコンテストの活動を通じて、介護職の魅力の再認識し、職員の働きがいや誇りを高め、社会的にその価値を広めることが重要である。本調査は、これらの効果の可視化と介護職の社会的評価向上への貢献を明らかにするものである。

また、ケアコンテストの活動を通じて、選手として参加する介護職員等がエッセンシャルワーカーとしてキャリアアップを意識し、介護のプロフェッショナルを目指して活動することが職場や地域社会に対してどのような影響を与えているかを検証する。他者への貢献を重視する職業の中では、他者貢献動機（プロソーシャル・モチベーション）が重要なモチベーションの要素であると考えられている。介護職員の意識のなかで他者貢献動機がどのように成熟、発展し、活動に影響しているかについても検証する。

本調査研究は、ケアコンテストとしてのAJCCの活動が持つ教育的および社会的意義を一層明確にし、AJCCの活動がもたらす効果を見極めることで、介護業界全体の質の向上と地域社会との連携を強化するための基盤を提供するものである。同時に、AJCCのさらなる発展のための課題検討や改善の方向の提言

を行うものである

## 2. 調査検討委員会での検討

本調査研究事業は、介護事業者・施設の経営者、職能団体、学識経験者、その他有識者で構成する調査検討委員会を設置し、調査研究の方法及び効果分析についての検討を行った。(検討委員会は5回開催)

### 【調査検討委員会 委員】

廣江 研 (社会福祉法人こうほうえん 会長)  
香取 幹 (株式会社やさしい手 代表取締役社長)  
秋山 由美子 (社会福祉法人福音寮 理事長)  
伊藤 優子 (龍谷大学短期大学部 社会福祉学科 教授)  
浦上 克哉 (鳥取大学医学部保健学科 認知症予防学講座教授)  
及川 ゆりこ (公益社団法人介護福祉士会 会長)  
小林 光俊 (学校法人敬心学園 理事長)  
白井 孝子 (学校法人滋慶学園 東京福祉専門学校 副学長)  
新津 ふみこ (NPO 法人メイアイヘルプユウ 代表理事)

### 【オブザーバー】

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課  
吉田 昌司 (福祉人材確保対策室 室長)  
塩野 勝明 (同上 室長補佐)  
横溝 豊 (同上 室長補佐)  
佐藤 幸 (同上 マナパワー企画係長)

### 【技術支援】

NPO 法人 福祉経営ネットワーク  
宮崎 民雄 (代表理事、(有)カスタマー・サービス代表取締役社長)  
大塚 孝喜 (理事、(株)エイデル研究所 代表取締役所長)  
遠藤 紀彦 (理事、(株)エイデル研究所 主任コンサルタント)

(敬称略)

## 3. 調査研究の方法及び事業内容

本調査研究事業では、AJCC2024 (第14回) 大会の活動とその成果をより具体的かつ多面的に検証するため、以下の3つの方法に基づいて調査研究を行った。

### ● 調査員による参加観察

AJCC2024 (第14回) 大会当日および前夜祭において、3名の専門調査員が参加観察を実施した。大会の運営、参加選手の技術披露、関係者の交流や発言など、多様な場面を直接観察することで、AJCCが

もたらす効果やその場で得られるアウトプットおよびアウトカムを詳細に記録した。これにより、AJCCの現場における具体的な影響を多角的に把握し、参加者にどのような成長や意識の変化が生まれたのかを検証することができた。参加観察では、ケアコンテスト（実技）を中心としたリアルな活動や反応を観察し、AJCCの活動が介護の実務にどのように役立ち、結びついているかの分析を重視した。

## ● ロジックモデルのフレームワークに基づく検証

AJCCの活動とその成果を視覚的かつ構造的に検証するために、ロジックモデルのフレームワークを導入した。ロジックモデルとは、特定のプログラムや事業がどのような資源（インプット）を投入し、どのような活動（プロセス）を行い、どのような成果（アウトプット・アウトカム）をもたらすのかを明確に示す手法である。この枠組みを通じて、AJCCの活動によって発揮される社会的インパクトの要素を可視化し、介護技術の向上や職員のモチベーションに及ぼす影響、さらには地域社会への貢献についての検証を行うことにした。

ロジックモデルに基づく検証では、AJCCの活動が介護技術・技能の向上、介護マインド（倫理的価値観）の醸成とともに、参加者が仕事における充実感をどのように感じるか、離職防止・職場定着の促進など、長期的な効果も評価の対象とした。

## ● アンケート及びヒアリングによる検証

AJCC2024（第14回）大会における活動の効果や影響を具体的に検証するため、以下の関係者を対象としたアンケート及びヒアリング調査を実施した。

- 来場者アンケート
- 選手アンケート（コンテスト前後）
- 選手ヒアリング（コンテスト実技後）
- 選手派遣事業所アンケート
- 動画参加養成校アンケート
- 事業所ヒアリング
- 養成校ヒアリング

これらの調査を通して、AJCC2024（第14回）大会と活動が、選手や選手派遣事業所等にどのような意識や行動の変化をもたらしたのか、具体的な効果を明らかにした。例えば、選手やその所属する事業所にとってのAJCCの活動の意義や、技術・技能の向上を目指す意欲、介護という仕事に対する誇りの醸成、また、来場者の反応やその影響がどのように反映されているかを、データとして収集・分析した。

このように、各種調査の結果からAJCCの活動がもたらす広範な効果を明確化し、その社会的意義や価値を客観的に捉えるとともに、介護職の魅力と社会的評価を高めることにも寄与する成果をまとめ、今後の改善点を浮き彫りにすることで、AJCCの今後の活動、さらなる発展の礎となることが本調査研究事業の目指すところである。

## 第2章

# AJCC の開催ドキュメント

## 1. AJCC2024(第 14 回)大会ドキュメント

### ■開会式

AJCC2024 (第 14 回) 大会は、夏の眩しい陽射しが差し込む快晴の日に、東京ビックサイトで開会となる。連日の厳しい暑さが肌に迫ってくる午前 9 時の開会式開始に向けて、会場には音響スタッフ、受付係、誘導員、司会進行、そして大会実行委員会のメンバーらが活気に満ちた準備を整え、それぞれが自分の役割を全うすべく精密な調整が行われていた。

会場に着席した 140 名の選手たちは、それぞれのグループごとに色分けされたビブスをまとい、2 列ずつ整然と並んでいる。静寂のなかで控えめに会話を交わす者もいるが、多くは緊張した面持ちで前方をじっと見つめ、これから始まるケアコンテストに向けての気持ちをセットしているようであった。その姿から一人ひとりが心の中で決意を固めている様子が伝わってくる。



また、会場には審査と助言を行うアドバイザーの方々29名がそれぞれ着席し、黄色いポロシャツを着た大会運営スタッフが所定の位置で忙しく動いている。まもなく9時である。前方のステージに実行委員会の役員の方々と来賓が着席し、場の緊張感が一層高まっていった。

場内に流れていたBGMがゆっくりとフェードアウトし、司会者による力強い開会宣言が響き渡った。その瞬間、会場は大きな拍手で盛り上がり、全員がこの大会の始まりを歓迎し、気持ちを引き締める様子が見えかけた。

9時2分、AJCC2024 実行委員会会長の廣江研氏が壇上に立った。穏やかでありながら力強い口調で「今日は精一杯力を発揮してください」「昨日から多くの仲間ができました」「皆さんの後ろには、多くの職場の仲間がいます」「日本の介護が少しでも良くなるように、一緒に頑張りましょう」と語りかけた。その言葉は、一人ひとりの選手に向けられた激励のメッセージであり、会場全体にその想いが浸透していくようであった。

続いて、来賓からの祝辞があり、実行委員およびアドバイザーの方々の紹介が行われた。

その後、選手を代表して清水祐子さん（SOMPO ケア）が壇上に立ち、力強い声で選手宣誓を行った。清水さんの堂々とした姿勢と意識の高さが、会場全体に凛とした空気をもたらした。また、彼女が能登半島地震の被災地から参加していることもあり、被災地支援に対する感謝の言葉が述べられ、会場から温かい拍手が湧き上がった。

9時17分、開会式はとどこおりなく終了した。会場を見渡すと、選手たちの周りにはすでに200名を超えるギャラリーが立ち見で集まり、その視線が選手たちに注がれていた。9時40分から始まる最初のコンテストに向けて、選手たちは20分前までには各集合場所に待機しなければならない。本番のコンテストに向けての一步が踏み出されていた。

## ■分野別・部門別ケアコンテスト

ケアコンテストは、「認知症」「食事」「入浴」「排泄」「看取り」「口腔ケア」「外国人介護職員」の7つの分野で実施し、実務経験6年以上のA部門、6年未満のB部門に分かれ、合計14のブースで実施することになっている。

9時27分。各ブースでは、コンテスト開始に向けて、高齢者役のスタッフがブース内のアイテムや配置、服装の確認を行い、アドバイザーは審査票や資料の最終確認を行っている。緊張した様子の選手たちに対して、「まだ時間があるから、リラックス、リラックス！」と優しく声をかけるアドバイザーの姿が見られた。すべての役割を担う方々が一体となり、選手が全力を発揮できるよう支える空気が会場に満ちていた。

選手は、分野ごとに設定された課題のなかでケアの実技に取り組むが、午前の選手と午後の選手では設定課題が異なっている。コンテストの公平性を確保するための運営側の努力が垣間見える。

このドキュメントでは、数多くのブースの中から「看取り」分野に焦点を当て、その様子を紹介する。

## □「看取り」分野 A 部門

「看取り」分野 A 部門では、認知症の進行はないものの、医療的ケアが必要な利用者に対し、どのように寄り添うかが設定課題になっていた。痛みは感じていないが終末期にある利用者に、どう関わるべきかを探る、実践的かつ難しいケースである。

実技時間は 10 分。昨年までは 7 分であったが、日々の実践成果を十分に示すには時間が足りないという意見を受け入れ、今年から 10 分に拡大された。

実技は、選手が居室のドアをノックするところから始まった。真剣な表情の選手は、利用者役のボランティアにそっと寄り添い、落ち着いた声で会話を重ねていく。その会話はマイクを通して会場に響くものの、小声で進められるため、見学者も耳を澄ましながら聞き入っている。選手が、利用者の息子さんの気持ちを代弁しようとする場面や、利用者の気持ちに寄り添おうとする言葉に、周囲のギャラリーも次第に身を乗り出していく様子が見て取れる。

間もなく 10 分が過ぎるころ、高齢者役が「ここに来て、楽になったよ」と呟いた。その瞬間、選手はもとより、見学者の表情には安堵と感動が浮かび上がり、一体感が感じられた。

「看取り」のブースは、他の分野に比べ、技術以上に心理的なケアが求められる場であり、その奥深さが会場全体に伝わっていた。難易度の高い課題に臨みながらも、選手が多くの人の前で笑顔で取り組む姿は素晴らしく、その姿に見学者たちは感銘を受けていた。個々の技術はもちろんだが、実際に人前で実演することで、また一段と高いレベルが求められるのだろう。

実技が終了すると、選手は「普段、このようなケースに触れる機会が少なかったので、より真剣に取り組むことができた」と感想を述べた。これに対し、高齢者役のスタッフからは、選手が利用者とその息子さんとの繋がりを一生懸命に支えようとしている対応に優しさを感じた、というフィードバックがあった。



アドバイザーからは、選手の温かな関わり方を称賛するコメントに加え、医療的ケアの観点からの具体的なアドバイスが伝えられた。また、選手に対し、「途中の〇〇の場面で〇〇と話していた時の意図は？」といった質問もなされ、選手の考え方や対応の意図を深く引き出す場面が見られた。

ケアコンテストは単なる競技にとどまらず、選手や見学者、運営スタッフの思いが一体となり、学びと成長の場として作り上げられていることがよく伝わってくる場面であった。

## □「看取り」分野 A 部門の設定課題・評価基準・事前課題

この分野別・部門別で選手に事前に周知されていた設定課題と評価基準は、次のような内容である。事前課題への取組みも求められている。

### 第 14 回オールジャパンケアコンテスト 課題

#### 看 取 り 分 野 (午前部)

##### ●設定課題

山田さん 93 歳 要介護 4 女性 入所して 1 年

既往歴：脳梗塞・高血圧・老年性うつ・脊柱管狭窄症・腸閉塞

現状：3 か月前頃から食後に嘔吐することが増える。近隣病院受診結果は大腸がんの疑い。専門病院での精密検査を勧められる。

配置医師は長男に「穏やかに最期まで過ごせると良いがそうでない場合も考えて判断するように」また「嘔吐や、吐血や強い痛みが生じる可能性がある」との見解を伝える。これに対して長男は親族による「家族会議」を開いた結果として「入院して検査や治療をすることは母も私たちも希望しない。痛みが出た場合のコントロールのみ希望」する。配置医師はそれへの対応は可能と回答。そこで長男は事業所内看取りを希望し、事業所内看取りの「同意書」を交わす。

##### ●生活歴と背景

長野県出身で高等女学校を卒業して地元の税務署で事務の仕事をしていた。東京に嫁いだ姉を頼りに上京し江東区の税務署で引き続き仕事を続け結婚した。姉夫婦と同じ敷地内で生活し 1 男に恵まれ仕事を続けた。これまでの良かったことを聴くと息子のお嫁さんがいい人なので「ここ（特養）でもいいけど家に帰りたい」と毎日のように言う。泊まらなくてもいいから行くだけでもいいと言う。職員は車で送迎する旨提案するが、長男は消極的である。その理由を「母の性格を考えると、このまま家にいたいと言い出しかねない。妻も体調を崩している状態なので・・・」と心に余裕のない状況を吐露する。

### ●総合的な援助の方針

嘔吐等体調がすぐれないときは安静とし、医師の指示による処置を行う。痛みがある場合は緩和医療を実施。なお、現在までのところ痛みの訴えはない。腸閉塞の再発予防のため、適宜座薬などを使用して便通を整える。食事は無理のない範囲で特に制限はなくとってもら。食事の場所も食堂で今まで通りとする。入浴はリフト浴で実施。排泄はベッドサイドに置いたポータブル便器を使用。外の景色やご家族の写真、お孫さんの描いた絵画を見えるように居室環境を整え、ご家族との面会の機会を設けて苦痛なく心穏やかに過ごしてもらえようとする。

### ●当面の課題となっていること

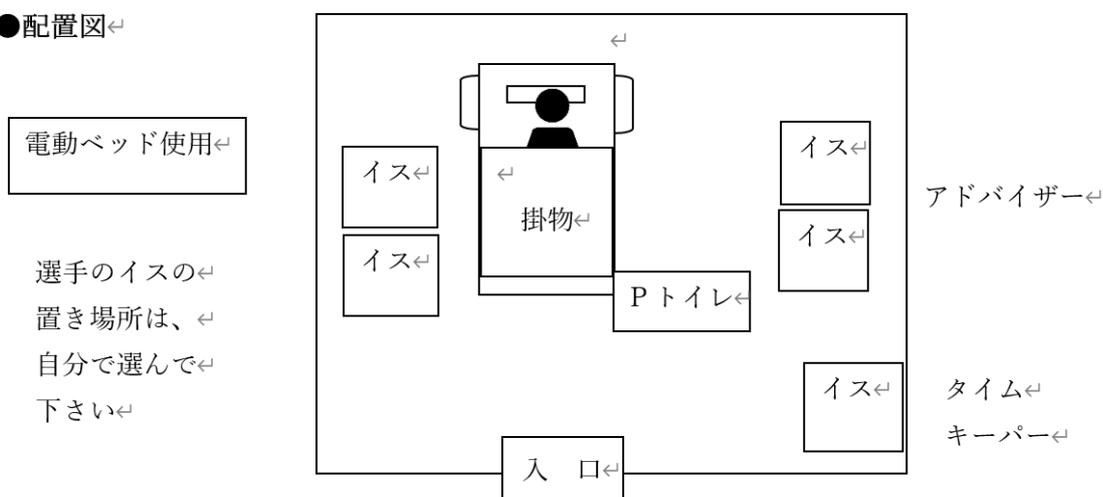
本人は毎日「家に帰りたい」の言葉を口にしている。家族会議を開催して、そこでは「痛みのコントロールが出来ればここで最後まで」との見解を出している。しかしこの家族会議に本人の意向が反映されているかは不明。また家族と職員が本人を交えて「最期」について話し合う機会を現在まで持っていない。

### ●課題

山田さんをご自身の意見を言えるような支援。山田さんの気持ち、ご家族の状況などを交えて対応してみましよう。

なお、関わり方は、ベッド上でも椅子に座るでもどちらでも結構です。

### ●配置図



### ●基本評価項目

- ① 安楽の状態の確認が出来ていたか
- ② 本人の想いを聞くことができたか
- ③ 本人の想いを受け止める対応をしたか
- ④ ③で出された思いを実現できるような働きかけをしていたか
- ⑤ 本人が「やっておきたいこと」「大切にしていること」を表出することができたか
- ⑥ 今の生活において気力、意欲が持てるような働きかけをしていたか
- ⑦ 話に耳を傾け、ゆったりした態度で接していたか

## ●看取り分野の事前課題

【看取り分野】の視点でご記入ください。

- ① あなたの事業所では、【看取り分野】のケアを行うにあたり利用者に対して何を大切にしていますか？
- ② あなたは、①の大切にしている事を実現するために、どのように取り組んでいますか？

## ■各ブースでのアドバイザーミーティング

各ブースで午前・午後の実技が終わり、10人の選手が実技を全うした後、午後2時40分からブースごとのアドバイザーミーティングが開始された。2名のアドバイザーを中心に、選手たちが車座になり、さらに高齢者役を演じたボランティアも参加して、その場には温かくも真剣な空気が漂っていた。

ミーティングの進行はブースごとに異なるものの、共通しているのは、選手一人ひとりが感想を述べている点であった。その表情には安堵と充実感が浮かび、コンテストを通じて得た学びをかみしめるような姿勢が見られた。アドバイザーは、選手たちが挑んだ設定課題についてポイントを振り返り、さまざまな視点からの考えを伝えていた。単なる「答え合わせ」ではなく、介護の現場で必要とされる多角的な対応についての学びを深める場となっていた。

ある選手は、「自分の実技を振り返ると、今回の経験が自分を見つめ直す機会になった。普段、職場で



上司からほめられることはあるが、今回のように第三者の視点で見てもらえる機会は新鮮だった」と語り、また別の選手は「他の選手の介護技術を見て、自分のケアにも新しい要素を取り入れたいと思った」と前向きな気持ちを表していた。さらに、高齢者役のスタッフが「みなさんと一緒に働きたいと思った。自信を持って欲しい」と温かいエールを贈る場面も見られ、選手たちの表情は一層明るくなった。

## ■動画投稿部門の展示ブース

会場の一角には、介護福祉士等の養成校の学生が投稿した動画作品の展示ブースが設けられていた。今回 9 校から 38 の作品が投稿されており、学生たちが動画制作のプロセスを通じて学び、まとめ上げた成果である映像が上映されていた。

これらの動画制作を通じて、学生たちは介護の技術・技能だけでなく、介護現場でのコミュニケーションや寄り添いの大切さを深く学んでいる様子が伝わり、見学者もその意義深い取り組みに目を見張っていた。

## ■表彰式と優秀賞の発表

午後 3 時 7 分、会場には期待と緊張感が漂うなか表彰式が始まった。まずは動画部門からの表彰が行われ、優秀賞に輝いた選手が登壇した。受賞者は、昨年度の動画を見て感動し、今年はぜひ入賞したいと意気込んで挑戦したと語り、会場全体に響くような感謝と喜びのコメントを述べた。その言葉には、出場までの努力と情熱が詰まっており、会場から惜しめない拍手が送られた。

その後、各分野・部門での優秀賞の発表が行われ、午前・午後のコンテストから計 28 名の名前が次々に読み上げられた。受賞者はステージに上がり、表彰を受けた。手にしたクリスタルのトロフィーを掲げると、会場から仲間たちが喜びの声を上げ、とりわけ外国人介護職員分野の表彰では、その場が一段と盛り上がりを見せた。受賞者一人ひとりが、嬉しさとともに仲間への感謝の気持ちを言葉に表し、介護の仕事に誇りを持っている様子が会場に伝わってきた。



## ■アドバイザーの総評・閉会挨拶

表彰式が終わると、アドバイザーの方々が各分野・部門の総評を述べた。設定課題に対する解説だけでなく、介護の本質や選手たちの真摯な取り組みに対する敬意が込められており、参加者全員が深い学びを感じる時間となった。

アドバイザーの一人は、「皆さんが見せてくれたケアは、まさに人を支える力そのものでした」と称賛し、会場の空気は温かな感動で満たされた。

実行委員会の廣江研会長が壇上に立ち、「今日の大会を通じて、皆さんが日本の介護現場を支える未来の力であると改めて実感しました。この経験を胸に、明日からもそれぞれの現場で力を尽くしていただきたい。皆さんの情熱が日本の介護の未来を明るく照らすでしょう」と激励し、最後に、公益社団法人日本介護福祉士会の森久紀副会長が閉会の挨拶を行った。会場には感動と感謝の拍手が鳴り響いた。

BGMが流れる中、選手たちはお互いの健闘を称え合い、記念撮影や握手を交わし合い、充実した一日を締めくくった。AJCC2024の幕が閉じ、会場には再び熱気と感動の声があふれ、参加者全員が新たな一歩へと踏み出す決意を胸に刻んでいるようだった。



■AJCC2024(第14回)記録

<p><b>AJCC2024(第14回)</b></p> 	<p>主催:第14回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(14名)          主管法人:SONPO ケア・やさしい手・東京ロイヤル・こうほうえん          後援:厚生労働省          特別後援:高齢者住宅新聞社          日程:2024年8月5日(月)前夜祭、8月6日(火)コンテスト          主会場:東京ビックサイト 南展示棟南1ホール          参加選手数:140名 動画投稿/養成校:9校(38名)          活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア・外国人介護職員の7分野。A部門(6年以上)、B部門(6年未満)設定。事前レポート、審査・評価を実施。会場実技各分野「優秀賞」。動画投稿各分野「優秀賞」「奨励賞」          総来場者:1500名          大会スタッフ:128名(ボランティア13名)          後援団体:13団体、特別後援:高齢者住宅新聞社          協賛企業団体:93社          補助金:厚生労働省令和6年度老人保健健康増進等事業補助金</p>
--	--

## 2. AJCC2024(第14回)前夜祭ドキュメント

### ～「明日はみんな頑張ろう」の大合唱のフィナーレ

AJCC2024(第14回)の前夜祭は、8月5日夜、東京ベイ有明のホテルで開催され、熱気と期待に満ちた一夜となった。時刻は間もなく午後8時、明日の本番を目前に控えた140名の選手とアドバイザー29名、実行委員会のメンバーが一堂に会し、「明日はみんな頑張ろう」と、声を掛け合っている。前夜祭フィナーレの会場は、まるで明日の成功を先取りしたかのような高揚感で満ち溢れていた。

前夜祭の会場となったコンベンションホールは、「認知症」、「食事」、「入浴」、「排泄」、「看取り」、「口腔ケア」、「外国人介護職員」という7つの分野別に、さらに経験年数6年以上のA部門、6年未満のB部門分かれて選手たちが着席している。各テーブルには10名の選手と2名のアドバイザーが座り、料理と飲み物が奥のコーナーに並べられていた。ほとんどが初対面のメンバーであったが、介護への共通の情熱が交流のきっかけとなり、すぐに打ち解けていった。

選手たちは、それぞれが異なる施設や地域から集まり、日々の現場で培った技術や知見を共有する機会を楽しみにしている。介護という仕事の特性上、日常的に多くの人と関わり、コミュニケーションを重んじて働く姿勢が、すぐにお互いの距離を縮めたようである。

午後8時少し前に、大会実行委員（主管法人）の香取幹氏が挨拶に立ち、「会場には皆さんの熱気と優しさが満ち溢れています。皆さんの情熱と、介護に懸ける思いは素晴らしいものです。明日そして今後の活躍を心から期待します」と、力強く語りかけ、会場の雰囲気さをさらに引き締めた。前夜祭のフィナーレである。



## 前夜祭の開始

午後6時、前夜祭は静かな始まりを見せ、選手たちは緊張した表情で席に着き、まずは大会実行委員会からの進行やルールの説明を真剣に聞き入っていた。



その後、司会者の進行により開会が正式に宣言され、実行委員会の廣江研会長が挨拶を行った。廣江氏は、「コロナ禍により大会の開催が困難であった過去数年を振り返ると、今年はまさに待ち望んだ大会です。140名を超える選手が登録し、ここで技術を共有し学び合うことは、介護の未来に大きな意義を持つものです」と語り、選手一人ひとりに向けてお互いの技術を磨き、絆を深め合うことの重要性を強調した。その後、乾杯の発声があり、各テーブルでの交流と会食が本格的に始まった。

「排泄」分野 A部門のテーブルでは、明日トップバッターとして実技を行う予定の京都の選手が、アドバイザーに積極的に質問を投げかけていた。「ご利用者役の方はどんな方ですか」「実技のポイントは何か」といった質問に、アドバイザーは「普段のケアをそのままここで試してみてください」と助言し、「ケアに正解はなく、その方に応じた最適な対応ができるかが重要です」と伝えた。このやり取りを通じて、選手たちは技術だけでなく介護の本質についても深く考えさせられる場となっていた。

やがて食事が一段落したところで、140名の選手一人ひとりが紹介された。分野ごとに順番に選手の所属法人と名前が読み上げられ、選手が立ち上がり、思い思いの自己表現のアピールがある。分野・部門別の各テーブルで5人目に紹介された選手がテーブルを代表して「決意表明」を行った。

代表選手たちは一言挨拶を述べた後、チームの仲間に向けて「明日はガンバロー」と拳を突き上げ、掛け声を合わせて士気を高め合った。この光景は会場のいたるところで繰り広げられ、選手たちの意欲が次第に高まっていく様子が感じられた。



前夜祭が終わりに近づくと、各テーブルでは記念撮影や握手が交わされ、選手たちはお互いの健闘を祈りながら笑顔で語り合った。また、一部の選手たちはアドバイザーと最後の確認をするなど、翌日の競技に向けた最終準備も行われていた。会場を包む温かな雰囲気の中で、肩をたたき合う、励まし合う姿があちこちで見受けられ、明日の健闘を祈る気持ちが伝わってくるようだった。

こうしてAJCC2024の前夜祭は、単なる交流の場を超えて、介護に情熱を注ぐ選手たちが技術を競い、互いに高め合うという、AJCCの真髄を体現する場ともなっているようだった。明日への期待と意気込みにあふれたこの一夜は、選手、アドバイザー、実行委員会が一体となり、介護の未来へとつながる絆を深める貴重なひとときとなったようである。



### 3. AJCC2023(第13回)大会までの歩み

<p><b>AJCC2023(第13回)</b></p>  <p>第13回 オールジャパン ケア コンテスト All Japan Care Contest 参加選手エントリー受付中 一般来場者 入場無料 2023年 10月15日(日) 前夜祭 10月14日(土) 会場 板橋区立植村記念加賀スポーツセンター 東京都板橋区植村1-1-1 開催時間 10月14日(土) 18:00～20:00 10月15日(日) 9:00～17:00 特別記念講演 「ICT・介護ロボットの 現状と展望」 講師 平野 忠久氏 特別記念講演 「認知症・看取り」「食事」「入浴」「排泄」 「口腔ケア」「外国人介護士」 「動画投稿」「養成校学生分野」 応募締切 9月22日(金)</p>	<p>主催:第13回オールジャパンケアコンテスト実行委員会 (14名)          主管法人:SONPO ケア・やさしい手・東京ロイヤル・こうほうえん          後援:厚生労働省          日程:2023年10月14日(土)前夜祭、10月15日(日)コンテスト          主会場:板橋区立植村記念加賀スポーツセンター          参加選手数:100名 動画投稿/養成校:9校          活動内容:認知症・看取り・食事・口腔ケア・入浴・排泄(A部門/6分野)          認知症・食事・入浴・排泄(4分野/B部門)/外国人介護士部門。          会場実技各分野「優秀賞」「奨励賞」。動画投稿各分野「優秀賞」「奨励賞」          総来場者:650名          大会スタッフ:100名(ボランティア35名)          後援団体:15団体          協賛企業団体:134社          補助金:東京都 R5 年度介護理解促進事業補助金</p>
<p><b>AJCC2022(第12回)</b></p>  <p>第12回 オールジャパン ケア コンテスト All Japan Care Contest ハイブリッド 方式で開催! 2022年 12月10日(土) 開催 会場 板橋区立小豆沢体育館 東京都板橋区小豆沢1-1-1 開催時間 12月10日(土) 9:00～17:00 特別記念講演 「科学的に正しい認知症予防」～ウイズコロナ時代の確かな予防～ 講師 浦上 克也氏 特別記念講演 「認知症・看取り」「食事」「入浴」「排泄」 「口腔ケア」「外国人介護士」 「動画投稿」「養成校学生分野」 応募締切 11月15日(金)</p>	<p>主催:第12回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(13名)          主管法人 :SOMPO ケア・やさしい手・東京ロイヤル・こうほうえん          後援 厚生労働省          日程:2022年12月10日(土)コンテスト          主会場:板橋区立小豆沢体育館          参加選手数:125名 (会場53名/動画72名)          * 会場実技と動画投稿のハイブリッド開催          記念講演:「科学的に正しい認知症予防」～ウイズコロナ時代の確かな予防～          (鳥取大学医学部保健学科 浦上克也氏)          活動内容:認知症・看取り・口腔ケア・入浴・外国人(5分野)/会場実技。          食事・排泄(2分野)/動画投稿。会場実技各分野「優秀賞」「奨励賞」。          動画投稿各分野「優秀賞」「奨励賞」。          大会DVD作成配布。          総来場者:650名          大会スタッフ:76名(ボランティア15名)          後援団体:14団体 協賛企業団体:61社          補助金:東京都 R4 年度介護理解促進事業補助金</p>

## AJCC2021(第11回)

第11回AJCCは新型コロナウイルス感染症対策のため、動画応募方式で開催。

設定課題に応じた実技動画を撮影して投稿。

課題の分野は「認知症」「食事」「看取り」の3分野。各分野で「入所」「在宅」「在宅」の区分を設ける。分野・区分を選んで実技を行う。(看取りは「入所」と「在宅」のみ)

主催:第11回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(14名)  
 主管法人:SOMPO ケア・やさしい手・東京ロイヤル・こうほうえん  
 後援:厚生労働省

日程:2022年3月20日(大会報告・結果発表)

参加選手数:79名(エントリー数)

活動内容:認知症・食事・看取り(3分野)、動画投稿応募により選考。「特別賞」2名、「チャレンジ賞」3名、「奨励賞」5名、「優秀賞」3名選定。

後援団体:42団体

協賛企業団体:123社

補助金:東京都 R3 年度介護理解促進事業補助金

## AJCC2019(第10回)

主催:第10回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(23名)

共催 鳥取県、第一生命

後援 厚生労働省

日程:2019年10月19日(前夜祭)、10月20日(コンテスト)

主会場:国立オリンピック記念 青少年総合センター

参加選手数:130名

上映会:「ピア～まちをつなぐもの～」

トークショー:山国秀幸氏(ケアニン エグゼクティブ・プロデューサー)

活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア・外国人介護士(7分野)。A部門(5年以上)B部門(5年未満)設定。事前レポート、審査・評価を実施。優秀者を選考。大会DVD作成配布。

総来場者数:1,500名

大会ボランティア:131名

後援団体:29団体

協賛企業団体:122社

補助金:鳥取県介護サービスの質の向上支援補助金、第一生命

## AJCC2018(第9回)



主催:第9回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(22名)

共催:鳥取県、第一生命

後援:厚生労働省

日程:2018年10月12日(前夜祭)、10月13日(コンテスト)

主会場:鳥取県米子市 米子コンベンションセンター

参加選手数:112名(うち県内33名)

上映会:「ケアニン～あなたでよかった～」

トークショー:山国秀幸氏(ケアニン エグゼクティブ・プロデューサー)

鈴木 真氏(株式会社まこじろう執行取締役)

飯島恵子氏(ゆいの里代表)

活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア(6分野)。A部門(5年以上)B部門(5年未満)設定。事前レポート、審査・評価を実施。優秀者を選考。大会DVD作成配布。

来場者総数:2,250名

大会ボランティア:131名

後援団体:29団体

協賛企業団体:122社

補助金:鳥取県介護サービスの質の向上支援補助金、第一生命

## AJCC2017(第8回)



主催:第8回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(22名)

共催:鳥取県、第一生命

後援:厚生労働省

日程:2017年10月6日(前夜祭)、10月7日(コンテスト)

主会場:鳥取県米子市 米子コンベンションセンター

参加選手数:109名(うち県内33名)

講演:介護サービスにおける ICT(情報通信技術)、AI(人工知能)、ロボット技術の応用と今後について」東祐二氏((前)厚生労働省老健局 福祉用具・住宅改修官)

活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア(6分野)。A部門(5年以上)B部門(5年未満)設定。事前レポート、審査・評価を実施。優秀者を選考。大会DVD作成配布。

来場者総数:2,010名

大会ボランティア:154名

後援団体:28団体

協賛企業団体:121社

補助金:鳥取県介護サービスの質の向上支援補助金、第一生命

## AJCC2016(第7回)



主催:第7回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(22名)

共催:鳥取県、第一生命

後援:厚生

日程:2016年10月7日(前夜祭)、10月8日(コンテスト)

主会場:鳥取県米子市 米子コンベンションセンター

参加選手数:117名(うち県内37名)

講演:「福祉用具・介護ロボットを用いた介護負担軽減の取組」小林毅氏(厚生労働省老健局高齢者支援課 福祉用具・住宅改修指導官)。「優れたQOLサポーターの育成」平純司氏(新潟医療福祉大学 医療技術学部 義肢装具自立支援学科)

\*ノーリフティング機器&介護ロボット デモ開催

活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア(6分野)。A部門(5年以上)B部門(5年未満)設定。事前レポート、審査・評価を実施。優秀者を選考。大会DVD作成配布。

来場者総数:3,236名

大会ボランティア:223名

後援団体:28団体

協賛企業団体:140社

補助金:鳥取県介護サービスの質の向上支援補助金、第一生命。

## AJCC2015(第6回)



主催:第6回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(20名)

共催:鳥取県

後援:厚生労働省

日程:2015年10月9日(前夜祭)、10月10日(コンテスト)

主会場:鳥取県米子市 米子コンベンションセンター

参加選手数:120名(うち県内27名)

講演:浦上克哉氏(鳥取大学医学部教授)

活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア(6分野)。A部門(5年以上)B部門(5年未満)設定。事前レポート、審査・評価を実施。優秀者を選考。大会DVD作成配布。

来場者総数:3,150名

大会ボランティア:125名

後援団体:28団体

協賛企業団体:159社

補助金:鳥取県介護サービスの質の向上支援補助金

## AJCC2014(第5回)



主催: 第5回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(21名)

共催: 鳥取県

後援: 厚生労働省

日程: 2014年10月17日(前夜祭)、10月18日(コンテスト)

主会場: 鳥取県米子市 米子コンベンションセンター

参加選手数: 119名 (うち県内32名)

講演: 東内京一氏(埼玉県和光市保健福祉部長)

活動内容: 認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア(6分野)。A部門(5年以上)B部門(5年未満)設定。事前レポート、審査・評価を実施。優秀者を選考。大会DVD作成配布。

来場者総数: 3,010名

大会ボランティア: 135名

後援団体: 28団体

協賛企業団体: 157社

補助金: 鳥取県介護サービスの質の向上支援補助金

## AJCC2013(第4回)



主催: 第4回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(20名)

共催: 鳥取県

後援: 厚生労働省

日程: 2013年11月11日(前夜祭)、11月12日(コンテスト)

主会場: 鳥取県米子市 米子コンベンションセンター

参加選手数: 120名 (うち県内27名)

講演: 上野秀樹氏(社会福祉法人ロザリオ聖母の会)、マリアンネ・ドウエ氏(コリング市(デンマーク)在宅介護課長)

活動内容: 認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア(6分野)。事前レポート、審査・評価を実施。優秀者を選考。大会DVD作成配布。

来場者総数: 2,719名

大会ボランティア: 140名

後援団体: 29団体

協賛企業団体: 159社

補助金: 鳥取県介護サービスの質の向上支援補助金

## AJCC2012(第3回)



第3回  
http://www.ajcc.info  
オールジャパン  
ケアコンテスト  
入場無料

全国の首の舟上と  
地域との繋がりを目指して

2012/10/2  
米子コンベンションセンター

認知症 食事 入浴 排泄 看取り 口腔ケア

コンテスト参加者募集  
介護士等(介護福祉士・ホームヘルパー・看護職員) 5,000円

講演 石飛幸三氏  
【早寝死を考える】

主催 第3回オールジャパンコンテスト実行委員会 事務局 鳥取県 社会福祉法人こうほうえん

主催:第3回オールジャパンケアコンテスト実行委員会(20名)

共催:鳥取県

後援:厚生労働省

日程:2012年10月1日(前夜祭)、10月2日(コンテスト)

主会場:鳥取県米子市 米子コンベンションセンター

参加選手数:108名(うち県内36名)

講演:石飛幸三氏(世田谷区「芦花ホーム」常勤医)

活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・看取り・口腔ケア(6分野)。事前レポート、審査・評価を実施。優秀者を選考。予選、本選形式導入。大会DVD作成配布。

来場者総数:2,700名

大会ボランティア:119名

後援団体:29団体

協賛企業団体:139社

補助金:鳥取県「支え愛」体制作り事業費補助金

## AJCC2011(第2回)



オールジャパン  
ケアコンテスト  
第2回

認知症 食事 入浴 排泄 ターミナルケア  
の5分野別実技・ディスカッションを行い、審査評価を実施し  
優秀者を選考します

平成22年11月15日(日)  
12:00~ 地域の晩餐会とライブ  
13:00~ オープニング  
14:00~ 記念講演  
鳥江 祥 (社会福祉法人こうほうえん理事長)  
会場 夢みなとタワー (鳥取県境港市内港25-3 090 http://www.yumenatostar.jp)

平成23年11月16日(日)  
9:30~ 開会式  
10:00~ 記念講演  
藤上 克哉氏 (鳥取大学医学部教授)  
11:30~ 閉会・ディスカッション

主催 第2回オールジャパンコンテスト実行委員会 事務局 鳥取県 社会福祉法人こうほうえん

主催:社会福祉法人こうほうえん

日程:2011年11月15日(前日祭)、11月16日(コンテスト)

主会場:鳥取県境港市 夢みなとタワー

参加選手数:70名(うち県内24名)

講演:浦上克哉氏(鳥取大学医学部教授)

活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・看取り(5分野)。審査・評価を実施。優秀者を選考。

## AJCC2010(第1回)

主催:特定非営利活動法人なごみの里

(柴田久美子:一般社団法人日本看取り士会 会長)

日程:2010年11月10日(前夜祭)、11月11日(コンテスト)

主会場:鳥根県出雲市 出雲体育館

参加選手:58名

講演:遠藤英俊氏(国立長寿医療センター包括診療部長)

活動内容:認知症・食事・入浴・排泄・ターミナルケア(5分野)。審査・評価を実施。優秀者を選考。

補助金:日本財団助成

## 第3章

# 選手及び選手派遣事業所等の活動とその成果

～選手及び選手派遣事業所等アンケート・ヒアリング結果から～

本章では、AJCC2024（第14回）大会参加の選手及び選手派遣事業所（含む動画投稿養成校）を対象に実施したアンケート及びヒアリング結果に基づき、ケアコンテストにおける参加選手・派遣事業所等の具体的活動に焦点を当て、その成果について分析・検討する。

## 1. 選手の活動とその成果

～選手アンケート及びヒアリングの結果から～

140人の競技参加選手を対象にケアコンテスト前後のアンケート結果及びケアコンテスト当日の実技終了後選手ヒアリングを行った。実施内容は以下の通りである。

### ■アンケート及びヒアリング調査の実施

選手アンケート（コンテスト前）調査 （以下、「選手事前アンケート」と言う）	・選手140名を対象とするWebアンケート。 ・7月26日に発信し8月4日までの回答。 ・有効回答率は77.9%。
選手ヒアリング（コンテスト実技後）調査 （以下、「選手実技後ヒアリング」と言う）	・ケアコンテスト分野・部門各1名以上。 ・専門調査員による直接ヒアリング ・8月6日のケアコンテスト当日（実技終了選手を対象） ・31名に声掛け全員が応諾。有効回答率100%。
選手アンケート（コンテスト後）調査 （以下、「選手事後アンケート」と言う）	・選手140名を対象とするWebアンケート。 ・8月20日に発信し8月30日までの回答。 ・有効回答率47.9%。

\*自由回答については、主な回答について親和性を基準にカテゴリー区分した結果である。

\*各アンケート及びヒアリングの集計図表では、Web集計の番号・質問項目をそのまま表記した。

本報告書の巻末に参考資料として掲載したアンケート及びヒアリング用紙を参照して欲しい。

### (1) 参加選手の属性

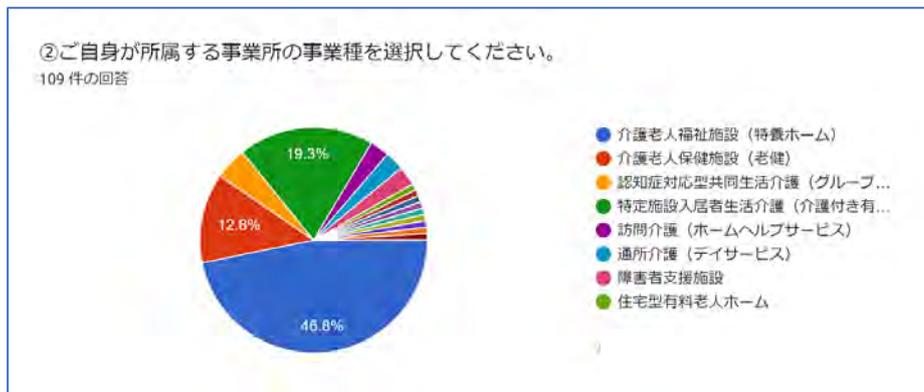
選手の属性について、所属事業種、年齢階層、介護職としての経験年数、介護に関する保有資格、組織上の立場職等についてのデータを取得した。

選手の年齢階層は、20歳代が39.4%、30歳代が33%、40歳代が20.2%の3世代が中心。介護職とし

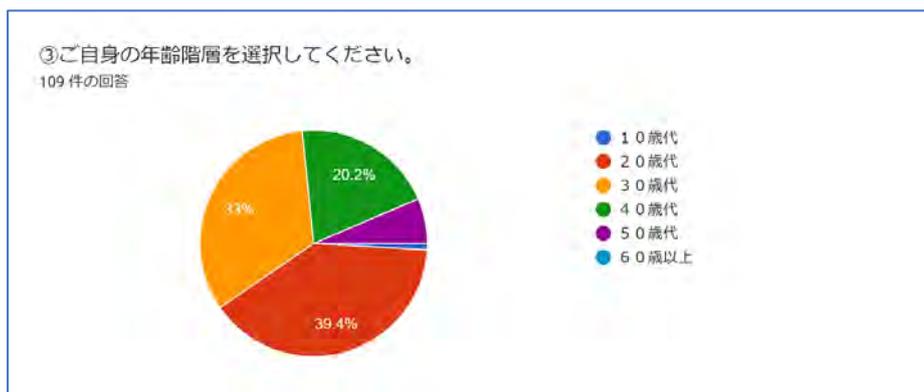
ての経験年数は、10年以上が最も多く33.9%、5年以上10年未満が27.5%、3年以上5年未満及び3年未満が共に19.3%であった。選手の79.8%が介護福祉士資格の保有者であった。

また、選手の所属法人・事業所内での組織上の立場については、「中堅職員(概ね3年以上)」が36.7%、「チームリーダー等指導的立場」が27.5%、「初任者(3年未満)」が23.9%であった。

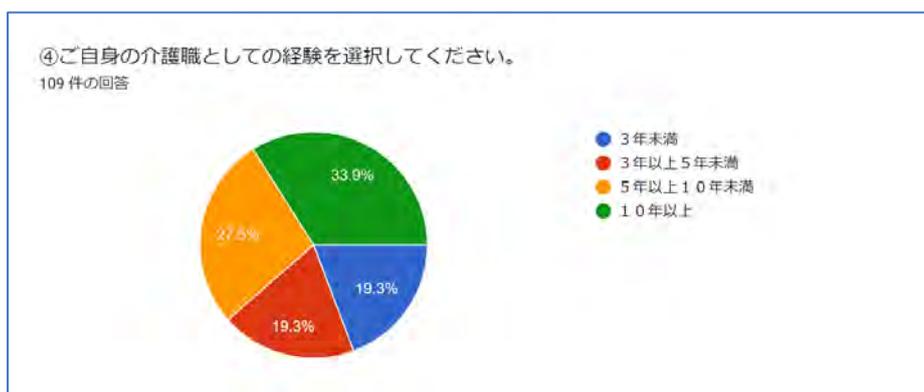
### ① 所属事業所の事業種別（「選手事前アンケート」結果）



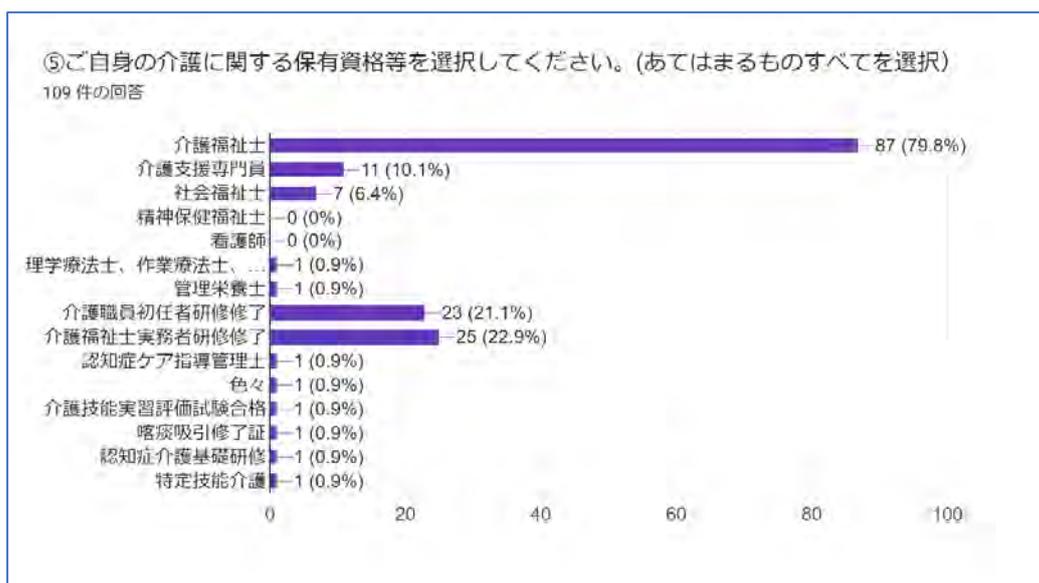
### ② 年齢階層（「選手事前アンケート」結果）



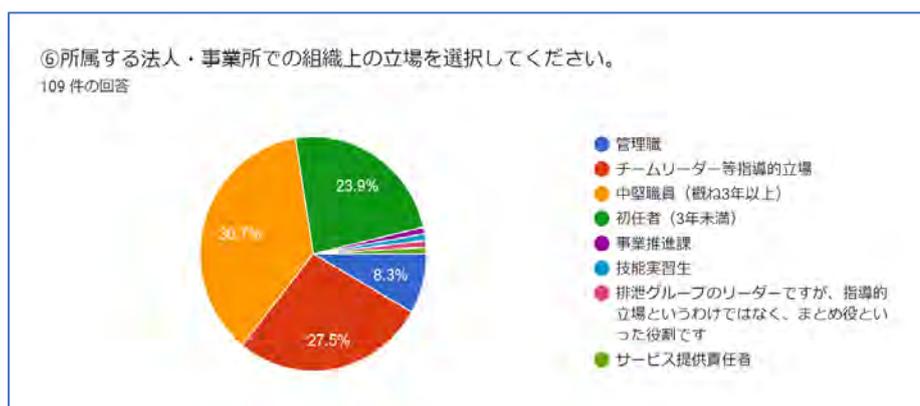
### ③ 介護職としての経験年数（「選手事前アンケート」結果）



#### ④ 介護に関する保有資格（「選手事前アンケート」結果）



#### ⑤ 所属法人・事業所における組織上の立場（「選手事前アンケート」結果）



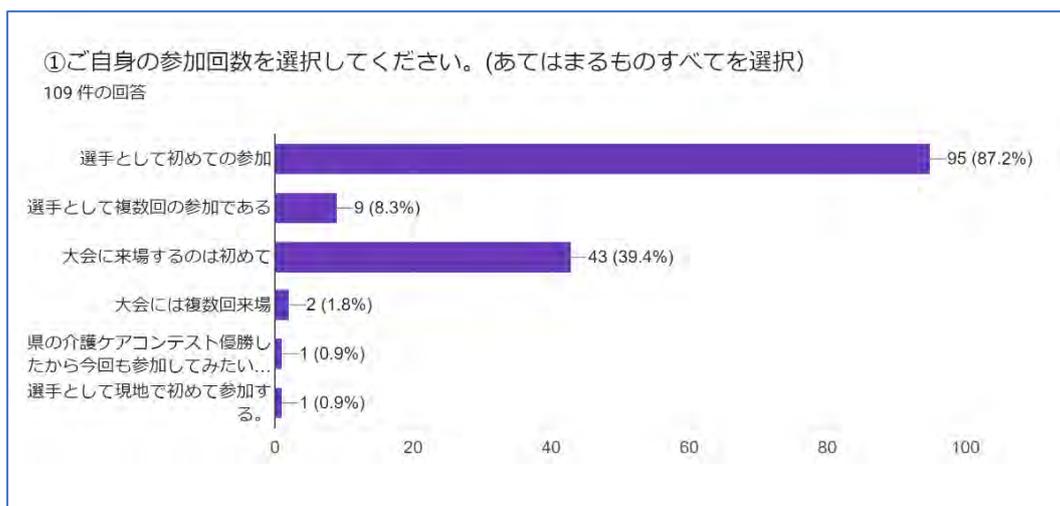
## (2) 参加回数・動機

選手の参加回数については、「選手として初めての参加」が87.2%、「選手として複数回の参加」が8.3%であった。「大会に来場するのが初めて」の回答が39.4%であった。

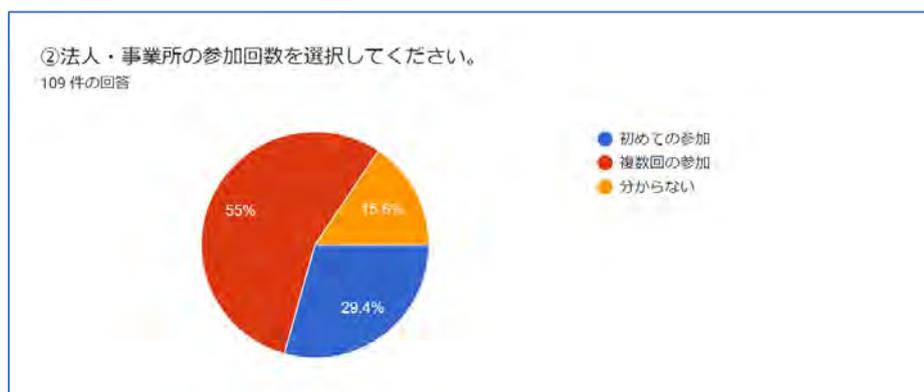
法人・事業所の参加回数については、「複数回参加している」との認識が55%、「初めての参加」が29%であった。また、本大会（第14回）への参加選手数は、「2～3人の参加」が54.1%、「4人以上の参加」が16.5%、「1人の参加」が22.9%であった。

大会への参加動機については、「上司の推薦（または指示）」が65.1%でもっとも多く、「事業所の推薦（または指示）」が22%であった。複数回答として「自発的意思」による参加が41.3%と高い水準になっている。

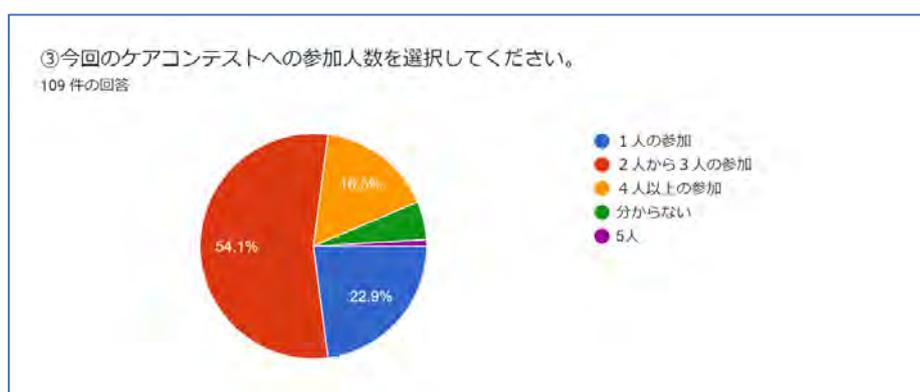
① ケアコンテストへの参加回数（「選手事前アンケート」結果）



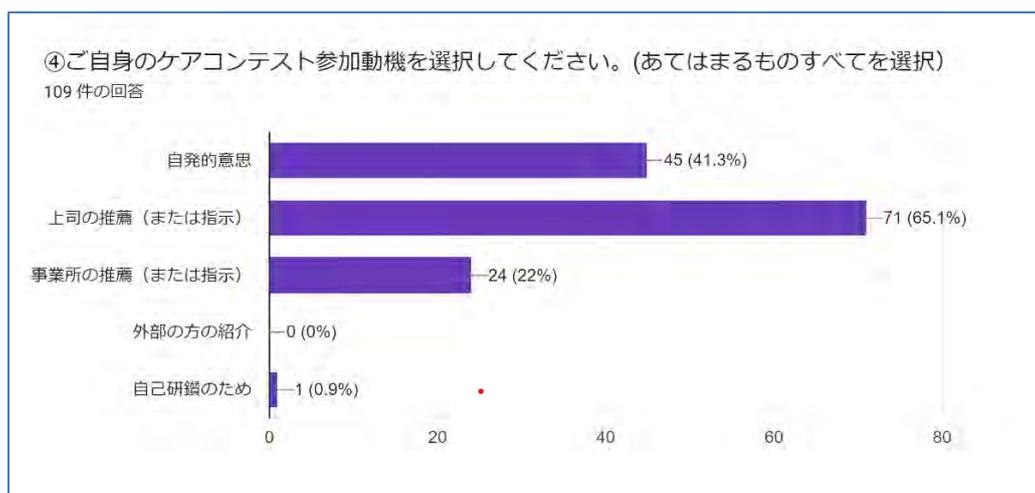
② 法人としての参加回数（「選手事前アンケート」結果）



③ 今回のケアコンテストへの参加人数（「選手事前アンケート」結果）



#### ④ 参加の動機（「選手事前アンケート」結果）



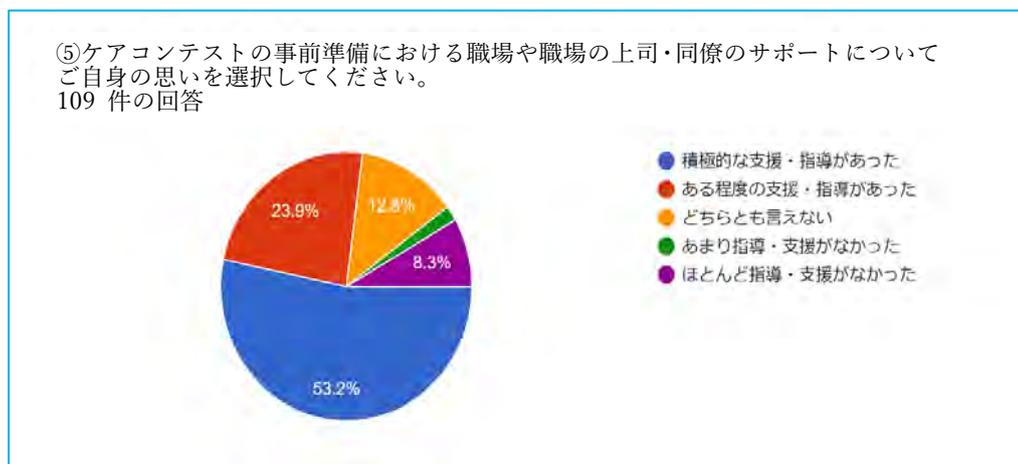
### (3) 事前準備

事前準備の活動について「選手事前アンケート」の結果でみると、職場や職場の上司・同僚から「積極的な支援・指導があった」が53.2%、「ある程度の支援・指導があった」が23.9%であった。

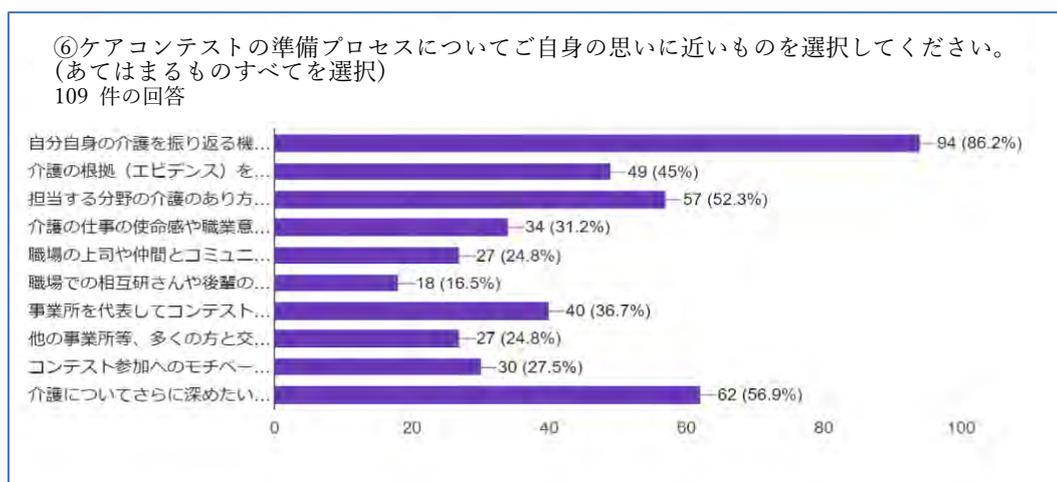
また、事前準備のプロセスの成果としては、「自分自身の介護を振り返る機会になった」86.2%、「介護についてさらに深めたいと思うようになった」56.9%、「担当する分野の介護にあり方について深めることができた」52.3%、「介護の根拠（エビデンス）を考えるようになった」45%、「事業所を代表してコンテストに参加する責任感が芽生えた」36.7%、「介護の仕事の使命感や職業意識を自覚するようになった」31.2%などがあげられた。

「コンテストへの意気込み」（自由回答）は、事前準備のプロセスを通じて形成されたものと思われる。選手事後アンケートの結果では、「十分事前準備をすることができた」16.4%、「ある程度事前準備をすることができた」38.8%、「どちらとも言えない」14.9%、「あまり事前準備ができなかった」20.9%になった。事前準備活動の重要性が認識される。

#### ① 事前準備と職場のサポート（「選手事前アンケート」結果）



## ② 事前準備プロセスでの取り組み（「選手事前アンケート」結果）



## ③ 事前準備プロセスでの体験・エピソード(主な回答)（「選手事前アンケート」結果）

### i. 基礎知識と技術の再確認

- ・実務者研修の教科書やノートを読み返し、基本の大事さを再認識した。
- ・介護技術の再確認を行った。
- ・介護福祉士の実技試験を思い出し、初心に帰ることができた。
- ・認知症の方とのコミュニケーション方法をシミュレーションし、改善点を見つけた。
- ・課題の内容を何度も読み返し、利用者のためにできることを考えた。
- ・認知症の方への対応方法を学び直した。
- ・基本を振り返る時間を持ち、技術の向上につなげた。

### ii. 自己成長と反省の振り返り

- ・自分自身の介護姿勢を振り返る良い機会となった。
- ・実技に取り組む中で、自身の成長を実感した。
- ・介護の仕事を改めて見つめ直すきっかけになった。
- ・他職員の姿勢や技術から学ぶ機会を得た。
- ・自分が行っているケアを振り返り、根拠を再考することで成長を感じた。
- ・利用者への声かけや対応方法を振り返り、改善のきっかけを得た。
- ・他の職員との意見交換や情報共有を通じて、自分の介護方法を見直す機会となった。
- ・施設長やリーダーの指導により苦手な部分を克服した。

### iii. 職場との協力とチームワーク

- ・上司や同僚に実技の想定課題を見てもらい、アドバイスを受ける機会が多かった。
- ・一緒に参加する職員や主任と話し合いの場を設け、協力体制を築いた。
- ・多くの職員と協力し、介助の正解を模索する中で日々のケアを振り返った。
- ・職場の同僚や上司とのコミュニケーションが増え、良い関係を築いた。

- ・他のスタッフと連携する機会が増え、職場全体の協力体制が強化された。
- ・職場の応援によってモチベーションが高まった。

#### iv. 課題への準備と取り組み

- ・課題に対して何度も練習し、利用者や家族の想いを考える機会とした。
- ・事前にレポートを作成し、課題に対する取り組みや意識を再確認した。
- ・設定課題に基づき、利用者に合ったケアの方法を工夫した。
- ・課題の疾病について調べ、知識を増やす機会とした。
- ・設定モデルの感情や場面を考え、チームでディスカッションした。
- ・施設全体で応援体制を整え、準備を進めた。

#### v. 利用者に対するケアの向き合い方

- ・看取りケアの振り返りや対応方法を学び直した。
- ・利用者の残存能力を活かす介護について考える機会となった。
- ・利用者の生活歴や背景を丁寧に仮説立て、関係を築くプロセスを再確認した。
- ・認知症の方への食事介助について、拒否反応への対応を考えた。
- ・入居者の持病や看取りの準備の重要性を再認識した。
- ・食事に関する取り組みを再確認し、根拠を再考する機会となった。
- ・利用者への声かけや対応について再度考え直した。

#### vi. モチベーション向上と責任感

- ・指名されて参加することで意欲が高まったが、周りからの援助が少ないことに寂しさを感じた。
- ・自分自身のために「やらされている感覚」を払拭し、しっかり準備を進めた。
- ・職場の張り紙や声かけにより、モチベーションが向上した。
- ・ケアコンテストへの参加を通じて、自分の成長と挑戦の機会を得た。
- ・職場の代表として責任を感じ、できる限りの努力をすることを決意した。
- ・応援の声や上司からのアドバイスを受け、意欲的に準備を進めた。
- ・コンテストへの挑戦を通じて、多方面からのフィードバックを受けた。

#### vii. さらなる準備の必要性（改善点）

- ・シミュレーションの順番に迷うことが多く、工夫しながら準備を進めた。
- ・設定課題の難しさを感じつつ、工夫しながら取り組んだ。
- ・課題に対する声かけや介助の仕方を学び直し、改善した。
- ・自分のケアを振り返ることで、「これで良いのか？」と疑問を持つ場面が多かった。
- ・課題の内容に対して、もっと調査や練習が必要だと感じた。
- ・設定されたモデルや課題の複雑さに対する対応が不十分だと感じた。
- ・他の職員との情報共有がまだ十分でないと感じ、もっと連携を深める必要を感じた。
- ・レポートや課題に対する考察が足りず、さらなる準備が必要だと認識した。
- ・緊張の中で、準備不足を感じた部分があり、改めて改善の余地があると感じた。
- ・他の参加者との意見交換や準備に対してもっと時間をかけたかった。

#### ④ ケアコンテストへの直前の意気込み(主な回答) (「選手事前アンケート」結果)

##### i. 今までやってきた介護を、自信をもって見せたい

- ・自分の持っている知識や技術を活かしたい。
- ・今までやってきた介護を、自信を持って見せたい。
- ・緊張しっぱなしですが、いい意味でこの緊張感を吸収しながら自己成長につなげたい。
- ・初めての参加で緊張していますが、普段通りにできれば嬉しい。
- ・コンテストで学んだことを仕事に活かしていきたいと思います。
- ・初心に帰ることをテーマにして頑張ります。
- ・精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

##### ii. 技術向上への挑戦

- ・他の施設からの良いケアを参考にして職場に持ち帰りたい。
- ・自分の技術を最大限に引き出せるよう頑張ります。
- ・他の参加者から刺激をもらい、自分の技術を高めたい。
- ・他者の技術を学び、介護の天才に少しでも近づきたい。
- ・いろいろな施設の方との交流を通じて良いケアの方法を見つけたい。
- ・技術を吸収して、自分の成長につなげたい。
- ・初めての参加ですが、技術向上のため全力を尽くします。

##### iii. チームワークへの思い

- ・一緒に参加する同僚と頑張りたいと思います。
- ・同僚と事前練習を行い、チームとして最高の結果を目指します。
- ・事業所や地域に持ち帰って学びを共有していきたい。
- ・他の職員と協力して頑張りたいと思います。
- ・上司や同僚から学んだことを活かして頑張ります。
- ・チームとしての成果を発揮し、事業所に貢献したい。

##### iv. 利用者への思い

- ・その人らしい支援を表現できるように頑張ります。
- ・利用者さん中心で行い、声掛けを大切にします。
- ・利用者が私のケアで安心し、心地良いと感じていただけるよう頑張ります。
- ・設定課題の利用者様に安心した生活を提供するために全力を尽くします。
- ・自分のケアが利用者にとって安心できるものとなるように頑張ります。
- ・日頃のケアを思い出し、利用者に最善を尽くしたい。

##### v. 学びと発見への期待

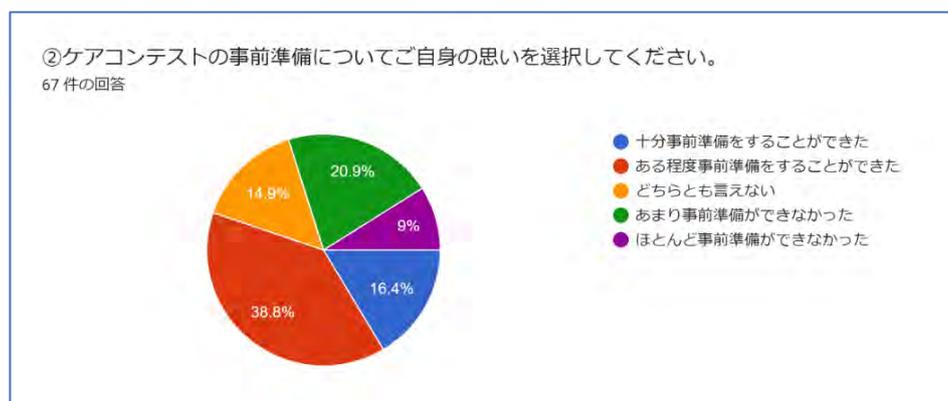
- ・コンテストに出ることでモチベーションが上がり、他施設の技術を学びたい。
- ・様々な方の実技を見て、自分にはないものを吸収して帰りたいです。
- ・他の介護者の技術を見て、学びを職場に持ち帰りたい。
- ・他の参加者の技術を見て自分の介護観を深めたい。

- ・自分が持っていない技術や知識を多くの参加者から学びたい。
- ・自分の技術を評価してもらうことで、成長の糧にしたい。

#### vi. 入賞への意気込み

- ・賞を取って仕事のモチベーションにつなげたい。
- ・コンテストで優勝を目指して頑張ります。
- ・自分の目標である「介護の天才」に近づけるように頑張ります。
- ・優勝して事業所や地域に貢献したい。
- ・今までの経験を活かし、全力で結果を出したい。
- ・チャンピオンになりたいという強い思いを持っています。

#### ⑤ 事前準備の振り返り（「選手事後アンケート」結果）



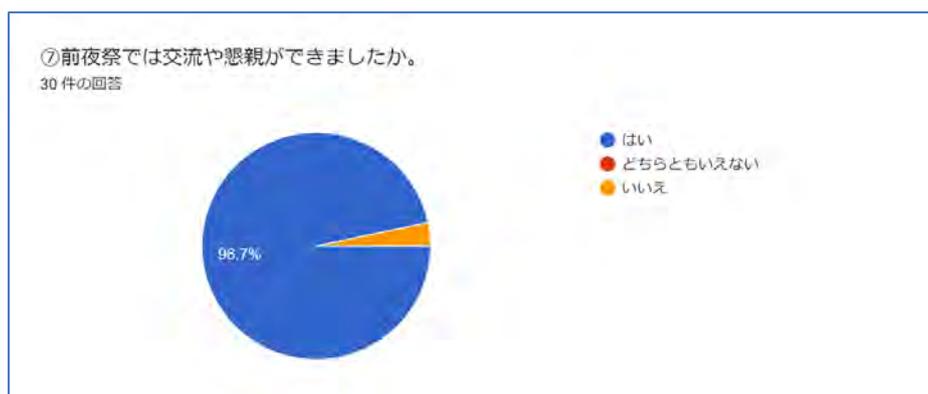
#### (4) 前夜祭

前夜祭は大会前日の夜に行われた。7つの分野別にA・B部門に分かれて選手10人と2人のアドバイザーが同じテーブルに着席し、自己紹介を行い、ケアコンテスト本番に向けて交流と意見交換を行う機会と場である。食事を取りながらのパーティ形式でフランクな交流が行われている。ケアコンテストで競い合う相手ではあるが、同じ設定課題について実技を行う仲間としての一体感が生まれるようで、活発なコミュニケーションが行われる。

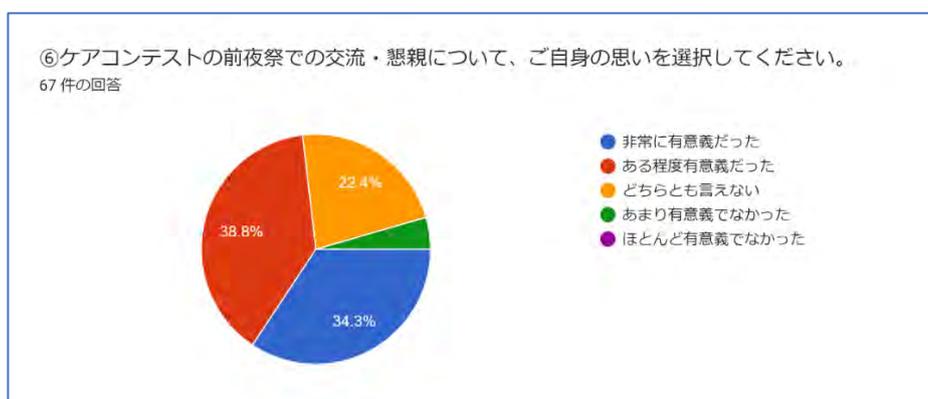
「選手ヒアリング結果」では、前夜祭に参加できなかったという選手を除き、すべてのヒアリング対象選手が「交流・懇親ができた」と回答している。また、「選手事後アンケート結果」でも、73.1%の選手が「有益だった」と答えている。

前夜祭を通じて交流の意義は、「選手ヒアリング」結果の自由回答から読み取ることができる。とくに、外国人介護分野の選手にとって、前夜祭が貴重な交流・懇親の場となっていることは分かる。

① 前夜祭で交流はできたか（「選手ヒアリングート」結果）



② 前夜祭での交流の意義について（「選手事後アンケート」結果）



③ 前夜祭に関する自由意見(主な意見)（「選手ヒアリング」結果）

i. 交流とネットワーキング

- ・自分の国の人だけでなくインドネシアやネパールやフィリピンの方と交流ができた。今朝も会場で声をかけてくれて嬉しかった。
- ・友達になっていろいろな方と介護の仕事の話しができた。その人たちと「介護は優しくしないとね」と話しをした。
- ・他の施設の方と、世間話ができ、リラックスすることができた。
- ・初めての方ともたくさん話ができ良かった。
- ・施設以外の方と交流ができてよかった。

ii. 緊張の克服と初対面の体験

- ・アドバイザーの方からも助言がありました。交流会が始まったときには、緊張していましたが、徐々に慣れて、食事も摂ることができました。
- ・自分は石川県から来ました。選手宣誓もすることなど、緊張しましたが、皆さんがいろいろ話をしてくれたので交流できました。

- ・隣りの人と話せたことで、会場に来て気持ちも落ち着いた。

### iii. 知識・情報交換

- ・他の職場の人々との情報交換ができて良かったです。
- ・同じ分野の方と話ができて意見交換ができました。
- ・同じテーブルの方だけでなく、他のテーブルの方とも話げできた。事業所の話が聞けた。なかなか他の事業所の話を聞く機会が無いので貴重だった。

### iv. 交流の楽しさ

- ・周りの人と話せて交流でき楽しかった。
- ・昨年参加していたので知っている人もいて楽しかった。
- ・ミャンマー人の友達ができて嬉しかった。おいしいものも食べて特にフルーツがおいしかった。
- ・他のテーブルと比べ人数が少なかったので密に話げできて良かった。

### v. 不参加

- ・前もって知りたかった。問い合わせ先もわからず参加できなかった。

## (5) ケアコンテストの実技

ケアコンテストの実技は、「認知症」「食事」「入浴」「排泄」「看取り」「口腔ケア」「外国人介護職員」の7つの分野について、実務経験6年以上のA部門、6年未満のB部門の14のブースで行われた。各分野・部門別の設定課題の状態にある高齢者役（利用者役）に対する介護を10分間の実技として実施するものである。

コンテストにおける評価の公平性を担保するため、選手は自身の実技が終わるまでは同一の設定課題の他の選手の実技を見学することができないルールで行われる。（各ブースの設定課題は午前、午後で異なるものが提示されている）。

コンテストの実技での実力の発揮について、「選手事後アンケート」でみると、「十分実力を発揮できた」が19.4%、「ある程度実力を発揮できた」が37.3%、「どちらとも言えない」が20.9%、「あまり実力を発揮できなかった」が14.9%であった。

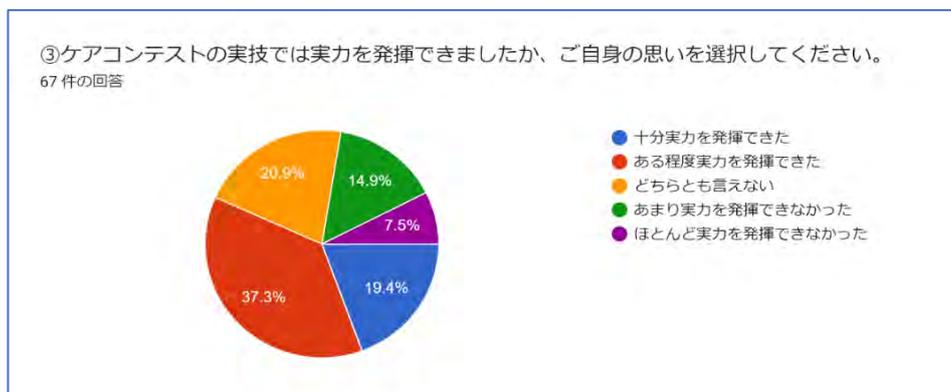
他の選手の実技の観戦については、「非常に参考になった」が70.1%、「ある程度参考になった」が23.9%で、「参考になった」という比率が94%であった。「選手ヒアリング」結果で「どちらとも言えない」が44%と高い比率になっているのは、自身の実技が終わるまでは同一の設定課題の実技を見学することができないというルールの結果である。

コンテスト参加経験を通じての成果については、「自身の介護を振り返り、見直す機会になった」92.5%、「相互研さんで介護技術の向上になった」53.7%、「介護についてさらに深めたいと思うようになった」52.2%、「担当する分野の介護のあり方について深めることができた」41.8%、「仕事についてのモチベーションが高まった」38.8%などがあげられた。「ケアコンテスト参加で感じた体験、エピソード」等に関する自由回答の内容はその詳細を示すものである。

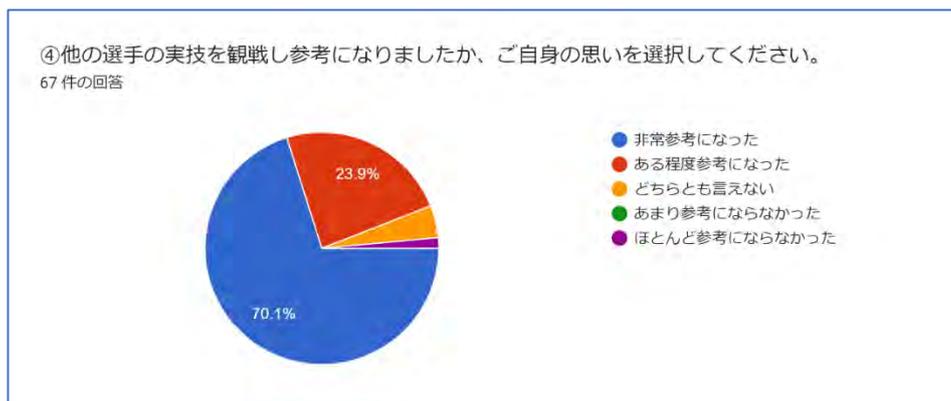
コンテスト参加選手の満足度は、「大いに満足している」44.8%、「満足している」34.3%、「どちらと

も言えない」19.4%であった。

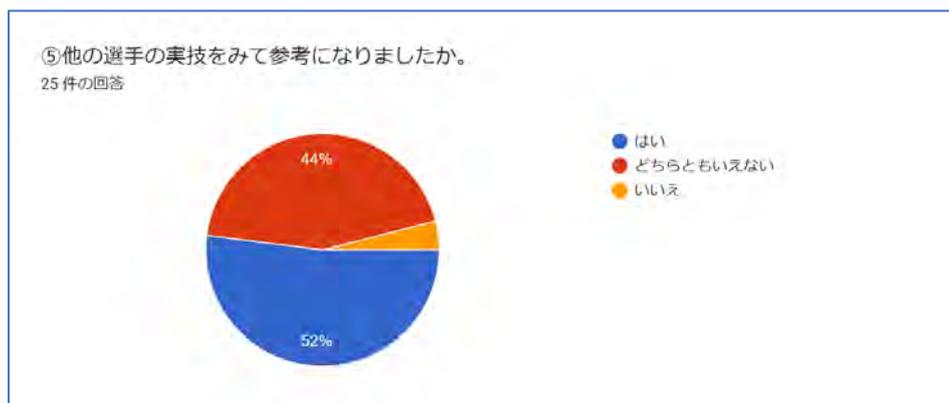
### ① コンテストでの実力の発揮（「選手事後アンケート」結果）



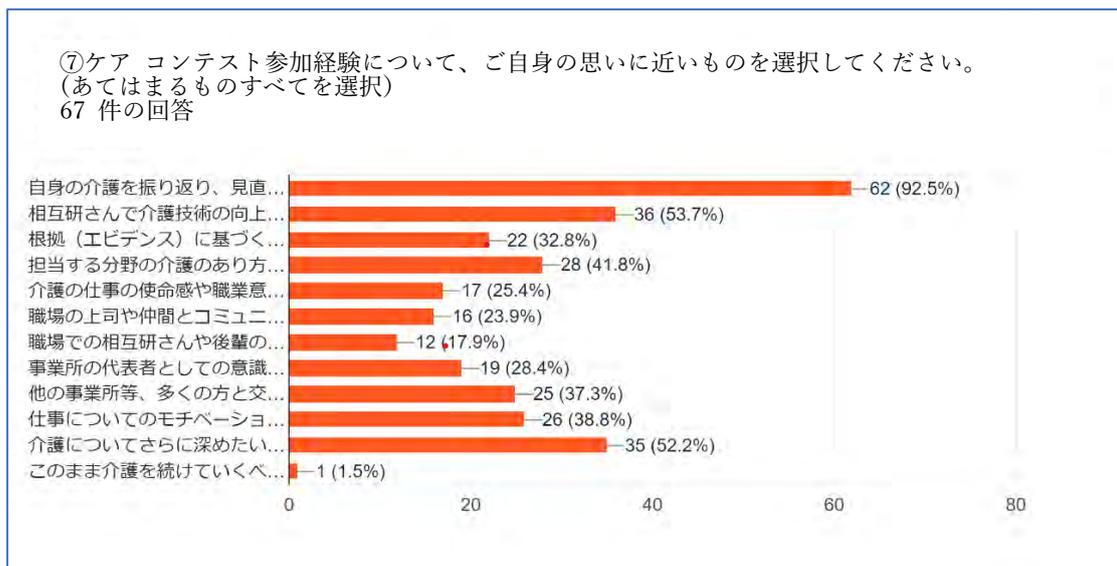
### ② 他の選手の実技の観戦して（「選手事後アンケート」結果）



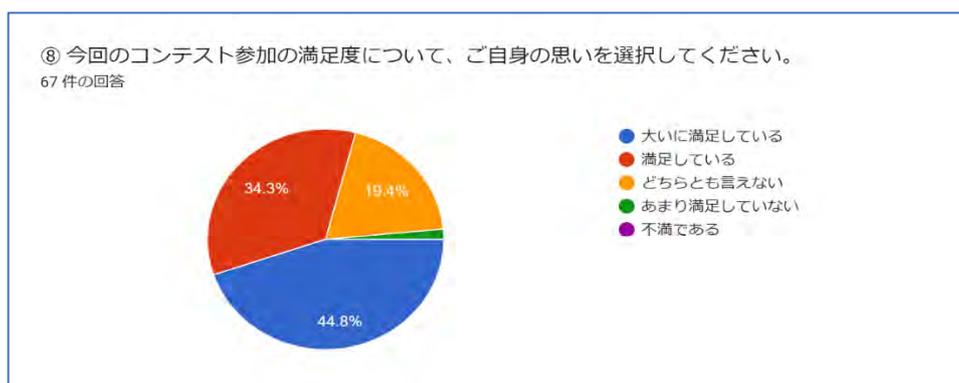
### ■ 他の選手の実技をみて参考になったか（「選手ヒアリング」結果）



### ③ コンテスト参加経験の成果（「選手事後アンケート」結果）



### ④ コンテスト参加の満足度（「選手事後アンケート」結果）



### ⑤ ケアコンテスト参加で感じた体験・エピソード(主な回答)（「選手事後アンケート」結果）

#### i. 新たな出会いと刺激的な交流

- ・全国の介護者と交流でき有意義だった。また、自分のケアの足りないところに気づいた。
- ・他県の方と交流し、お互いの施設について話すことができ楽しかった。
- ・他法人の方と交流する機会があり、とても刺激になった。
- ・若い方の参加が多く、刺激を受けた。
- ・前夜祭やコンテスト会場で知り合った職員と話す機会ができ、すごく良かった。
- ・他の会社のスタッフと触れ合うことで勉強になり、自社の介護との違いを感じ、自己研鑽につながった。

#### ii. 技術向上と新たな学び

- ・他職種の方のありがたみがよくわかった。

- ・介護の手順や注意点などを改めて見直す機会となった。
- ・他の参加者の実技を見て、自分の介護技術を見直すことができ良い経験になった。
- ・入浴介助で「背中とは下から上へ洗う」ということを学び、勉強になった。
- ・各分野の人のやり方や考え方が参考になった。

### iii. 挑戦と達成感

- ・とても緊張しましたが、同じくらい楽しめました。
- ・初めての参加で緊張しましたが、事前に何度も練習してきたことをしっかりと出せたと思います。
- ・見学に来ていた方や同じ分野の選手からもすごく良かったという言葉をもらい、すごく嬉しかったです。
- ・前日から緊張していましたが、当日も広い会場で緊張したものの、落ち着いて行えたことが良い思い出になりました。
- ・普段通りの対応が出来たと思います。

### iv. 成長の実感と自己肯定感

- ・ケアコンテストで得た学びと経験が、介護技術と自己成長に大いに役立ちました。
- ・他の参加者の実技を見て自分たちでは考えつかなかったケアの方法や声の掛け方を学ぶことができ本当に勉強になりました。
- ・学びが多く、今後のモチベーションアップにつながったので、是非もう一度参加したいと思いました。
- ・アドバイザーやモデルの方から多くのお褒めの言葉をいただき、自分の介護への姿勢に自信が持てました。
- ・自分が不得意なところを、他の参加者の実技を見ることで多方面のやり方を身につけました。

### v. 振り返りと次へのステップ

- ・自身の準備不足であったことに後悔し、他の参加者のモチベーションの高さに感心させられました。
- ・制限時間を考えてもっと細かくケア手順を組み立てることができなかつたのが悔しく、心残り。
- ・練習が足りなかつたので、もっと練習が必要だと感じました。
- ・これからも介護の質の向上を目指し、日々取り組んでいこうと思いました。

### vi. 介護への情熱

- ・参加者全員が真剣に課題に取り組んで実技をしている姿に感動しました。
- ・開会式で 100 人を超える参加者がいて、自分と同じように介護に対して熱い思いを持っている人がこんなにいると知り、介護の仕事の素晴らしさを改めて感じました。
- ・他の参加者の実技を見て参考になり、刺激を受けました。
- ・初めて出会った利用者にも、その場に応じて対応することが一番印象に残りました。
- ・みなさんが緊張している中で、お互いに「頑張りましょう」と声をかけ合う温かい空間でした。

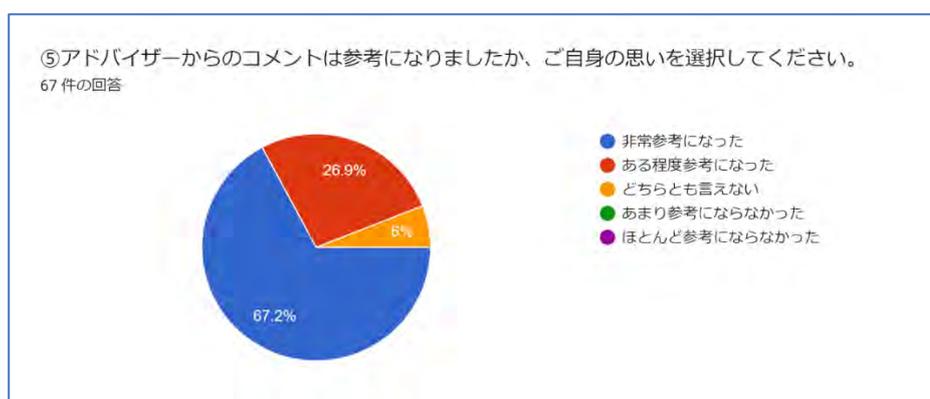
## (6) アドバイザーコメント

ケアコンテストでは、分野・部門別の各ブースに2人の専門家がアドバイザーとして参加しており、各選手の実技終了後に評価とアドバイザーからのフィードバックコメントが行われる。

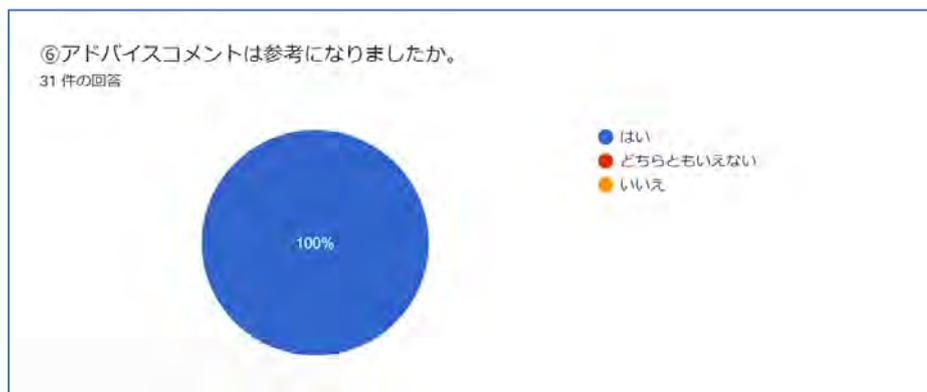
アドバイザーコメントについては、「選手事後アンケート」結果でみると、「非常に参考になった」が67.2%、「ある程度参考になった」26.9%であった。「選手ヒアリング」結果では、31人のヒアリング対象の全員が「参考になった」との回答であった。

「選手ヒアリング」の自由回答では、その具体的な内容があげられている。ケアコンテストにおけるアドバイザーの評価とアドバイザーコメントが、重要な意味をもっていることが分かる。

### ① アドバイザーコメントは参考になったか（「選手事後アンケート」結果）



### ■ アドバイザーコメントは参考になったか（「選手ヒアリング」結果）



### ② アドバイザーコメントに関する自由意見(主な回答)（「選手ヒアリング」結果）

#### i. 具体的なアドバイスが非常に参考になった

- ・利用者に対してカウントダウンではなくカウントアップの数え方の方が良いなど具体的にアドバイスしてもらい参考になった。

- ・一つひとつのケアの後に褒めることをしっかりやり、意欲を引き出すなど具体的なアドバイスをもらった。
- ・例えば、歩き回っている利用者の前に立って話をしているときには圧迫感があったが、椅子に座った後かやは落ち着いた様子があった。出会いの部分大切にすると、さらに良かったと思います。あるいは、帰りたい気持ちを聞いているところが良かったなどの助言がありました。
- ・利用者役の人が、ひまわりの花を観てみたい気持ちになったとか、疲れ具合などを聞いてくれて良かったと話してくれたのでほっとしました。また、助言者から、本人の力を引き出し待つことができ上手だと思いました。入室した時に、トイレ内を確認したことが良かった。など、好評を得ることができました。一方で、体調確認をきちんとした方が良かったと言われたので、これらの助言を今後の仕事に活かしていきたいと思います。
- ・自分では気づかない、良いところを教えてもらったことが良かったです、今後に繋げたいと思います。
- ・緊張してあまり出なかった笑顔についてと、この状況では手を伸ばすと良いなど、具体的な身体介助を伝えてもらったので、大いに参考になった。

#### ii. ポイントを押さえたアドバイス、改善点が明確に

- ・助言して頂いたところは、ポイントをおさえての話でしたので参考になりました。
- ・周りにアドバイザーの立場の人がいないため、どのように立ち上がりができるか、イメージだけでなく利用者の目線を入れたかったが、それが学べて、すごく参考になった。
- ・大切にしている安定姿勢を褒めてもらった。排泄介助後に匂い防止のためにバケツのふたをするのを忘れたことを教えてもらった。
- ・普段はウトウトしている利用者さんは軽く肩をたたいて起こすが、テーブルをたたいて「コンコン」とその音で起こすこと。

#### iii. 具体的な改善点や気づきを得られた

- ・自分がいつもしていない所を助言してもらったので、今後気にかけていきたいと思います。例えば、入室の際のあいさつとか、ベッドに近づいたときの合図など、利用者に関心があることを伝えることが必要だということを理解できました。
- ・できていないと思っていたところを、根拠を持って説明してもらえることで理解が得られ、次から活かしていきたいと思った。
- ・利用者のやりたいようにするだけでなく、安全面だけでなく、どこまでやれるか考えてみると良いと言われてよかった。
- ・自分が、気が付いたところを指摘してもらった。清潔不潔の指摘などあった。
- ・すごく参考になった。右麻痺の方なので右側に注意していたが左側を注意していなかったこと。
- ・利用者さんへの安全確保。
- ・排泄介助中に利用者さんの側を離れるときは、声かけするようにアドバイスをもらった。勉強になった。

#### iv. アドバイスは厳しかったが有意義

- ・コメント厳しい。勉強になった。

- ・無意識で手袋をして物を触ってしまっていたくせ、準備不足の指摘、安全を優先してケアする基本、できなかった声かけ等、良い面と悪い面のアドバイスがあり信頼できると思った。また、利用者役の方からも、的確なアドバイスがもられた。
- ・心不全の利用者の心臓への負担を留意点とともに教わった。
- ・短期記憶ができないなど。改めて理解ができました。

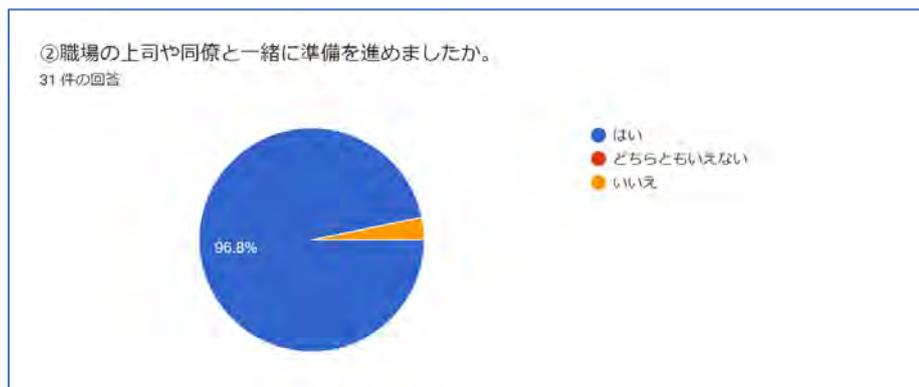
#### v. さらなる学びの参考に

- ・普段から介護の後には「大丈夫ですか」と声をかけるようにしているがそれは信頼関係につながると褒められた。
- ・自分では気づかなかった部分や、日常的に行っていない細かい部分を助言してもらえて、今後の改善点として参考にしたい。

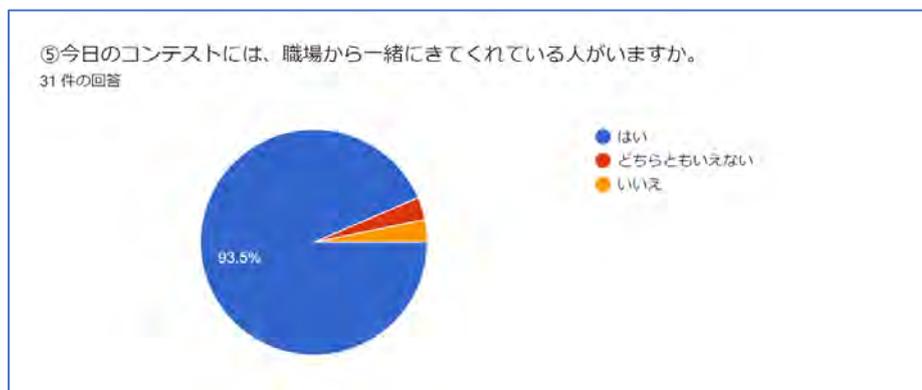
## (7) 職場での関係性

ケアコンテストにおける職場の同僚・上司との関係については、「一緒に準備をすすめた」「コンテストと一緒に来てくれた」との回答がほとんどであった。また、「普段と違う関係が出来た」が71%であった。

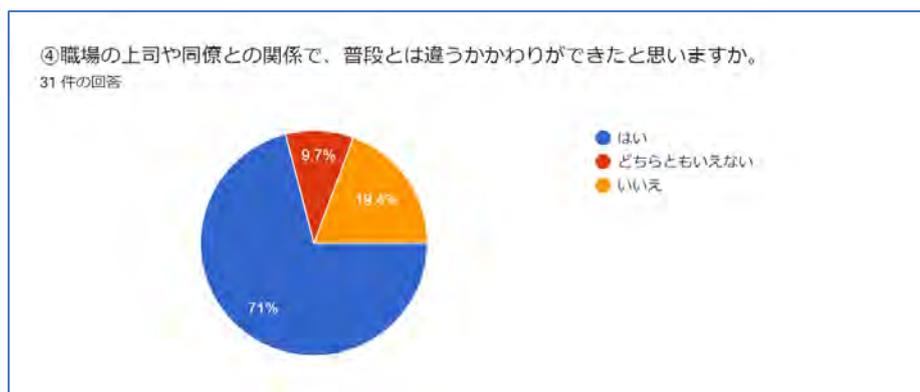
### ① 同僚や上司と一緒に準備をすすめたか（「選手ヒアリング」結果）



### ② 今回のケアコンテストと一緒に来てくれている人は（「選手ヒアリング」結果）



### ③ 職場の同僚や上司と普段と違う関係が出来たか（「選手ヒアリング」結果）



## (8) ケアコンテストの意義

ケアコンテスト開催の意義について、「選手事前アンケート」の結果は、法人・事業所の代表として出場が決まり、コンテストの事前準備を終えた段階での選手の意向である。準備活動での成果とともに、ケアコンテストへの期待を表現するものである。一方、「選手事後アンケート」の結果は、事前準備プロセスを含めて、前夜祭での交流やコンテストでの実技体験、アドバイザーによる評価とフィードバックのコメント、さらに大会後の職場での報告や伝達等のプロセスを終えた段階での意向であり、すべての活動の成果を表現するものである。

実施時期や異なる背景でのアンケートではあるが、結果をみると、両アンケートとも積極的な回答が多く、共通する内容になっている。本項については、あえて共通のカテゴリー項目名で整理した。AJCCの活動の成果と認識することができる。

### ① ケアコンテストの意義の認識（主な回答）（「選手事前アンケート」結果）

#### i. 振り返りと自己成長の機会

- ・一つの環境に留まるだけでは成長できないため、自己成長や振り返る機会として意義を感じている。
- ・自分のケアを振り返り、基礎に立ち返ることで、介護の質を向上させたいと考えている。
- ・普段の介護を改めて見直し、日々の答え合わせができる機会として有意義であると感じている。
- ・今までの技術がどこまで通用するのかを確認し、さらに能力を高める場と感じた。
- ・自分自身の介護を振り返り、意識を向上させる機会として重要だと感じている。
- ・ケアコンテストを通じて、日々の業務を振り返る機会になる。
- ・自分の努力や技術を試し、今後の成長につなげる良い機会。
- ・普段の仕事を振り返り、根拠に基づいた介護を意識できる場。
- ・井の中の蛙感を実感し、新たな視点を獲得する場だと感じる。

- ・自身の援助を振り返り、日々の答え合わせができる場である。

## ii. 他者との交流と学び合いの場

- ・他の施設や事業所の介護を見ることで、新しい視点を得る良い機会であると感じている。
- ・全国から集まる選手と交流し、介護の未来について話し合える場として貴重である。
- ・他の参加者と切磋琢磨しながら学び合える空間であり、大いに刺激を受けた。
- ・外部施設との交流は限られているため、他者の介護を学ぶ貴重な機会であると感じた。
- ・初めての参加者同士で交流を深めることで、共に学びを得られる場である。
- ・全国規模のコンテストで、同じ目的や思いを持つ人々と交流できる場。
- ・介護業界が閉鎖的にならないために、他法人との交流の場として意義がある。
- ・他の法人との交流や、業務で活かせる学びを得られる場だと感じる。
- ・近隣施設との交流はあるが、全国的な規模の交流は貴重な経験である。
- ・同じ職種の仲間としてお互いを高め合い、介護について知ってもらう機会。
- ・介護技術を学び、他者と交流しながらスキルアップを図る良い場である。

## iii. 介護技術向上への挑戦

- ・介護技術を高めるために、他者の実技を見たり、指摘を受けたりする機会は非常に有意義である。
- ・制限時間内でのケア手順を再確認し、自分の技術を磨く場であると感じた。
- ・自分の介護技術を他者に評価してもらうことが少ない中で、フィードバックを得られる重要な場である。
- ・自分のケアを確認し合い、技術を高めるためのモチベーションになった。
- ・コンテストを通じて介護技術を見直し、向上させることができる機会。
- ・他の人の技術を学び、自身の技術を試す場として意義がある。
- ・切磋琢磨しながら技術を磨く意識を持たせてくれる場だと感じる。
- ・自分の技術を見てもらい、周りの技術も学ぶことができる楽しみな場。
- ・自分のスキルが評価され、さらに向上するための機会である。
- ・自分自身の介護技術を見直し、成長の機会となる場だと感じる。
- ・点数を取るための介護ではなく、他法人と技術を確認し合う場として有意義。

## iv. 介護の姿勢・マインドの確認

- ・利用者の尊厳を守り、その人らしさを大切に介護を見直す機会である。
- ・利用者の思いや希望を考え続けることの大切さを再認識する場だと感じる。
- ・ケアの仕方を振り返り、自分の介護に向き合う良い機会だと感じる。
- ・自身の援助を振り返り、日々のケアに対して答え合わせができる場だと感じる。
- ・利用者のために何ができるかを考える機会として、コンテストに意義を感じる。
- ・日々のケアを振り返り、根拠に基づいた介護を意識できるようになる場。
- ・入居者目線に立つ基本姿勢を再確認する場として有意義であると感じた。
- ・支援軸や法人理念を振り返ることで、介護の質をさらに高める重要性を実感した。
- ・利用者に対してどのように向き合うかを考える良い機会となった。

- ・利用者の尊厳を守るケアをどう実現するかを再確認する契機となった。
- ・参加者やアドバイザーの意見を聞き、日々の支援の質を見直すきっかけとなった。

#### v. 介護の仕事のイメージアップ

- ・コンテストがあることで介護業界が注目され、介護のイメージアップにつながる。
- ・介護技術が向上することで、介護業界全体の成長に寄与すると感じる。
- ・日本の未来の介護技術の向上に繋がり、業界全体の発展に貢献できる場だと感じる。
- ・介護業界を盛り上げるために、こういった取り組みが必要だと感じる。
- ・介護のイメージ向上や技術発展のために重要な場である。
- ・ケアコンテストを通じて介護の未来に貢献し、業界の発展につながると感じる。
- ・全国規模で介護技術が披露される場として、介護業界の注目度が高まると感じた。
- ・他者に介護の重要性を伝え、介護職の地位向上につながる取り組みだと感じる。
- ・介護業界の閉鎖的なイメージを払拭するために意義深いイベントである。
- ・介護職の専門性や重要性を社会に示す機会として非常に重要である。
- ・介護のイメージアップを通じて業界全体の未来を明るくする取り組みだと感じた。

### ② ケアコンテストについての感想(主な回答) (「選手事後アンケート」結果)

#### i. 振り返りと自己成長の機会

- ・自分の介護技術に足りない部分を見つけることができ、成長の必要性を感じた。
- ・普段の介護を改めて振り返り、自分のケアを見直す有意義な時間となった。
- ・ケアコンテストで得た学びと経験が、介護技術と自己成長に大いに役立つ。
- ・他の参加者の実技を見て学び、多様な方法を取り入れるきっかけとなった。
- ・制限時間内での手順を計画しきれなかったことが心残りであり、改善の余地を感じた。
- ・練習不足を痛感し、もっと準備を整える必要があると感じた。

#### ii. 他者との交流と学び合いの場

- ・他法人や他施設の方々と直接触れ合い、情報交換ができたことが良い刺激となった。
- ・他県の方と交流でき、お互いの施設について話すことができ有益だった。
- ・同じ課題を共有し、意見を交わすことで、多くの学びを得ることができた。
- ・若手参加者の熱意や姿勢に触れることで、自身も刺激を受けた。
- ・前夜祭や会場で知り合った選手との交流が特に印象深かった。
- ・他の参加者の工夫やアプローチを学び、自分のケアに活かすことができた。
- ・他の参加者の実技を見て刺激を受け、参考になった。

#### iii. 介護技術向上への挑戦

- ・アドバイザーからのフィードバックを受け、技術向上に向けた改善点が明確になった。
- ・他参加者の実技や工夫を見ることで、新たな技術を吸収することができた。
- ・入浴介助など、具体的なケア手順について新たな学びが得られた。

- ・普段は考えつかないアプローチ方法を知ることができ、大いに参考になった。
- ・実技を披露する場で、これまでの練習の成果を試す貴重な経験を得た。
- ・介護技術に対する自信と誇りを持つことができた。
- ・今回の参加で、自分ももっと介護の質の向上に日々取り組んでいこうと思った。

#### iv. 介護の姿勢・マインドの確認

- ・介護の基本姿勢を改めて見つめ直し、入居者目線でのケアの重要性を再確認した。
- ・初心を思い出すきっかけとなり、支援のあり方を考え直すことができた。
- ・同じ志を持つ参加者たちと励まし合いながら、意識を高めることができた。
- ・利用者の反応に合わせたケアの大切さを再認識した。
- ・自身の介護に対する姿勢に自信を持つきっかけとなった。
- ・今回の参加で、もっと介護の質の向上に日々取り組んでいこうと思った。
- ・熱い思いを持っている人がこんなにいると知り、介護の仕事の素晴らしさを改めて感じた。

#### v. 介護の仕事のイメージアップ

- ・介護の専門性や重要性を広くアピールする機会となり、業界の地位向上につながると感じた。
- ・利用者役の演技や参加者全体の真剣さが、介護の仕事に対する良い印象を広めた。
- ・有明ビッグサイトの大きな会場でのイベントで、規模感に「すごいな」と率直に感じた
- ・介護業界全体の注目度が高まるような取り組みとして非常に意義がある。
- ・介護職の未来を担う若手の熱意が印象的で、業界の明るい展望を感じた。
- ・コンテストの規模感が、介護職の可能性を広げる契機となると感じた。

#### vi. 改善点と今後への期待

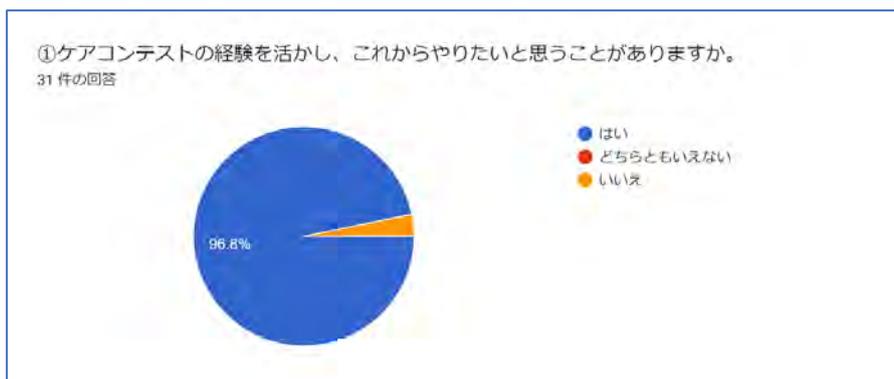
- ・練習時間や準備の不足が目立ち、より時間を確保できる環境が必要だと感じた。
- ・参加者が本来の実力を発揮できるよう、リラックスできる会場作りを期待したい。
- ・より多くの交流機会を設け、参加者同士のつながりを深められるよう工夫してほしい。
- ・初参加者が安心して取り組めるよう、事前サポート体制の強化を望む。
- ・若手だけでなく幅広い世代が参加できるような呼びかけが必要だと感じた。

## (9) これからやりたいこと、介護の仕事観

ケアコンテストの経験を活かし、これからやりたいことについて、「選手ヒアリング」及び「選手事後アンケート」で選手の意向を尋ねた。また、選手の介護の仕事観や介護の仕事について大切にしていることについて確認した。

「選手ヒアリング」では、介護の仕事が好きかという問いについて、31名全員が「好きだ」を答えている。その理由としては、「やりがい・達成感」「利用者との関係」「人を支える喜び」等が挙げられている。この内容は、「選手事前アンケート」の「介護の仕事についての」自由回答、さらに、「選手ヒアリング」での「介護の仕事で大切にしていること」「介護の仕事について」の自由回答などと共通する項目が多い。

① ケアコンテストの経験を活かして、これからやりたいことがあるか(「選手ヒアリング」結果)



② これからやりたいと思うこと(主な回答) (「選手ヒアリング」結果)

**i. 技術の向上と職場での応用**

- ・現場の介護技術を高める。
- ・学んだことを職場に生かしたい。
- ・自分のケアはもちろん、今回得た助言などを職員と共有して、ケアをよくしていきたい。
- ・職場内でも、ロールプレイを取り入れた研修などを行い、お互いの技術を向上していきたい。
- ・利用者への声掛けの重要性、一人ひとりに合わせて自立支援や安全環境を気にかけていきたい。
- ・現場は流れ作業になりやすいが、会話を増やすことや服の脱ぎ着は参考になったので、みんなに伝えたい。
- ・午前中に見学をした入浴介助の方法を活かした介助をしたい。

**ii. 知識の深化と資格取得**

- ・認知症ケアについて学びを深め資格試験に繋がりたいと思います。
- ・ここで学んだことを活かして、リーダーや主任になりたい。
- ・介護福祉士をとること。

**iii. 経験の活用と継続的な挑戦**

- ・アドバイスを受けたことをフィードバックしていきたい。
- ・自分の職場で今日の経験を活かしたい。
- ・来年来る人にバトンを渡し、このコンテストに継続して参加していきたいと思います。
- ・緊張しないように場数を増やし、慣れるためにも他のコンテストに参加したい。堂々とやるべきだった。またケアコンテストに挑戦したいと思う。

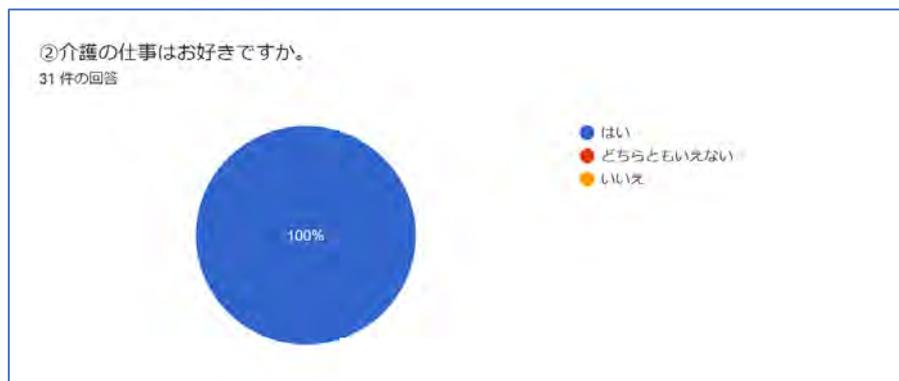
**iv. 人材育成とコミュニケーションの促進**

- ・介護の仕事に就く人材が不足しているので、このようなことがあることを伝えていきたい。
- ・受けたアドバイスを、施設の他の職員と共有していきたい。
- ・物品準備が足りなかったが、再認識する機会になったり、利用者から離れない大切さを感じたりしたため、やりたいと思う。

**v. ケアの改善と自信の強化**

- ・自分の現場は口腔ケアは自立の方が多くが必要に応じて対応できるように準備をしていきたい。
- ・アドバイスをもらい座りなおし方や褒めてもらったことを強みにしたい。
- ・技術の向上、継続、楽しく思える職場づくり。
- ・過介護にならないよう、時間がかかっても、安全の範囲内でやってもらえる介護をしたい。
- ・普段は、省略してしまう言葉かけを増やしていきたいと、練習、本番で思った。
- ・緊張すると間違えてしまうから落ち着いて介護をすることをしていきたい。

### ③ 介護の仕事が好きか（「選手ヒアリング」結果）



### ④ 介護の仕事が好きな理由（「選手ヒアリング」結果）

#### i. やりがい・達成感

- ・利用者の笑顔や感謝がやりがいとなっている。
- ・自分のやったことに素直に返ってきてやりがいになる。
- ・利用者から良い反応がもらえたり、できないことができるようになったことが喜びを感じる。
- ・「ありがとう」と言われたり、日常のあいさつなどで利用者の元気な姿を見ると嬉しい。
- ・便失禁、尿失禁の対応が終わったときの達成感。

#### ii. 利用者との関わり

- ・お年寄りと接することが大好きです。
- ・お年寄りとかかわることでいろいろ教えてもらうことも多いです。
- ・利用者とダイレクトに関わる仕事で、「ありがとう」の数がいっぱいあり、実感しながら働ける。
- ・利用者と同じ時間を過ごせるのがいいと感じる。
- ・利用者さんのできないことを介助するのが好き。

#### iii. 人を支える喜び

- ・相手を幸せにできる。
- ・最期まで関わることができるので。
- ・利用者や家族からの「ありがとう」という感謝の言葉をいただけるので、この方のため頑張ろうと思え、やり甲斐がある。

- ・人の世話をするのが小さい時から好きで、資格を取ってやったら向いていた。
- ・利用者の生活を良くするのも悪くするのも介護職であり、QOLを上げたい。

#### iv. 自分に合っている

- ・自分に合っている。
- ・おばあちゃん子で人の世話をするのが小さい時から好きだった。
- ・好きです。今年で10年になります。楽しいです。
- ・やりがいがあって好きです。
- ・今は好きになりました。

#### v. 成長・学び

- ・身体介護が好きで、他の人の技術を見ることが今後に活かせると思う。
- ・小さい頃から祖母と一緒に、中学生のときに看取った経験が今の仕事につながっているかもしれない。
- ・相手の立場になって考えることが多く、普段の生活にも生きてくる。
- ・支援者としての仕事は好きです（障害者施設で）。

#### vi. 介護の仕事の魅力

- ・もともとは看護師だったが、5年やって好きになってきた。
- ・利用者と接するのが好きで、コミュニケーションをたくさん取ることができる。
- ・サービス業でコミュニケーションが好きだし、利用者から感謝されるから。
- ・しんどい時もあったが、気持ち次第で変わり、今では良い仕事だと思うようにしている。

### ⑤ 介護の仕事について（「選手事前アンケート」結果）

#### i. 人を支える仕事・尊厳の重視

- ・人が人を支えるのは当たり前の姿であり、相手の気持ちや希望、目標を尊重するものと感じる。
- ・介護は、人間らしさやその人らしさを大切に仕事である。
- ・人の尊厳を守ることが大切であり、他の仕事には代えられない。
- ・安全や安心にとらわれず、その人らしい生活を実現することが重要だと感じる。
- ・人の生活に深く関わる仕事であり、介護はその根幹を支える存在だと思う。
- ・ひとつひとつの介助に心を込めることが大切だと実感している。
- ・介護は相手の尊厳を守りながら、社会生活を支える専門的な仕事だと考えている。
- ・利用者へ寄り添い、その人のために最善を尽くすことが大切だと感じる。
- ・人と人とのつながりが深く、他に替えられない価値のある仕事だと感じる。

#### ii. やりがい・達成感

- ・介護はやりがいがあり、達成感を得られる仕事である。
- ・利用者との関わりを通じて、楽しさや喜びを感じる人が多い。
- ・利用者や家族から感謝されることで、仕事に誇りを持つ。

- ・毎日の介護業務を通じて、利用者の生活を支えることでやりがいを感じる。
- ・社会にとって必要不可欠な仕事であり、自分自身も成長できると感じる。
- ・利用者の満足を得ることが、モチベーションを高める要因になっている。
- ・オーダーメイドのケアを行うことで、達成感とやりがいを感じている。
- ・精神的にも肉体的にも大変だが、その分だけやりがいのある仕事だと思う。
- ・利用者を支えるだけでなく、自分も利用者によって支えられていると実感している。

### iii. 成長と学びの場としての介護

- ・介護の仕事を通じて、自分自身の成長を実感している。
- ・認知症ケアなど、専門的な知識を学び続ける必要があり、その学びが成長に繋がる。
- ・日々の仕事を通じて、新しい知識や技術を学ぶことができる。
- ・利用者のニーズに合わせた対応をすることで、柔軟な思考力と技術力を養っている。
- ・介護技術を学び続けることで、さらに良いケアを提供できると感じる。
- ・自分自身のスキルアップが、利用者の QOL 向上に繋がると感じている。
- ・介護の仕事は、常に新しいことを学び続ける必要がある専門的な職業だと感じる。
- ・日々の業務を通じて、専門性が深まり、成長の機会を得ている。

### iv. コミュニケーションの重要性と魅力

- ・介護の仕事は、コミュニケーションが基盤であり、利用者との対話が重要だと感じる。
- ・利用者の話を聞き、その人を理解することが仕事の第一歩であると考えている。
- ・認知症の方との対話やコミュニケーションが、ケアの質を向上させる鍵だと感じている。
- ・利用者との関わりを通じて、信頼関係を築くことがやりがいの一部である。
- ・人と接することが好きな自分にとって、この仕事は非常に魅力的だと感じている。
- ・日々のコミュニケーションを通じて、利用者の変化に気づき、適切な支援ができると実感した。
- ・利用者との信頼関係を築くことが、仕事の大切な部分であると感じる。
- ・コミュニケーション能力が向上することで、介護の質も高まると感じている。

### v. 社会的意義・貢献

- ・介護の仕事は、社会生活の根幹を支える重要な役割を果たしていると感じる。
- ・介護業界は今後ますます重要な存在となり、社会に大きく貢献している。
- ・高齢者だけでなく、障がい者や地域の人々にとっても欠かせない存在だと思う。
- ・日本の将来を支える仕事として、介護は大きな役割を果たしていると感じる。
- ・ミャンマーに帰国して、日本で学んだ介護の知識を広めたいと考えている。
- ・介護を通じて、社会全体に貢献できる仕事であると実感している。
- ・介護の専門性を高め、社会的な課題解決に貢献したいと思っている。
- ・介護職の価値がもっと社会的に評価されるべきだと感じる。

### vi. 介護をめぐる課題（改善点）

- ・人手不足が深刻で、介護職の労働環境が改善されるべきだと感じる。
- ・利用者一人ひとりのニーズに応じたケアを行うために、さらなるスキルが必要だと感じる。
- ・人材育成や待遇改善が今後の介護業界にとって大きな課題である。

- ・介護の仕事が社会的にもっと評価されるべきだと感じている。
- ・認知症ケアや特定の技術について、より多くの学びが必要だと感じている。
- ・ICT やロボット技術の発展により、身体的な負担を軽減したいと感じている。
- ・利用者と職員の心身の健康を守るために、ケアの質を向上させる工夫が必要だと感じる。
- ・介護業界全体での労働環境の改善が急務だと感じている。
- ・社会的な介護職のイメージ改善が、今後の職員確保にとって重要だと考えている。
- ・人手不足が続く中で、今後の介護業界の持続可能性が心配である。

## ⑥ 介護の仕事で大切にしていること（「選手ヒアリング」結果）

### i. 利用者の気持ちや意思の尊重

- ・利用者の気持ち、やりたいことを大切にしている。
- ・利用者の感じていることを利用者の目線で感じる。
- ・利用者の意思を尊重することを大事にしている。利用者が楽しく笑顔で過ごして欲しい。
- ・利用者の意見をよく聞いて対応する。
- ・その人の尊厳、思いを大切にしている。
- ・利用者の話を聞くこと。傾聴・寄り添うこと。やりたいことに沿ってあげたい。
- ・利用者さんの意向を聞くことを大切にしている。認知症の方でも本人にちゃんと確認をするようにしている。

### ii. コミュニケーションと信頼関係

- ・コミュニケーションを大切に丁寧なだけでなく距離を近く。
- ・利用者との人間関係。その人を分かるために、話すことを大切。職員との人間関係も同じ。
- ・コミュニケーションで相手をよく理解しようとするのを大切にしている。そして相手の言っていることが理解できない時は先輩に相談をしている。
- ・「や・ゆ・よ」やさしくゆっくりと余裕をもって、時間に追われないようにしている。
- ・人間関係とそれぞれの国の文化の違いを理解しないと人間関係がうまくいかない。
- ・敵ではない立場で、利用者を導いたり、安心してもらえたりできるような介護。

### iii. 感謝と笑顔の重要性

- ・感謝を言葉で伝える。
- ・笑ってもらえる。笑顔を大切にしている。
- ・一つひとつの声掛けや笑顔を大切にしてい、そうすることで、利用者も笑顔になってくれる。
- ・支援を受けている利用者、支援している職員、相方の笑顔。

### iv. 安全と安心

- ・一番大切にしていることは利用者さんの安心と安全に介助すること。利用者さんが一人のできるように支援をすること（自立支援）。
- ・安全が一番なので、気持ちをリセットして平常心を保つこと。

- ・自尊心を傷つけないように声掛けをすること。

#### v. 利用者本位と組織全体のバランス

- ・利用者・職員・会社は三身一体。全てが良いと思えるように仕事をすることです。
- ・利用者本位だけでは成り立たないと思います。
- ・利用者ファーストを考えています。

#### vi. 気配りと配慮

- ・気遣いをさせないこと。また、自分は体が大きいのでこわいと思われたいようにしたい。
- ・目の前の人をどれだけ幸せにできるか。特性に配慮して介護に生かす。
- ・明るくいることを大切にしている。今は、利用者にきつい人はいないが、何かあってもメンタルで受け止めないようにしている。
- ・他者の家に入るので、物品を丁寧に扱うこと。
- ・気がついたことやわからないことは、みんなに聞いて、それをまた、みんなに伝えていくことを大切にしている。

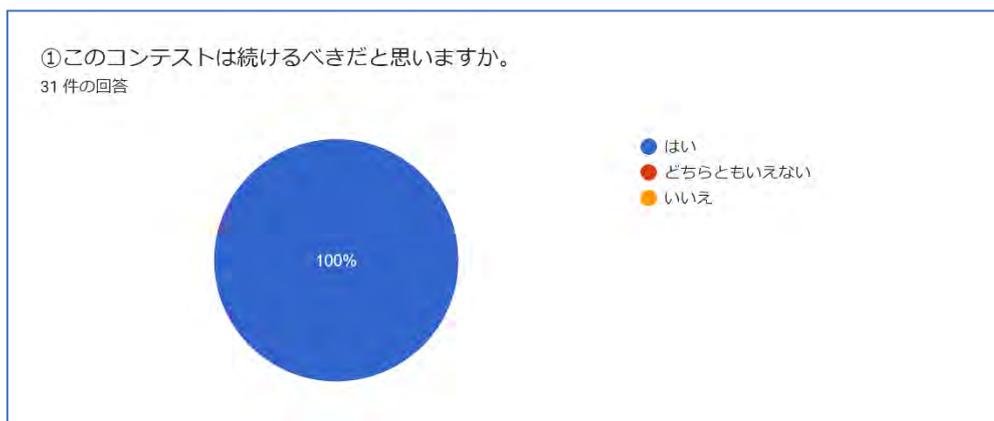
#### vii. 孤立感の解消

- ・年を取ると孤立してしまうことが多い。その孤立感を感じないような介助をこころがけている。
- ・利用者さんの気持ちに寄り添い、ゆっくり話を聞くこと。

## (10) ケアコンテストの継続について

ケアコンテストの継続については、選手アンケート、選手ヒアリング全体から高い意向であることが伺える。「選手ヒアリング」では、「このコンテストは続けるべきだと思いますか」との問いに対して全員が即座に「はい」と答えている。継続を希望する理由について自由回答の内容をpushしておきたい。

### ① ケアコンテストの継続について（「選手ヒアリング」結果）



## ② 継続を希望する理由（「選手ヒアリング」結果）

### i. 技術の向上と職場での応用

- ・現場の介護技術を高める。
- ・学んだことを職場に生かしたい。
- ・自分のケアはもちろん、今回得た助言などを職員と共有し、ケアをよくしていきたいと思う。
- ・職場内でも、ロールプレイを取り入れた研修などを行い、お互いの技術を向上していきたい。
- ・利用者への声掛けの重要性、一人ひとりに合わせて自立支援や安全環境を気にかけていきたい。
- ・現場は流れ作業になりやすいが、会話を増やすことや服の脱ぎ着は参考になったので、みんなに伝えたい。
- ・午前中に見学をした入浴介助の方法を活かした介助をしたい。

### ii. 知識の深化と資格取得

- ・認知症ケアについて学びを深め資格試験に繋がりたいと思う。
- ・ここで学んだことを活かして、リーダーや主任になりたい。
- ・介護福祉士をとること。

### iii. 経験の活用と継続的な挑戦

- ・アドバイスを受けたことをフィードバックしていきたい。
- ・自分の職場で今日の経験を活かしたい。
- ・来年来る人にバトンを渡し、このコンテストに継続して参加していきたいと思う。
- ・緊張しないように場数を増やし、慣れるためにも他のコンテストに参加したい。堂々とやるべきだった。またケアコンテストに挑戦したいと思う。

### iv. 人材育成とコミュニケーションの促進

- ・介護の仕事に就く人材が不足しているので、このようなことがあることを伝えていきたい。
- ・受けたアドバイスを、施設の他の職員と共有していきたい。
- ・物品準備が足りなかったが、再認識する機会になったり、利用者から離れない大切さを感じたりしたため、やりたいと思う。

### v. ケアの改善と自信の強化

- ・自分の現場は口腔ケアは自立の方が多いが必要に応じて対応できるように準備をしていきたい。
- ・アドバイスをもらい、座りなおし方や褒めてもらったことを強みにしたい。
- ・技術の向上、継続、楽しく思える職場づくり。
- ・過介護にならないよう、時間がかかっても、安全の範囲内でやってもらえる介護をしたい。
- ・普段は、省略してしまう言葉かけを増やしていきたいと、練習、本番で思った。
- ・緊張すると間違えてしまうから落ち着いて介護をすることをしていきたい。

## 2. 選手派遣事業所等の活動と成果

### ～選手派遣事業所アンケート調査結果から

選手派遣事業所及び動画投稿養成校に対するアンケートを行った。実施内容は以下の通りである。

#### ■アンケート及びヒアリング調査の実施

選手派遣事業所アンケート (以下、「選手派遣事業所アンケート」と言う)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手派遣事業所を対象とする Web アンケート。</li> <li>・8月20日に発信し8月30日までの回答。</li> <li>・有効回答事業所は35件。</li> </ul>
動画投稿養成校アンケート調査 (以下、「動画投稿養成校アンケート」と言う)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画投稿養成校を対象とする Web アンケート。</li> <li>・8月20日に発信し8月30日までの回答。</li> <li>・有効回答事業所は7件。</li> </ul>
来場者アンケート調査 (以下、「来場者アンケート」と言う)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者を対象とする用紙及び Web アンケート。</li> <li>・8月6日の第14回大会会場において実施。</li> <li>・有効回答者数は、212人 (Web93人、用紙119人)。</li> </ul>

\* 自由回答については、主な回答について親和性を基準にカテゴリー区分した結果である。

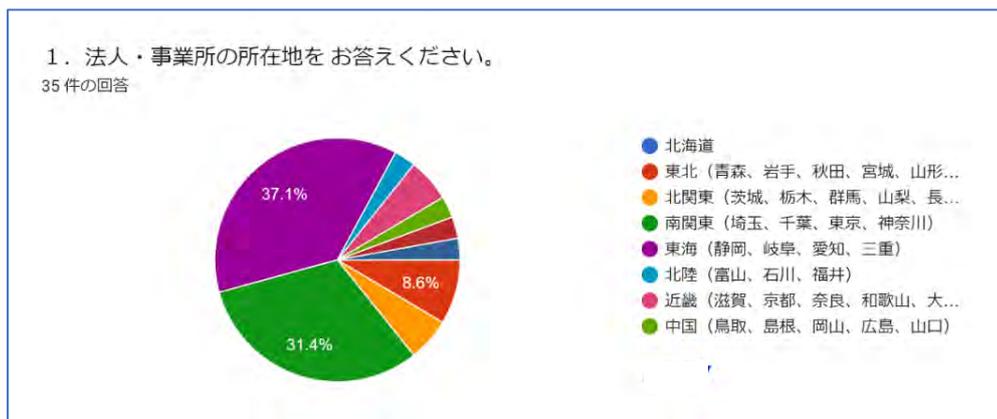
\* 各アンケート及びヒアリングの集計図表では、Web集計の番号・質問項目をそのまま表記した。

本報告書の巻末に参考資料として掲載したアンケート及びヒアリング用紙を参照して欲しい。

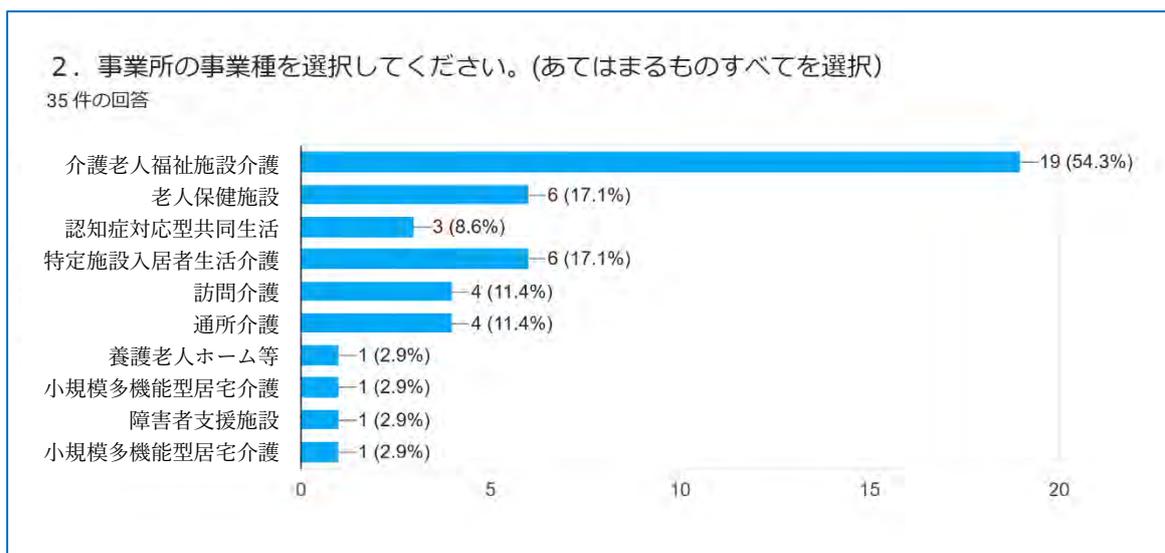
### (1) 選手派遣事業所の属性

選手派遣事業所について、事業種、参加回数等についてのデータを取得した。参加事業所の所在地は、東海が37.1%、南関東が31.4%となっており、2地区に集中している。事業所種別は、介護老人福祉施設が54.3%、介護老人保健施設17.1%、特定施設入居者生活介護17.1%。参加回数については、2回以上5回未満が48.6%、初めての参加が37.1%、5回以上10回未満が11.4%の順になっている。

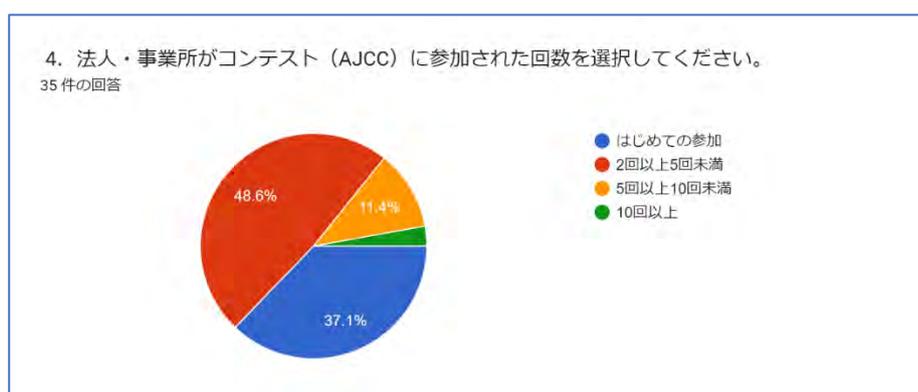
#### ① 法人・事業所としての参加回数（「選手派遣事業所アンケート」結果）



## ② 選手派遣事業所の事業種別（「選手派遣事業所アンケート」結果）



## ③ 参加回数（「選手派遣事業所アンケート」結果）



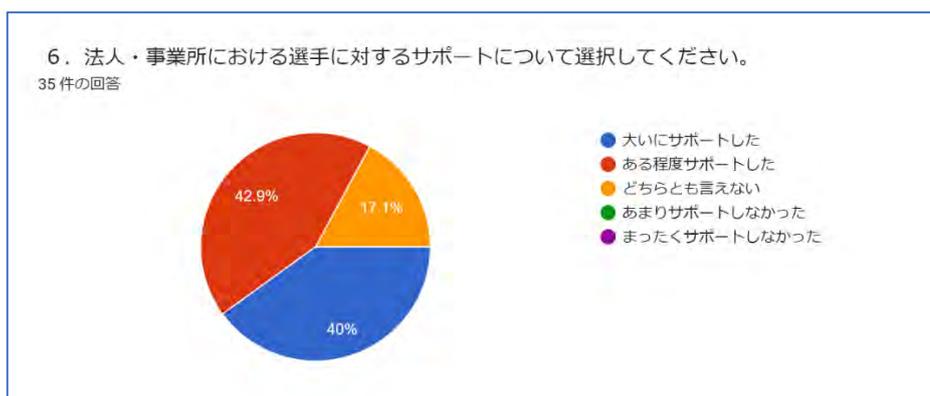
## (2) 選手へのサポート

法人・事業所における参加選手へのサポートについては、「大いにサポートしている」が40%、「ある程度サポートしている」が42.9%、「どちらとも言えない」が17.1%であった。

サポートの内容としては、「技術指導と助言」「練習環境の整備と時間の確保」「メンタルサポートと応援体制」「経費等のサポート」「チーム全体での取組み」等のカテゴリーで整理できる項目が上がっている。

多くは職場ぐるみで支援・指導を行っていることが分かる。

### ① サポートの程度（「選手派遣事業所アンケート」結果）



### ③ 具体的なサポート内容（「選手派遣事業所アンケート」結果）

#### i. 技術指導や助言

- ・ 事前レポートのチェックや技術指導を行った。
- ・ 課題に対しての技術指導や介護技術の練習、指導を進めた。
- ・ 技術アドバイスや実技内容の解釈、考え方の助言を行った。
- ・ 課題に対する助言とシミュレーションを繰り返し、介助のポイントや留意点を確認した。
- ・ 事例検討の支援や事前レポートについての指導を実施した。

#### ii. 練習環境整備と時間の確保

- ・ 施設内での練習のためにスケジュールを調整し、練習時間を確保した。
- ・ 事前情報を基に実践訓練や模擬訓練を繰り返しサポートした。
- ・ 法人のサポート部署と相談しながら、何度か実技練習を行った。
- ・ 実技練習についてチームで設定課題に取り組み、リーダーを中心に内容の確認や助言を行った。

#### iii. メンタルサポートと応援体制

- ・ 練習時にメンタル面でのサポートを行い、選手が安心して参加できるようシフト調整をした。
- ・ 同期職員を中心に、当日課題の分析や練習と一緒に取り組み、当日は応援体制を整えた。
- ・ メンタルサポートを重視し、選手が自信を持てるように時間をかけて支援した。

#### iv. 経費等のサポート

- ・ 当日の給与補償を行い、事前の練習時間も全て仕事扱いとした。
- ・ 参加費用、交通費、宿泊費を全額負担した。
- ・ 練習や宿泊先の手配を行い、選手が万全の態勢で参加できるよう支援した。

#### v. チーム全体での取り組み

- ・ 法人全体での支援体制を構築し、選手の成功に向けてチーム全体でサポートを行った。
- ・ 課題に取り組むにあたり、介護課長やユニットリーダーも一緒に介助のポイントを再確認し、シミュレーションを行った。
- ・ チーム内でリーダーを中心に支援内容の確認や助言を行い、多方面からアドバイスを行った。

### (3) コンテスト開催の意義

選手派遣事業所としてケアコンテスト開催の意義について、自由回答で尋ねた。職員の成長や技術向上という事業体の内的側面での意義とともに、介護の社会的認識、業界全体のイメージの向上、地域貢献等が挙げられている。

#### ■ ケアコンテストの開催意義について（「選手派遣事業所アンケート」結果）

##### i. 職員の成長と技術向上

- ・ケアコンテストに参加することで、参加選手のやる気や介護技術が向上し、その結果として事業所の介護職員の技術も向上した。
- ・アドバイザーからの助言や他者の評価を受けて、職員が自信を持つようになり、介護技術の振り返りにも役立った。
- ・全国の他施設の介護技術を見学し、職員にとって自分のケアを見直す良い機会となった。

##### ii. 事業所全体の技術向上とチーム強化

- ・コンテストに向けて、事業所内でチームで課題を検討し、実技練習を行ったことで、職員同士が協力しながら技術を磨いた。
- ・参加することで職員の技術が高まり、その成果が事業所全体に良い影響を与えたと感じる。
- ・チームでの取り組みが、職員間の連携や協力体制を強化する良い機会になった。

##### iii. 介護の社会的認識とアピール効果

- ・ケアコンテストはエンターテイメント的要素があり、業界外へのアピールとして意味があった。
- ・介護の社会的認識が広がり、福祉業界の魅力を再認識する場となった。
- ・他施設との交流を通じて、業界全体のつながりを深めるきっかけにもなった。

##### iv. 職員のモチベーションとやる気向上

- ・優秀賞などの表彰によって、職員のモチベーションが高まり、自信につながった。
- ・職員がコンテストを目標にすることで、日常業務に対するやる気が向上した。
- ・コンテストへの参加が、職員のやりがいやスキルアップにつながったと感じた。

##### v. 利用者へのサービス向上と信頼感の強化

- ・コンテストを通じて、介護技術が向上し、それが利用者へのサービスの改善にも役立った。
- ・介護技術の向上により、利用者やその家族からの信頼感が高まった。
- ・ケアを受ける利用者や家族に対して、安心感を与えることができたと感じた。

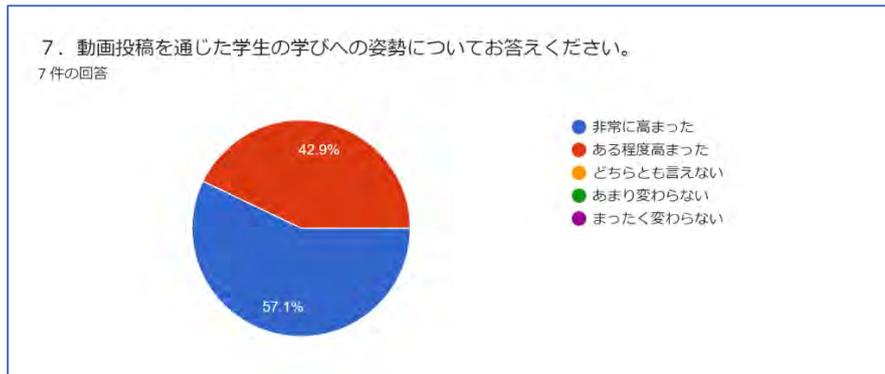
##### vi. 業界全体のレベルアップと地域貢献

- ・ケアコンテストを通じて、全国の介護職員との交流ができ、技術の学びが多かった。
- ・事業所内での経験を共有し、地域社会や他の施設に技術向上を広めていきたい。
- ・ケアコンテストが業界全体のレベルアップや社会的な認知度向上に寄与していると感じた。

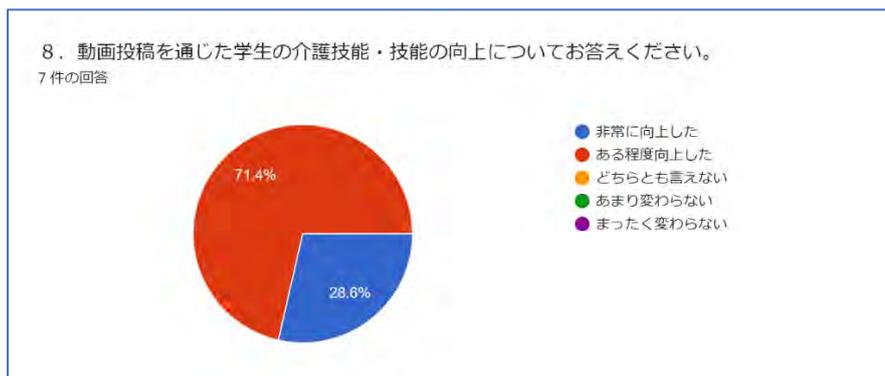
## <動画投稿養成校アンケート調査の結果から>

ここでは、動画投稿養成校養成校の活動と成果について、アンケート結果をみておく。第14回大会の参加養成校は9校、動画投稿本数は39本であった。

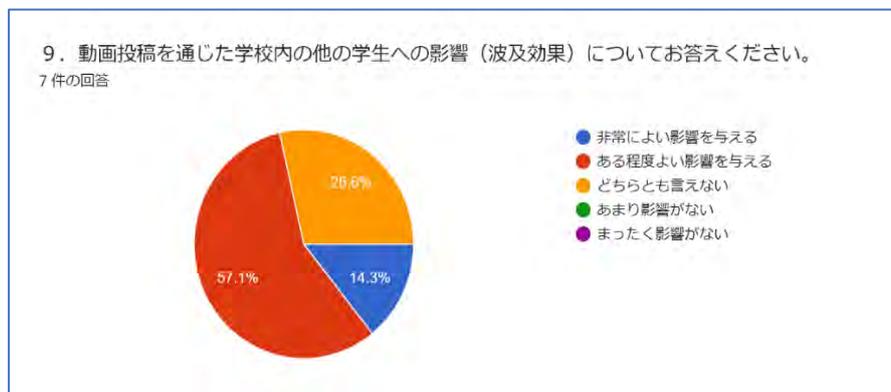
### ① 学生の学びへの姿勢と成果（「動画投稿養成校アンケート」結果）



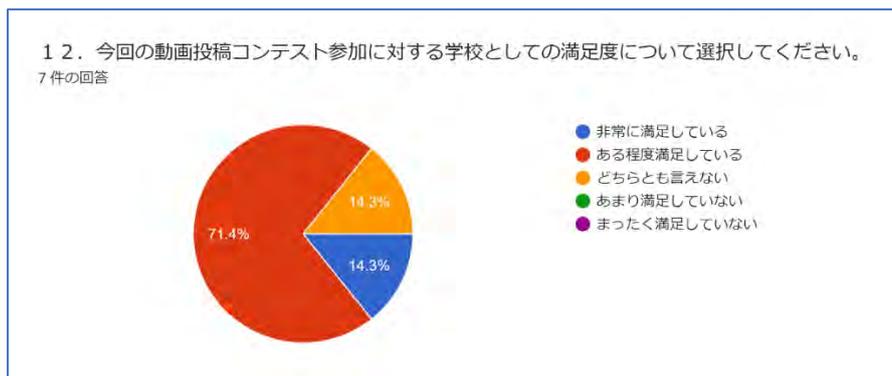
### ② 学生の介護技術・技能の向上（「動画投稿養成校アンケート」結果）



### ③ 他の学生への影響（「動画投稿養成校アンケート」結果）



#### ④ 学校としての満足度（「動画投稿養成校アンケート」結果）



#### ⑤ 動画投稿に関する学校としてのサポート(主な意見)（「動画投稿養成校アンケート」結果）

##### i. 場所と機材の準備支援

- ・介護実習室を練習で使用する際の調整。
- ・動画撮影時に使用する場所や器材の確保、準備を行った。
- ・撮影時のカメラの位置に関するアドバイスも行った。

##### ii. 申込手続きと運営サポート

- ・エントリーや事例内容の伝達、動画の送信など、手続き関連のサポートを行った。
- ・申込手続きのサポートのみを行った。
- ・投稿に向けての手続きもサポートした。

##### iii. 学生への助言とサポート

- ・学生からの質問や相談に対して、助言や対応を行った。
- ・ケア手順や動画のアンクル、教材研究の考え方についてアドバイスを行った。
- ・動画制作に関する具体的な事例の指導は行わなかった。

#### ⑥ 動画投稿の意義(主な意見)（「動画投稿養成校アンケート」結果）

##### i. 学生の主体的な学びと成長

- ・介護福祉士を目指すうえで、主体的に学ぶ機会となり、ケアについてしっかりと考える力を養う機会となる。
- ・能動的に学習に取り組むきっかけとなり、学生が自発的に成長する場となる。
- ・動画を投稿することで、投稿した学生自身の成長につながる。

##### ii. 技術の振り返りと相互学習

- ・日頃の学習や実習で得た技術を振り返る機会となり、生徒同士の学び合いも促進された。
- ・学生の学びのまとめとして取り組み、カンファレンスを通じて、仲間との議論を深め成長が見られた。

### iii. 技術レベルの確認と評価

- ・他校と同じテーマでケアを行い、評価を受けることで、自分たちの技術レベルを知る良い機会となる。
- ・自分たちの技術がどのレベルにあるかを確認する貴重な場となった。

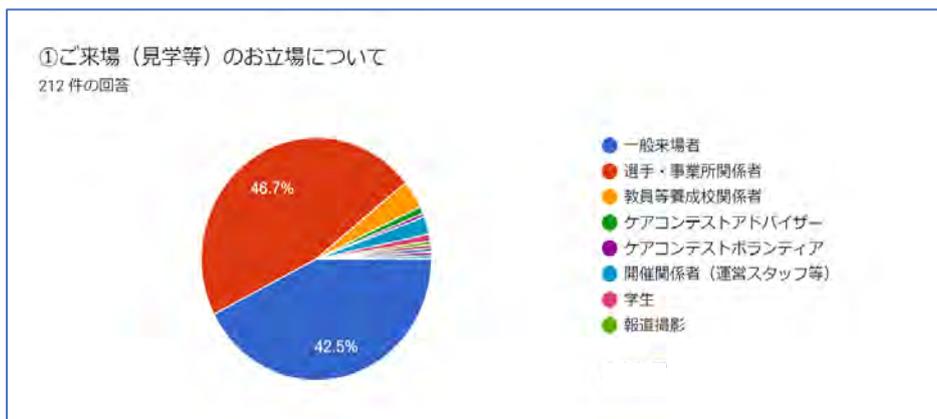
### iv. 遠方からの参加と見学の意義

- ・遠方からでも参加できる点がとても良いと感じている。
- ・見学を通じて、学生の学びや目標設定につながる。

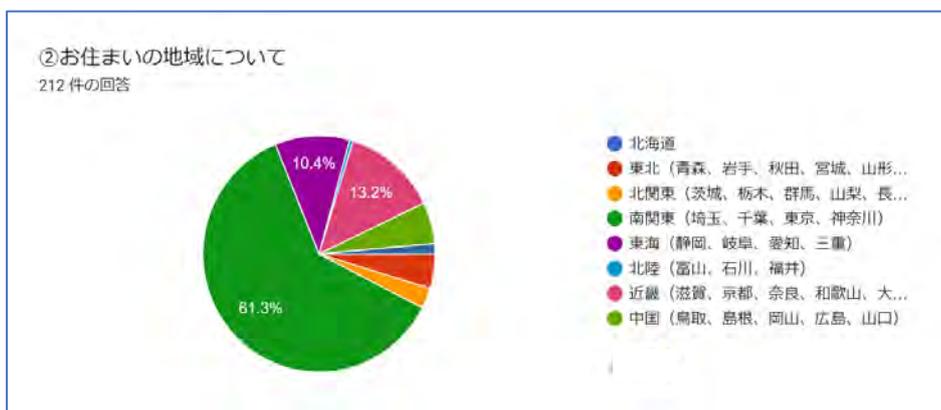
## <来場者アンケート調査の結果から>

ここでは、来場者アンケート調査結果から大会活動の成果についてみておく。第14回大会の来場者を対象に行った用紙及びWebによるアンケートで有効回答者数は、212名（Web93名、用紙119名）であった。

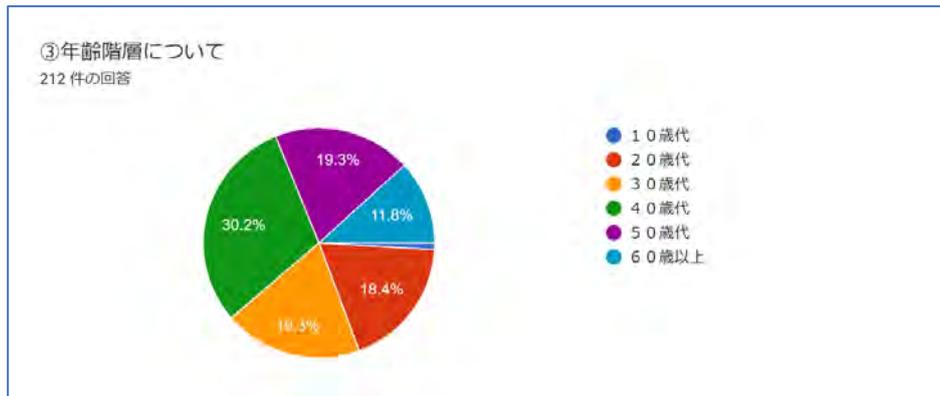
### ① 来場者の立場について（「来場者アンケート」結果）



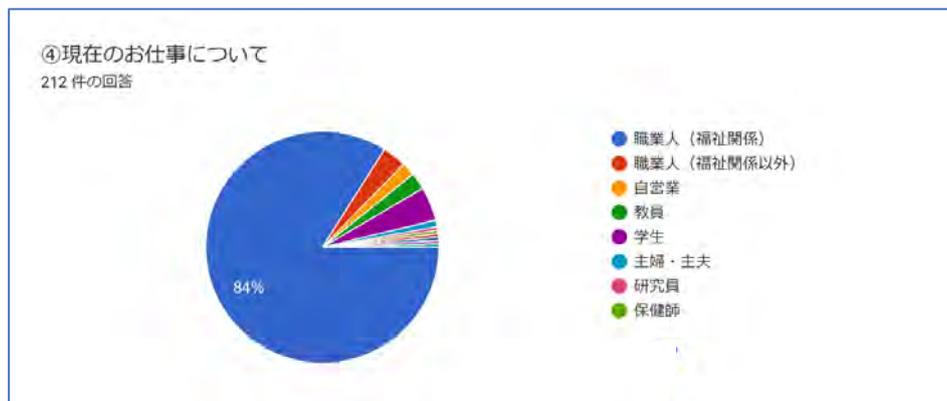
### ② お住まいの地域について（「来場者アンケート」結果）



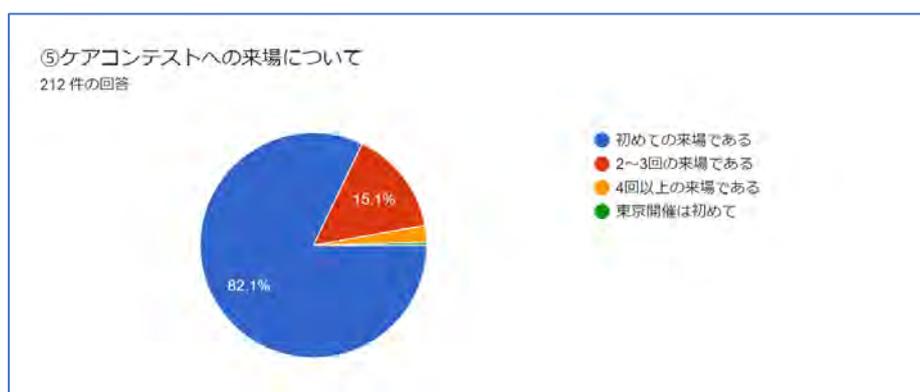
③ 年齢階層について（「来場者アンケート」結果）



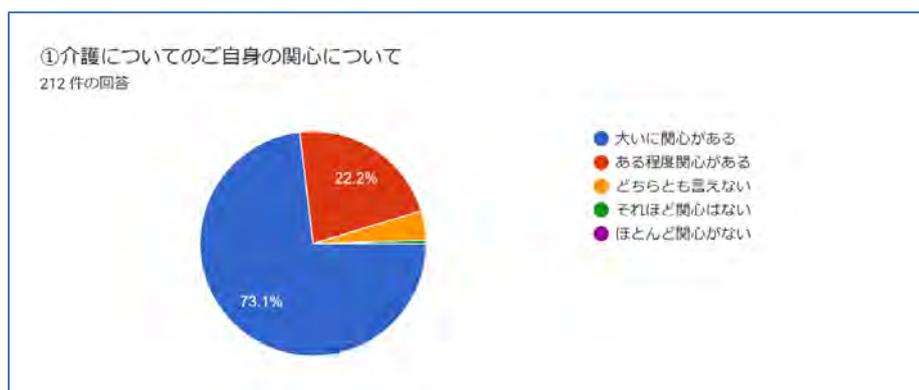
④ 現在の仕事について（「来場者アンケート」結果）



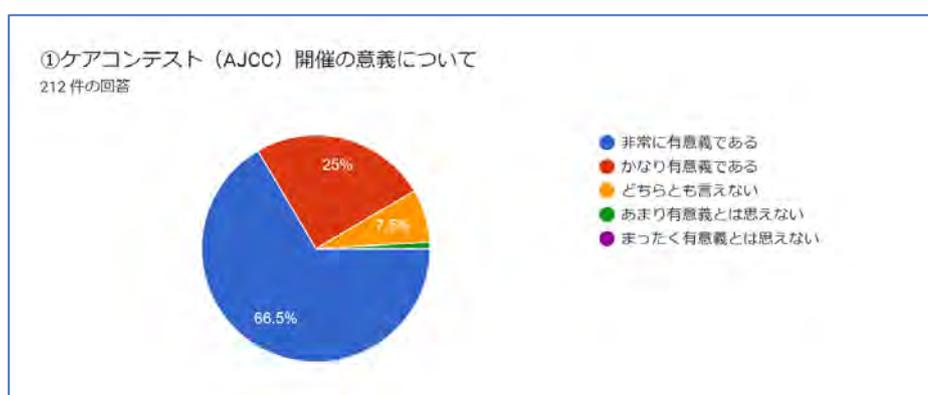
⑤ ケアコンテストへの来場回数（「来場者アンケート」結果）



## ⑥ 介護についての関心



## ⑦ 開催の意義について（「来場者アンケート」結果）



## ⑧ AJCC 開催に意義について(主な意見)（「来場者アンケート」結果）

### i. 介護技術の向上

- ・介護技術の向上。
- ・自身のケアを振り返る機会となるのと、さらなる技術向上を目指せる。
- ・技術向上に良いと思います。
- ・他者の介助を見て又、評価者コメントが勉強になる。
- ・他の方の介護のやり方の勉強になる。
- ・他施設との技術交流ができる。
- ・新しい技術や方法を学ぶことができた。
- ・参加することで、実践的なスキルを向上させることができた。

### ii. モチベーション向上

- ・モチベーション向上につながる。
- ・働いている職員のモチベーション向上に資する。
- ・使命感が高まる。

- ・自身を向上させるため。
- ・競争心を持つことで成長につながる。
- ・同業者とのつながりを感じられることでやる気が出る。

### iii. 学びと成長

- ・勉強になる。
- ・日々の業務を振り返る機会になる。
- ・他の選手を見学することも勉強になるため。
- ・他者のケアを見ることで学べることはたくさんあるので有意義だとは思いますが、なぜコンテストなのでしょう？
- ・今後、自身を含めてお世話になる事があると思うので。
- ・新たな視点を得ることができる。
- ・異なる介護アプローチを学ぶことができた。
- ・自分の課題を見つける機会になった。

### iv. 知識と情報交換

- ・知識をたくさん勉強できる。
- ・色々な方から刺激をもらえる。
- ・他の施設の職員のケアを見ることで学びになる。また、アドバイスが受けられる。
- ・アドバイザーからの指摘やアドバイスがある。
- ・他の施設との交流もあり、利用者に対しての関わり方について意見交換できること。
- ・知識の共有ができる貴重な場であった。
- ・最新の介護技術や情報を学ぶ機会となった。

### v. 参加と交流の機会

- ・他の方がやる介護をゆっくり見る機会は無いので良い機会だと思う。
- ・参加者が勉強する機会になりました。
- ・初めての方とも交流ができるから。
- ・コンテストに出場または見学することで介護技術の向上、自分の現状が客観視できると思いました。
- ・参加者同士のネットワークを築く良い機会だった。
- ・新しい友人や仲間ができた。

### vi. 介護の質と社会的理解

- ・介護の社会的地位・理解の向上、介護職員の士気の向上、質の向上。
- ・もっと普及すれば介護の地位が上がると考えられるから。
- ・介護のための学びができるため。
- ・介護職員の人材育成に役立っていると思う。
- ・福祉に関係のなかった人でも目にするきっかけになり、関心が広がりそうだから。
- ・介護の重要性を再認識できた。
- ・介護業界への理解が深まる機会であった。

#### vii. コンテストの課題（改善事項）

- ・ 出場者本人に対するフィードバックの配慮が必要。
- ・ 緊張感を和らげるためのサポートが求められる。
- ・ 審査基準の透明性を持たせる必要がある。
- ・ 結果によらず学びの機会を強調することが大切。
- ・ 他者のケアを見ながら自分の成長を感じる機会が重要。
- ・ コンテストの意義を参加者に伝えることが必要。
- ・ 参加者の多様な経験を活かすための取り組みを強化する。

### 3. 個別法人・事業所等の活動とその成果

#### ～選手派遣事業所等ヒアリング調査の結果から

選手派遣事業所及び動画投稿養成校を対象に、面談によるヒアリングを実施し、具体的な活動に着目し、その成果を分析・検討した。以下は、その内容をまとめたものである。

#### ■アンケート及びヒアリング調査の実施

選手派遣事業所ヒアリング	・ 選手派遣事業所9事業所を対象とする個別面接ヒアリング。 ・ 8月22日から9月12日に実施。 (一部、リモートによるヒアリング)
動画投稿養成校ヒアリング	・ 動画投稿養成校3校を対象とする個別面接ヒアリング。 ・ 8月26日から9月11日に実施。 (一部、リモートによるヒアリング)

#### 事例1 法人内で実施してきた「ケアワーカーコンテスト」の発展

**事業所名** 老人保健施設 やまゆりの里 **法人名** 社会福祉法人 あけあい会

**所在地** 三重県松阪市

**法人理念** 愛情と誠意を基調とした福祉サービスに努める

#### ●活動の概要

社会福祉法人あけあい会では、2014年から毎年「理事長杯 ケアワーカーコンテスト」を開催し、法人内の介護職員が日々の業務で磨いた技術や知識を発表し、競い合う場を提供しています。このコンテストは、職員のモチベーション向上や技術スキルの向上を目的としており、法人として介護の模範を示す活動の一環と位置づけています。2016年以降は、県の介護技術コンテストの予選会としての役割も担っており、三重県主催の大会では優れた成績を収め続けています。2023年度からは全国大会であるAJCCに参

加し、今年度は2年目にあたります。

### ●法人としてのAJCC参加

法人では、AJCCへの参加を法人代表としての挑戦と位置づけ、各施設から選ばれた代表選手たちが一丸となり、実技や知識をさらに磨きながら挑戦しています。今年度は法人内の各施設から5名がエントリーし、経験年数に応じてA部門（6年以上）とB部門（6年未満）に分かれ、ロールプレイやOJTなど多様なトレーニングを通じてスキルアップに励みました。法人としてのチーム一体感を重視し、役職者やベテラン職員のサポートのもと、事前に設定課題や評価基準に基づく学びと練習を行いました。

### ●活動の成果

AJCC参加を通じて以下のような活動の成果が確認されています。

- **技術とケアの意識向上**：コンテスト参加により、技術の高さやケアの質について法人全体で意識が共有され、職員の自己成長に対する意欲が高まっています。入賞を目指す過程で他の参加者からのフィードバックを得られることで、ケアの質を向上させることが可能となっています。
- **地域社会への影響**：法人として、AJCC参加による全国レベルでの評価が、地域の福祉向上にも貢献していると考えられます。県内での優勝実績も地域における福祉業界の発展に寄与しており、今後も地域社会と連携した福祉サービスの向上が期待されています。

### ●期待される成果と中長期の影響

法人内外での参加体験を通じ、職員全体において「より良いケアを実践する」という目標意識が醸成され、組織のモチベーション向上やケアの質の改善が実現しています。競技を通して評価されることで、自己満足に留まらないより良いケアの実践を目指す組織風土が醸成されています。

### ●要望・改善点

- **参加枠の拡大**：選手としての参加希望者が多く、現在の選考方式では希望者全員の参加が難しいため、参加枠の拡大や選考方法の見直しを期待したい。
- **見学機会の提供**：選手は、他選手の実技を見学できる機会が制限されています。コンテストの性格上やむを得ない面はありますが、選手がより多くの他の競技を見学し学ぶ機会を得ることが大切ではないかと考えます。

## 事例2 初参加での入賞は、選手の努力と職員全体の支援の成果

**事業所名**: 特別養護老人ホーム からまつ苑 **法人名**: 社会福祉法人 治栄会

**所在地**: 大阪市都島区

**法人理念**: 和楽 - すべての人たちが すべてのことに感謝でき 和やかで楽しい日々とまるやかで幸せな人生をおくれますよう 念じております

### ●活動の概要

今回、AJCCには初参加で3名の選手を派遣。法人内でのスキルアップとケアの質向上が目的で、他施設との交流を通じて新しい知識や技術を学ぶ場ともなりました。選手のみならず全職員で支援し、学びを共有することを重視しています。介護主任と相談員が中心となり、選手を個別指導するだけでなく、他の職員も含めた支援体制を構築しました。

## ●活動の成果

参加決定後、施設内でコンテストの意義や目的を共有し、ミーティングを通じて職員全体で支援体制を整えました。コンテストを通じて得た知識や気づきを他の職員と共有する能力も重視し、個別課題に取り組みながらケア技術やその根拠を説明する力を養う場を設けました。選手全員が集まって行う練習会も開催し、フィードバックを受ける機会としました。実技本番では、ベテランリーダーが他の選手にサポートを行い、チームとしての一体感が醸成されました。今後は選手に参加報告書を提出してもらい、経験や学び、今後の課題を具体的に記録・活用する予定です。

## ●期待される成果と中長期の影響

初参加での入賞は、選手の努力と職員全体の支援の成果であり、法人内でも大きな励みとなりました。参加をきっかけに施設全体でのケア技術や知識への関心が高まり、職員のモチベーション向上や介護への意欲が増えています。さらに、地域社会との信頼関係が強化され、利用者や家族にも法人の取組みを広く知ってもらう良い機会となりました。

- **キャリアアップと職員定着率の向上**：参加を通じて、職員の成長意欲が高まり、キャリア形成や定着率向上に寄与することが期待できます。
- **利用者満足度と地域評価の向上**：ケアの質向上が利用者満足度と地域からの評価向上に繋がるものと受け止めています。
- **業界全体への影響**：他の施設への良い影響や、介護の仕事の魅力を発信する機会として活用したいと考えています。

## ●要望・改善点

初参加のため、他の施設からの学びや交流の機会を得られることを期待します。また、設定課題の内容や評価基準について現場の実情がさらに反映されるよう望みます。

## 事例3 初期の頃から継続的に参加、学びを持ち帰ることに意義がある

**事業所名**：特別養護老人ホーム せんりょう万両

**法人名**：社会福祉法人 アパティア福祉会

**所在地**：三重県桑名市

**法人理念**：すべての人を尊重し、共感をもって寄り添い、支えます。

## ●活動の概要

当法人では、初期の第3回大会からAJCCに継続参加しており、第4回大会で最優秀賞を受賞した経験を持つことから、参加意欲のある職員の挑戦を尊重しています。法人全体で外部からの学びを推奨する風土があり、参加者の経験を職場に還元することを重視しています。毎年、事務局が選手の募集や選考を担当し、法人全体でAJCCに取り組んでいます。

## ●活動の成果

法人では、参加者が個別課題に取り組み、自身のケア技術やその理由を説明し、他の職員からフィードバックを受けるなど、実践的なトレーニングを行っています。今年度の選手は、先輩職員のサポートを受けながら、時間外に練習を重ね、現場でのフィードバックを活かして本番に臨みました。また、法人とし

ては「賞を取ること」よりも、経験から自信を得て学びを持ち帰ることを重要視しており、職員一人ひとりの成長に繋がると捉えています。

#### ●期待される成果と中長期の影響

AJCC 参加によって得たスキルや自信は、選手本人だけでなく事業所全体にとっても貴重な学びとなり、職場でのケア技術や知識への関心が高まっています。昨年の参加時の指摘を改善して臨んだことで、周囲から評価を得る機会にもなり、法人全体での介護スキルの底上げに寄与しています。

- **ケアの質向上と利用者満足度の向上**：学びを活かしたケア実践により、利用者やそのご家族の不安が軽減され、満足度向上に繋がっています。
- **教育施設としての役割強化**：今後、事業所がユニットケアリーダーの研修施設となる中で、AJCC での経験が職員育成に良い影響を与えています。
- **地域社会との連携強化**：AJCC を通じて、地域社会に法人の取組みを発信することで、介護の魅力を知らしてもらい、地域における信頼関係の強化にもつながっています。

#### ●要望・改善点

法人内では参加が自然な風土となっている一方で、他の参加者の実技が見られない点や、評価基準の改善など、より実践に即した形での改善を期待しています。ケアの実技について法人内での練習の方が緊張感を感じやすいとの声もありますが、参加を通じて職員が自己のケアを見直し、成長する場として、今後も継続を期待します。

## 事例4 法人内で実施してきた「口腔ケアスキルコンテスト」の発展として

**事業所名**: どうみょうじ高殿苑

**法人名**: 社会福祉法人 邦寿会

**所在地**: 藤井寺市

**法人理念**: 笑顔と思いやり、共に暮らし、安らぎと喜びを分かち合う

#### ●活動の概要

邦寿会は 1921 年に創設。2008 年、複合施設どうみょうじ高殿苑を開設し、高齢者支援と地域貢献活動に取り組んでいます。開設以来、歯科衛生士を雇用し、口腔ケアを重視しており、毎年 11 月 8 日、「口腔ケアスキルコンテスト」を開催しています。今回の AJCC 参加はその延長線上にあり、第 14 回大会が初めての参加です。代表選手 H さんは法人内の「口腔ケアスキルコンテスト」で審査員特別賞を受賞し、AJCC でも口腔ケア A 部門で優秀賞を受賞しました。

#### ●活動の成果

施設内のコンテストで選ばれた H さんは、10 年以上の経験を持つ職員で、施設内外の多くのアドバイスとサポートを受け大会に臨みました。大会当日は施設長と歯科衛生士が応援に駆け付けました。初参加の AJCC での評価は、選手個人だけでなく、施設全体としての口腔ケアに対する取り組みの成果と受け止められ、法人内でも高く評価されています。

#### ●期待される成果と中長期の影響

AJCC 参加を通じて、施設全体のケア意識と質の向上が促進されており、次回の参加を希望する職員も

増えていることから、職員の意欲向上に寄与しています。また、施設の取り組みが全国大会で認められたことで、今後の励みにもなっています。参加による刺激は、他の選手の取り組みを見学することでさらに増し、特に外国人選手の技術は新たな視点として受け入れられています。

- **口腔ケアの質向上**：施設内での「口腔ケアスキルコンテスト」から AJCC への挑戦が、施設全体のケアの水準を引き上げるきっかけとなり、今後も質の向上が期待されます。
- **継続的なトレーニングの推進**：事前・事後のトレーニングを通じて、職員が技術を磨き続ける風土が醸成されています。
- **他施設への良い影響**：施設としての取り組みが全国的に評価され、他の施設にも影響を与えることが期待されます。

### ●要望・改善点

参加選手 H さんは「順位を競うよりも、互いを高め合うことを期待する」と述べており、今後の AJCC での取り組みの方向性として情報発信や交流の場がさらに増えることを望んでいます。また、養成校の動画投稿コンテストや高等学校との連携強化にも注目が必要との意見が出ています。

## 事例5 介護業界を盛り上げる活動として継続的に参加

**事業所名**：老人健康保健施設 あやめ

**法人名**：社会福祉法人 尚仁福社会

**所在地**：鳥取県江府町

**法人理念**：「おもいやり」を尊び「しんらい」を築く

### ●活動の概要

尚仁福社会は 2018 年から AJCC に継続的に参加しており、毎年 1～2 名の介護職員を派遣することで業界の活性化と職員のスキル向上を目指しています。法人トップが地域の介護福祉士会役員を務め、業界への貢献意識が強く、参加選手の支援にも積極的です。多職種との協力体制を通じて選手のスキルアップを支援しています。

### ●活動の成果

今回の大会には、排泄分野で選手として A さんが参加し、事前に職場内で看護師やリハビリスタッフと相談しながら準備を進めました。多職種からの新しい視点が刺激となり、職場全体が選手を支援する一体感が醸成されています。A さんは、ケアの中で自立支援の大切さを再認識し、「ありがとう」と言われるやりがいを感じながら業務を見直す機会となったと述べています。

### ●期待される成果と中長期の影響

AJCC 参加を通じて、介護職員のスキルアップとキャリア形成が促進されています。また、法人では外部専門家を活用した年 2 回のキャリア形成面接を行っており、法人内規範の周知を含む職員育成に力を入れています。外部からの刺激を受ける場を設けることは、職員の成長に貢献しており、特に評価によるフィードバックがスキルアップに有益です。

- **職員のキャリア形成と定着率向上**：スキルやキャリアアップの支援を通じて、職員の成長意欲が高まり、長期的なキャリア形成が期待されます。

- **ケアの質の向上**：多職種の視点を取り入れた準備体制により、ケアの質が向上し、利用者満足度が高まっています。
- **業界への貢献**：法人全体として介護業界を盛り上げる取り組みが進められており、職員の意識も高まっています。

### ●要望・改善点

参加選手からは、荷物の置き場の案内が分かりにくかったことや、選手控室に他の方々が入りし、リラックスして食事が出来なかったなどの指摘がありました。緊張してコンテストに参加する選手に対する配慮が望まれるとの指摘でした。

## 事例6 大会主旨に法人として賛同、当初から継続的に選手を派遣

**事業所名**：特別養護老人ホーム 高槻けやきの郷

**法人名**：社会福祉法人 成光苑

**所在地**：高槻市

- 理念**：
1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める
  2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す
  3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設経営を目指す

### ●活動の概要

成光苑はAJCCの主旨に法人として賛同し、初期から選手を派遣しています。高槻けやきの郷として5年ぶりの参加で、施設として強く希望して実現しました。本年度の代表選手Aさんは、2年目の若手介護福祉士で認知症分野B部門に出場し、優秀賞を受賞しました。認知症ケアを大学で学んだAさんは、職場の推薦を受け、日常の関わり方を活かして実技に臨みました。

### ●活動の成果

Aさんは、普段の利用者との関わり方を重視し、自然体での実技を心がけました。大会では、他の選手の実技から新しい視点を心得て学びを深め、職場に持ち帰ることで職員全体の成長に寄与する意識を持っています。日常的に積極的なAさんの姿勢は職場の模範となり、優秀賞の受賞は他の職員の励みにもなっています。職場では伝達研修を予定し、Aさんの経験を共有することで、職員の知識とケアの質の向上を図ります。

### ●期待される成果と中長期の影響

法人としての継続参加により、介護技術向上への意識が職場全体に根付いており、毎年の経験が職員のキャリアアップやスキルアップに役立っています。Aさんのような若手の模範が、他の職員の意欲向上にも繋がり、職場の学習文化が醸成されています。

- **若手職員の育成と士気向上**：職員が挑戦し成長できる環境が整備され、全体の士気が高まっています。
- **ケアの質の継続的改善**：専門家からのアドバイスや外部との交流を通じ、職員全体がケア技術の研鑽を続けています。
- **社会的関心の喚起**：YouTubeなどでの動画公開は、介護に対する社会の理解を深め、一般の人々

の関心を喚起する一助となっています。

### ●要望・改善点

Aさんの上司は、現場スタッフが見学に行きづらい中、動画の公開を希望しています。また、関西地区での開催が実現すれば、多くの職員に参加機会が増えることを期待しています。選手からは、他選手の実技を学べる場やDVDの増加を望む声もありました。

## 事例7 ケアの質の向上に取り組む職員の挑戦意欲を表現する場

**事業所名:** 特別養護老人ホーム サニーヒル板橋

**法人名:** 社会福祉法人 隆徳会

**所在地:** 東京都板橋区

**法人理念:** 「ここを利用してよかった」と心から感じてもらえる施設を目指します

### ●活動の概要

隆徳会は、法人が掲げる「従事者の資質・専門性の向上」の一環として、3年前からAJCCに参加しています。施設開設から6年目の若い施設であるサニーヒル板橋は、職員に自主的な意思表示を促し、選考の結果、2名が今年度の大会に出場しました。そのうち1名は、インドネシア国籍で、外国籍の方と日本人が切磋琢磨できる場としての意義も含んでいます。

### ●活動の成果

今年度の参加職員は、看取り分野A部門と入浴分野B部門でそれぞれ優秀賞を受賞し、施設としての高いケア水準が認められました。出場職員は、大会を通じて他の選手や来場者から「見られる」経験を持つことで自信を深めました。事前準備には、上司や先輩も協力し、過去の参加者の体験談や動画を参考にロールプレイを行い、ユニットを超えた職員の絆形成にも寄与しました。受賞者の一人であるWさんの意欲的な姿勢は、他の技能実習生や職員に良い影響を与えています。

### ●期待される成果と中長期の影響

AJCCを通じて、職員の挑戦意欲が高まり、職場全体のケアの質向上に寄与しています。また、表彰を受けたことが施設としての誇りとなり、職員研修やOJTの取り組みがさらに充実しています。サニーヒル板橋のエントランスには受賞者の表彰状が掲示され、職員や利用者へのモチベーションアップに繋がっています。

- **多国籍チームの成長促進:** 技能実習生の活躍が、職場内の国際交流や多様性に関する理解を深め、互いの成長を促進しています。
- **倫理綱領に基づくケアの質向上:** 倫理綱領を基盤とした継続的な研修が、職員の技術・知識向上に繋がっています。
- **施設全体の士気向上:** 表彰を通じて他の職員にも好影響が波及し、今後のさらなるケアの質の向上が期待されています。

### ●要望・改善点

見学者が少ないため、より多くの方が観覧できる環境の整備を望んでいます。また、アドバイザーから分野別の具体的なフィードバックが得られると、さらなる学びが深まると期待しています。

## 事例8 地域密着型小規模特養ホーム、職員配置が難しい中での挑戦

**事業所名:** 地域密着型特別養護老人ホーム ケアサポートセンター十思

**法人名:** 社会福祉法人 長岡福祉協会

**所在地:** 東京都港区

**法人理念:** 自分や家族、友人が利用したいと思うサービスの提供

### ●活動の概要

長岡福祉協会では、職員のスキルアップやモチベーション向上、介護サービスの質向上を目指して AJCC に継続参加しています。首都圏事業部主催の福祉サービス実践・発表会も開催しており、他法人との交流を通じた学びの場を提供しています。今年度は食事分野 B 部門に 1 名の職員 A さんを派遣し、小規模施設の厳しい人員配置の中での挑戦となりました。

### ●活動の成果

A さんは、職場から特別な支援は受けず自己研鑽で準備を行いました。緊張を感じつつも、上司からの激励を受け、職場代表として意欲的に参加。2 日間の大会に際しては勤務シフトの調整が難しい状況下での参加となり、A さんは職場の配慮に感謝を抱きながら大会に臨みました。残念ながら入賞には至りませんでした。日々の業務を振り返り、他では得られない実技からの学びを得られる貴重な機会となったとポジティブに捉えています。

### ●期待される成果と中長期の影響

AJCC 参加により、A さんは日常業務を見直す契機を得、声のトーンや表情など理屈にとらわれない介護の重要性に気づくことができました。また、法人全体においても職員の挑戦を支援する風土が醸成され、施設内でのケアの質向上が図られています。事業内での活動報告を通じて、他職員にも良い刺激を与えることが期待されています。

- **職員の成長機会の提供:** AJCC や実践発表会を通じた経験が、職員のスキルアップと成長に寄与しています。
- **ケアの質向上と意識改革:** 実技評価や専門的アドバイスによる気づきが職員の意識改革に繋がり、ケアの質向上が図られています。
- **地域との交流促進:** 実践発表会や AJCC への継続参加が他法人との交流を促し、地域での連携強化に役立っています。

### ●要望・改善点

職場内での人員不足により見学や応援が難しいため、大会の様子を動画で共有し職員の学びの機会とすることを希望しています。また、実技の場で得られるアドバイスをさらに深め、成長機会を提供できる体制の充実に望んでいます。

## 事例9 外国人介護スタッフのモチベーション向上を目指して

**事業所名:** 有料老人ホーム すいとぴー三ツ境

**法人名:** 日総ニフティ株式会社

**所在地:** 横浜市瀬谷区

**法人理念:** 人と向き合い、人に寄り添う

### ●活動の概要

日総ニフティは、創業理念「人を育て、人を活かす」を基に、施設介護や在宅介護などを提供する総合福祉事業会社です。令和5年の第13回大会からAJCCに参加し、外国人スタッフのモチベーション向上を重要課題とし、若手職員の育成に注力しています。本年度は外国人分野B部門と食事介護分野B部門に1名ずつ選手を派遣し、法人全体での参加継続を目指しています。

### ●活動の成果

大会当日には本社の社長や介護部長、外国人支援担当者、施設長などが観察に訪れ、選手の競技を見学しました。外国人分野B部門に参加したAさんは、職場の支援を受けながら進んで挑戦し、ケアのスキル向上を目指しました。大会では緊張もあったものの、貴重な経験を得たとポジティブに捉えています。職場内では、Aさんの挑戦する姿勢が同僚にも良い影響を与えており、外国人スタッフのモチベーションが向上しています。

### ●期待される成果と中長期の影響

AJCC参加を通じて、外国人スタッフが他施設の介護技術に触れる機会を得、交流や学びが促進されました。閉鎖的になりがちな日常業務に刺激を受ける場として、今後も継続参加を目指しています。社内での支援体制が職場の一体感を強め、外国人スタッフの自信と成長にも繋がっています。

- **外国人スタッフの成長支援:** モチベーション向上と技術向上のための挑戦機会が、外国人職員の定着と成長に貢献しています。
- **社内連携とチームワークの強化:** 他の職員が一丸となり、AJCC参加者をサポートする風土が醸成されています。
- **他事業所との交流促進:** AJCCでの他事業所との交流を通じ、閉鎖的になりがちな介護業務に新たな視点が加わり、ケアの質向上が図られています。

### ●要望・改善点

職場全体での学びを増やすため、さらに多くの関係者が参加できる体制を希望しています。また、今後の継続実施に対する期待も強く、他の事業所とともに学びの場が増えることを望んでいます。

## 《動画投稿養成校の活動とその成果：養成校ヒアリング結果》

### 事例10 1年次にケアコンテストを見学し、2年次に動画投稿で学び合う

養成校名：日本福祉教育専門学校(学校法人 敬心学園)

所在地：東京都新宿区

学校の理念：「人に、社会に、輝きを」。敬心学園は「先駆性」「科学性」「倫理性」「文化性」を持って教育・福祉・医療との連携を図り、社会に貢献します。

#### ●活動の概要

当校では、1年次にAJCCの見学を必須カリキュラムに組み込み、2年次に動画投稿コンテストへの参加を促進しています。介護福祉士の育成において、ケアの実技経験が重要と捉え、AJCCを通じた実技学習を重視しています。

#### ●養成校としてのAJCC参加の意義

- 参加意義の認識：AJCCは、資格取得試験での実技試験が廃止された今、介護福祉士の実技向上に重要な機会と捉えています。
- カリキュラムの一環：1年次では見学で関心を喚起し、2年次において公募方式で動画制作を行う、学生の自主的な学びを支援しています。

#### ●活動のプロセス

- 動画制作体制：2～3人の学生による共同制作が基本で、教員の関与は控えめにし、学生の自主性を尊重。設備や備品も自由に使用可能。
- 自発的な学びの促進：留学生の積極参加が見られ、学びを主体的に行う環境が整っています。スマホと三脚を使用した動画撮影も学生が主体となって実施。
- 成果の評価とフィードバック：2年次生が制作した動画は1年次生の授業で視聴され、評価や講評が行われ、実技学習を共有。
- 自己成長への寄与：1年次のAJCC見学で学科プログラムへの関心が高まり、介護職の魅力ややりがいがある学生のモチベーション向上につながっています。

#### ●期待される成果

- 学科プログラムへの影響：AJCCを通じて、学生のケアに対する目標意識が醸成され、職業意識や学習意欲が向上しています。
- ケアの実技補完：資格取得試験の実技試験に代わる学びの場としての価値が認識され、基礎的なケア技術を補完する機会となっています。

#### ●要望・改善点

- プログラムの準備：当日到着時に大会プログラムが不足していたため、十分な準備が望まれると感じています。
- 課題選択の拡充：動画コンテストの課題は複数の中から選択できる形式が望ましい。
- アドバイスの聞き取り改善：ブースでのアドバイザーのコメントが聞き取りにくい点について、

改善を期待します。

## 事例11 動画投稿は介護を主体的に学ぶ機会、さらに交流の促進を

養成校名:学校法人 同朋大学 社会福祉学部 (学校法人 同朋学園)

所在地:名古屋市

学校の理念:「同朋和敬」(共なるいのちを生きる)

### ●活動の概要

同朋大学では昨年度(令和5年度)よりAJCCの動画投稿コンテストに参加し、学生がケアのあり方について主体的に学ぶ機会を提供しています。介護福祉士の教育において、ケアの実践力が問われるAJCCの意義を重視し、学生の参加を推進しています。

### ●養成校としてのAJCC参加の意義

- ケアコンテストの意義:AJCCを「分かる」「できる」を超えたケアの実践力を問う場として、介護教育における重要なコンテストと認識しています。
- 自主的学習の促進:コンテスト参加を授業で周知し、学生の自主参加を促進。学生が主体的にケアを学ぶ機会として高く評価しています。

### ●活動のプロセス

- 動画制作体制:動画制作は大学での研究活動の一環として位置づけられ、学生が設定課題を基にシナリオ作りから撮影まで主体的に活動。教員がサポート役として関わり、必要に応じて個別指導を行っています。
- 参加学生の選考:5名までの参加枠に対し、多くの希望者から選考を実施。令和5年度は2年次生2名、3年次生3名、令和6年度は1年次生1名、3年次生1名、4年次生3名が参加しました。
- 学生のモチベーション向上:2年間で奨励賞を2度受賞した学生もあり、学びに対する意欲が向上。特に、施設でのボランティア経験がある1年次生が強い希望で参加し、意識の高まりが見られます。
- ケアの実践力の強化:動画制作を通じて、学生が創造的にケアを考察し、ケアの実践力が向上。介護福祉士を目指すうえで、動画コンテストが主体的学習の場となっています。

### ●期待される成果

- 教育効果の高まり:AJCCの参加により、学生がケアを多角的に考える力を育成し、介護福祉士としての基礎力が強化されています。
- 社会的評価への貢献:動画投稿コンテストの表彰が介護専門職の社会的認知度向上に寄与し、履歴書にも記載可能な実績として期待が寄せられています。

### ●要望・改善点

- 参加区分の再考:大学・専門学校と高校が同じ部門で審査されているが、教育レベルに応じた区分を期待したい。
- 参加校の交流機会:参加校同士の交流の機会を増やすことを希望(例:Zoomによるリモート交

流)。学生と教員双方の交流が促進される機会が望まれます。

- **参加賞の導入**：参加に意義があると考えられ、優秀賞や奨励賞とは別に参加賞の授与を希望。特に学生が履歴書に記載できる形での参加賞を交付してほしい。

## 事例12 介護技術コンテストと合わせて、実践能力向上のプログラム

養成校名：熊本県立芦北高等学校 福祉科

所在地：熊本県

学校の理念：校訓-「敬愛」「勤勉」「創造」教育スローガン-「私は挑戦する、夢を実現するために」  
福祉科のテーマ-新しい「幸せ」をデザインする

### ●活動の概要

芦北高等学校福祉科では、授業の一環として、生徒の介護技術と対人援助スキルの向上を目指し、「高校生介護技術コンテスト」と「AJCCの動画投稿コンテスト」に参加しています。AJCCの動画コンテストは、実践能力向上を目的とし、高校生が主体的にケアを学ぶ機会と位置づけています。

### ●養成校としてのAJCC参加の意義

- **参加の背景**：全国福祉高等学校長会の九州地区総会・研究協議会での情報提供を機に、実践能力向上のためにAJCCへの参加を決定しました。
- **学びのプロセス**：参加の取組みは、介護現場での実践力を培う機会として意義を認識しています。動画制作を通じて、生徒が根拠に基づく支援方法を考える場として高く評価しています。

### ●活動のプロセス

- **動画制作チーム体制**：2年生14名が2～3人の5チームに分かれ、各チーム1本の動画を制作。各チームに担当教員をおき、指導に当たりました。
- **課題の読み込みと計画**：課題を読み込み、シチュエーションに基づいて最適なケアの方法を各チームで考察。利用者理解を深め、ニーズを汲み取り、課題を検討する過程そのものが、学びのプロセスとなっています。
- **成果の振り返り**：完成した動画は、教育ツールとしても使用し、1年生の授業で視聴することで学びの促進につながっています。
- **チームの協働**：生徒と教員の協働による取組みが、介護福祉教育の新たな可能性として位置づけられ、生徒・教員双方にとっても貴重な経験となりました。

### ●期待される成果

- **教育効果の向上**：AJCCの学びを通し介護現場での実践力向上と利用者様の「より良いケアの実現」を目指す意識の醸成につながっています。
- **成果物の有効活用**：動画を振り返りツールとして活用し、反復的に学ぶ機会を得ることで、さらなる学習効果が期待されます。

### ●要望・改善点

- **制作マニュアルの充実**：動画制作の手引きや課題設定をより分かり易くお願いします。
- **評価基準の明確化**：評価基準がさらに明確になることを希望します。

## 第4章

# AJCC のアウトカムと今後への期待

AJCC の開催ドキュメント、選手及び選手派遣事業所等の活動とその成果について、第2章、第3章でみてきたところである。本章では、そのプロセス（活動と成果）を踏まえて AJCC のアウトカム（効果）について分析、検討する。

多様なアウトカムが観察されるところであるが、本調査検討委員会は、継続活動による成果として7項目、さらに、期待される成果・中長期の視点での影響として5項目を挙げることにした。（図表参照）

アウトカムの受益者は、各項目によって影響度は異なるが、継続活動による成果の項目は、大会に参加する選手及び選手派遣事業所（動画投稿養成校の参加学生及び養成校を含む）、介護事業を推進する業界や介護の仕事を担当する職能集団等にとって、とくに特徴的なアウトカムであり、期待される成果・中長期の視点での影響の項目は、広く介護サービスの利用者、市民、地域社会等にとってのアウトカムとして認識できるものである。

なお、本章では、そうしたアウトカムをさらに拡充し、確かなものにするための課題と今後への期待についても検討する。

## 1. 継続活動による成果

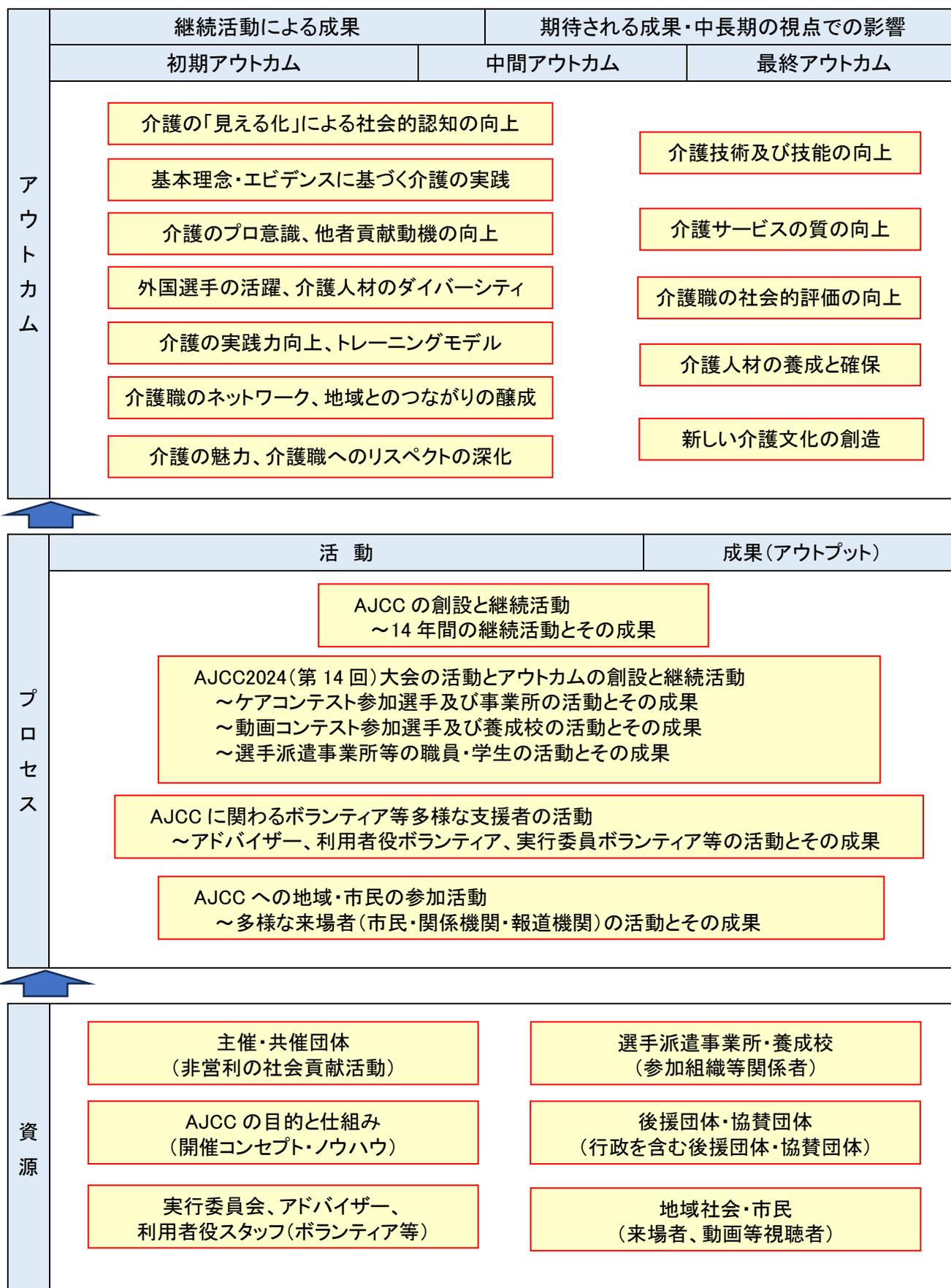
AJCC は、2010（平成22）年の第1回大会以来、毎年継続開催し、14年の実績を重ねている。今年度の第14回大会は、コロナ禍で縮小開催を余儀なくされてきた状況から復活し、東京ビッグサイトを会場に全国から140名の選手が集う最大規模での開催となった。また、介護従事者のケアコンテストとは別に、介護福祉士等の養成校の学生・生徒が参加する動画投稿コンテストが、大学、専門学校、高等学校の参加を得て開催となった。

これらの活動と成果を踏まえて、以下の7項目の特徴的アウトカムを整理する。

### （1）介護の「見える化」による社会的認知の向上

AJCC は、実技コンテストを通じて介護の「見える化」を推進し、介護の専門性や技能を社会に広く認識させる役割を果たしている。従来、閉鎖的なイメージを持たれがちであった介護について、AJCC の競技形式は、実技を通じてその専門性を可視化し、表現することにより、介護職が行う介護について社会全

図表 ケアコンテストとしての AJCC の効果分析(ロジックモデル)



体の理解を促進する契機となっている。

特に、実技に臨む選手の姿勢や、課題に取り組む過程で発揮される専門技術は、来場者に強い印象を与え、介護職が果たす役割の重要性を改めて認識させるものとなっている。来場者アンケートでは、「介護の仕事に対するイメージが大きく変わった」「高度な技術と人間性が求められる専門職であることを実感した」といった声が多く寄せられており、介護の社会的認知向上に寄与していることが伺える。

また、ケアコンテストの様子が新聞、テレビ、インターネット等を通じて報道されることにより、「尊敬される仕事としての介護」の認識が広がりを見せている。特に、選手が実技を通じて示す高い技術力と倫理観は、介護の社会的認知を高めるとともに、そのことを通じて若年層の職業選択にも波及している傾向が伺える。見学者として参加した高校生が「親しみやすさを感じ、介護職を志望するきっかけになった」と語っているが、未来の介護人材育成において重要な役割を果たしている。

このように、AJCC が提供する「見てもらえる介護」の場は、介護職の魅力を発信し、社会的評価を高める貴重な機会となっている。さらに、介護の「見える化」を進めることは、中長期的な視点においても新しい介護文化の形成につながり、介護が特殊なものではなく、社会に開かれた普遍的な存在となるための基盤を築いている。

## (2) 基本理念・エビデンスに基づく介護の実践

AJCC は、介護サービスの基本理念とエビデンスに基づく実践を重視し、その定着を促進している。競技課題は、利用者の尊厳の保持や意向の確認、安全と安心の確保、自立支援、個別ケアの実現といった介護サービスの基本理念や規範に基づいて設計されており、選手たちはこれらの理念を実践に落とし込む過程を経験する。アドバイザーによる評価とフィードバックは、選手にとって貴重な学びの機会となり、科学的根拠に基づく介護の重要性を再認識する契機となっている。

コンテストにおける選手の準備プロセスは、基本理念やエビデンスを具体的な実践に結びつける重要な段階である。選手たちは、設定された課題に基づき、上司や同僚と共同研究を行い、ロールプレイング（役割演技法）等を通じて実技を磨く。このような準備活動は、選手個々のスキルアップに留まらず、職場全体の介護力の向上に寄与している。競技終了後に行われる振り返りでは、「改めてサービス理念やエビデンスに基づく科学的介護の重要性を再確認した」といった感想が多く聞かれる。

また、AJCC は、競技そのものだけでなく、組織文化を醸成することで基本理念やエビデンスに基づく実践の定着に寄与している。ケアコンテストへの参加を契機に、事業所では利用者サービスの見直しや新たな実践マニュアルの作成など、現場での取り組みに波及している。こうした取り組みは、介護現場において基本理念やエビデンスに基づく実践を進化させるものであり、介護職のプロフェッショナルとしての価値を高めることに繋がっている。

### (3) 介護のプロ意識、他者貢献動機の向上

「競争を目的とするものではない」という主催者のメッセージが発信されている一方で、選手や派遣事業所にとって AJCC は、介護実践の力量を評価してもらえる挑戦の場と認識されている。参加選手たちは、「見てもらえる介護」や「高い評価が得られる介護」を実現するため、日々の活動を通じて培ってきた実践力の表現に努めることになる。その過程で、職業倫理や他者への貢献という専門職としての価値観を確認し、さらに高めることになる。AJCC は、介護専門職としてのプロ意識を高めるとともに、他者貢献動機（プロソーシャル・モチベーション）の向上を促進する場として機能している。

他者貢献動機は、自身の視点だけでなく他者の視点に立つことで動機づけられるものであり、利用者はもとより、仲間や組織への貢献などもその要因と考えられている。ケアコンテスト後の選手アンケートやヒアリングでは、「自分のケアを見直し、プロとしての責任感が芽生えた」「他者のためにケアを提供する意識が高まった」という感想が多く寄せられている。また、「施設内で率先して後輩指導を行うようになった」という声もあり、プロ意識や他者貢献動機の向上が組織全体にポジティブな影響を与えていることが示されている。

また、他者貢献動機の高さは、介護職員が利用者本位の視点に立つことを促すものであり、介護のイノベーションや質の向上を促進する要因となるものである。来場者アンケートでは、介護職が高度な専門性を持つ職業であるという認識が広がり、プロ意識の高い職員への期待が示されている。

### (4) 外国籍選手の活躍、介護人材のダイバーシティ

AJCC は、外国籍の介護職員に活躍の場を提供し、介護現場における人材のダイバーシティを推進している。2019 年の第 10 回大会から外国人介護士分野を新設し、外国籍選手がケアコンテストに参加する機会を創出してきた。今年度の第 14 回大会では、外国人介護分野に経験年数に応じた A 部門および B 部門を設置し、20 名の外国籍選手が参加。さらに、他の専門分野の競技にも外国籍選手がエントリーし、優秀賞を受賞する選手も現れた。このような成果は、外国籍介護職員の専門性向上とキャリア形成の観点からも意義深いものとなっている。

外国籍選手の活躍は、来場者や他の参加者に多くのインスピレーションを与えている。来場者アンケートでは、「日本の介護現場が国際的になってきたことを実感した」「多様性のある介護人材に希望を感じた」といった声が寄せられており、介護業界のグローバル化に対する理解と期待の高まりが見られる。また、選手アンケートでは、「自分の介護の姿勢を評価され、自信を持てた」「他国の選手と交流し、刺激を受けた」「この経験を活かしてリーダーを目指したい」といった外国籍選手の前向きな感想が報告されている。

さらに、選手派遣事業所ヒアリングでは、外国籍選手がアドバイザーからのフィードバックを受けて自信を深め、モチベーションを向上させたとの報告がある。また、職場に戻ってから自身の経験を同僚と積

極的に共有し、利用者へのケアの質が向上したという事例も報告されている。こうした取り組みは、介護現場における人材のダイバーシティを促進するものである。

少子高齢化と生産年齢人口の減少が進むなか、介護人材の確保は喫緊の課題である。AJCCにおける外国籍選手の活躍は、言語や文化の壁を乗り越え、共に学び合い成長する場を提供している。前夜祭やケアコンテストでの交流は、違いを包括しながら一体感を形成する機会となっており、今後の多文化共生型の介護現場づくりの端緒としての役割を果たしている。

また、AJCCはジェンダー平等にも貢献しており、男性介護職員の活躍や女性リーダー、管理職の活躍を支援することになっている。これにより、介護現場の働きやすさが向上し、多様性を尊重する職場文化の形成が進むことが期待される。

## (5) 介護の実践力向上、トレーニングモデル

AJCCは、介護の実践力を向上させる場として高く評価されている。その目的は、個々の介護職員の能力を磨くだけでなく、介護の質を全体的に向上させることにある。AJCCの競技形式は、単なる知識や技術の確認にとどまらず、個別ケースを対象としたトータルな介護実践を評価する仕組みを採用している。これにより、現場で求められる総合的な実践力が培われ、より質の高い介護実践に繋がっている。

選手たちは、競技に向けた準備の中で、職場の上司や同僚の指導を受けながら課題に取り組む。共同研究やロールプレイングを通じて実技演習を行うなど、実践力向上のためのトレーニングを重ねながら、自らの介護実践の振り返りを行うことにもなる。このプロセスは、普段の業務では得られない貴重な学びとなり、職場全体のスキル向上にもつながっている。また、選手同士が互いの実技を見学することで、優れた実践例を共有し、いわゆる「ベストプラクティス」（優良実践例）を学び合う場としての機能を果たしている。

こうした学び合いと磨き合いの仕組みは、AJCCの活動で行われている実践力向上の学習プロセスであり、介護現場におけるトレーニングモデルを示すものでもある。選手アンケートには、「同僚と準備を進める中で技術力が向上した」「実技を振り返ることでケアへの意識が変わった」といった声が寄せられており、AJCCが実践的な学習の場であることが明確に示されている。

また、介護は個別ケアが中心となるため、密室で行われることが多く、他者からの評価やフィードバックを受ける機会が限られている。その結果、自己流になりがちな側面も指摘されている。しかし、AJCCでは、アドバイザーによる第三者評価とフィードバックを通じて、選手自身の強みや改善点が明確になり、より良いケアを提供するための「実践の知」を獲得する機会となっている。この仕組みは、介護の質の向上に大きく貢献している。

さらに、コンテスト後には、地域や法人内での研究発表会や実践発表会が開催されるなど、AJCCは介

護文化の発展や未来の介護づくりの一環としての役割も担っている。

## (6) 介護職のネットワーク、地域とのつながりの醸成

全国の介護職が集い、相互に交流し、学び合い、実技コンテストに挑戦し合う。AJCC は、介護職員の学びの場であると共に、仲間との交流やネットワークをつくる機会となっている。同時に、地域とのつながりを深める重要な役割を果たしている。

参加選手は、年齢、経験、国籍を超えた多様なバックグラウンドを持ちながら、「介護の質の向上」という共通の目標のもとで集結する。このような多様性と共通性を併せ持つ場が、地域を超えたネットワークの形成を促し、介護現場や地域社会における連携と協力関係の形成に寄与するものとなっている。

AJCC は選手同士の交流を活発にする仕組みを備えており、競技中だけでなく、前夜祭や競技前後のイベントを通じて、選手や関係者間の対話や関係性の構築が自然に進められている。選手たちは、前夜祭や競技の合間に、互いの関心や経験、苦労や課題認識について積極的な話し合いをもち、課題意識を共有している。限られた時間ではあるが、ここで形成された一体感が、競技終了後に続くインフォーマルなネットワークの基盤となり、地域や法人を超えたつながりを生み出している。こうしたネットワークは、個々の成長や支え合いの源となるだけでなく、介護業界全体の未来を考える土壌の提供になっている。

また、AJCC は地域とのつながりを醸成する場としても機能している。一般市民や地域住民が来場者としてコンテストに参加することで、介護現場への理解が深まり、共感を得る機会が増えている。来場者アンケートには、「地域の介護施設が連携して取り組む姿を見て感動した」「介護職の現場に対する尊敬の念が深まった」といった意見が寄せられている。さらに AJCC を契機に、地域住民向けの介護講座やイベントを開催する事業所もあり、地域包括ケアの推進に貢献する新たな取り組みが生まれている。

このように、AJCC は、介護職同士のネットワークを全国的に構築する場となるとともに、地域社会における介護への理解と支援を促進する機能を果たしている。これにより、介護の質の向上や介護文化の発展に寄与する、意義深い場としての役割を担っている。

## (7) 介護の魅力、介護職へのリスペクトの深化

AJCC は、介護職の仕事の意義や社会的価値を再認識するとともに、それを社会全体に広く伝える重要な役割を果たしている。ケアコンテストという場を通じて、参加者は自身の仕事への誇りを深め、一般の来場者に介護の魅力を伝えることで、介護職全体の評価を高めている。この好循環のプロセスは、介護という仕事の社会的価値をさらに高めることになり、職業としての介護職の地位向上に寄与することにつながっている。

参加選手にとって、AJCC は全国大会という特別な場であり、自身が所属する法人や事業所を代表して

出場するという誇りと使命を感じる機会でもある。選手たちは、競技への挑戦を通じて、日々の業務とは違った充実感や達成感を得ている。また、競技に向けた準備期間において、上司や同僚からの支援を受けながら練習を重ねることで、職場全体での結束が高まり、選手自身のモチベーションや自己肯定感の向上に繋がっている。このような過程は、職場のメンタルヘルスの改善や離職率の低下にも寄与している。

また、AJCC の意義は選手にとどまらず、一般市民や来場者にも大きな影響を与えている。コンテストを通じて、来場者は介護現場のリアルな状況を知ることによって介護への理解を深め、共感を抱くようになる。介護は社会を支えるエッセンシャル・サービスであるという認識が広がり、介護職に対する社会的なリスペクトが高まる契機となっている。特に、選手たちが実技を通じて利用者との信頼関係を築く様子や、献身的な姿勢が来場者に感動を与え、「感謝」「感動」「かっこいい」といったポジティブな介護イメージが形成されている。

AJCC は、勝敗を競うことを目的とするのではなく、参加すること自体に意義があるという理念のもとで運営されている。コンテストは、介護の「見える化」を実現する場となり、介護職員自身はその仕事の魅力や価値を伝える重要な機会になっている。この継続的な活動は、介護の社会的価値を創造し、介護の魅力やサービスの質の向上に大きなインパクトを与えるものである。

AJCC を通じて介護の仕事は、若い世代にとっても「グッドジョブ」として認識されることが期待される。介護の仕事の社会的認知が高まり、若者にとって魅力的な職業選択肢の一つとなることは、少子高齢化が進む中で持続可能な介護の未来を築くために不可欠である。AJCC は、その実現に向けた重要なステップに一翼を担っているとと言えるだろう。

## 2. 期待される成果・中長期の視点での影響

前項では、AJCC の継続的な活動がもたらす特徴的な成果として7項目を整理してきた。本項では、それらの成果を基盤として、さらに中長期の視点で期待される成果や社会的影響（インパクト）について整理する。

AJCC は、介護の実践力向上を通じて、介護サービスの質の向上に寄与し、介護職の社会的評価を高めるとともに、介護人材の育成と確保という喫緊の課題にも貢献することを目指している。本項では、これらの視点を踏まえ、AJCC の活動が今後もたらす可能性のある中長期的な成果について、5つの項目に整理する。

介護技術・技能の向上を通じた介護サービスの質の向上、介護の仕事の社会的評価の向上、そして喫緊の社会的課題である介護人材の養成と確保等、AJCC の活動が目指す目標に関連づけながら、中長期のアウトカムを整理するものである。

## (1) 介護技術及び技能の向上

介護技術及び技能の向上は、AJCC が実技コンテストとして開催されてきた直接的な成果であり、今後も継続的な発展が期待される要素である。選手たちはコンテストを通じて、個別ケースへの対応力やトータルな介護実践力を発揮しながら、新しい技術・技能を修得し、熟練度を高めている。

AJCC の競技プロセスでは、選手間での「学び合い」と「磨き合い」の相乗効果が生まれ、特に優れた選手の実践例（ベストプラクティス）は、他の参加者にとって貴重な学習モデルとなる。このような知見の共有は、介護現場における技術標準の見直しやレベルアップにつながり、業界全体のスキル向上に寄与している。

また、利用者のニーズが多様化・複合化するなかで、AJCC の取り組みは、これらのニーズに応えられる新たな介護実践モデルの創出を促進する役割を果たしている。コンテストを通じた技術・技能の向上は、介護現場のイノベーションを推進し、より高度で質の高いケアの提供につながることを期待される。

## (2) 介護サービスの質の向上

AJCC は、介護サービスの質を高めるためのプラットフォームとして機能している。コンテストの設定課題は、利用者の尊厳の保持、自立支援、エビデンスに基づくケアの実現といった介護サービスの基本理念に基づいて設計されており、参加選手はこれらを具体的な実践に落とし込む機会を得ている。コンテストを通じて習得した実践的な知見やスキルを現場に還元することで、介護の質の向上に直接寄与している。

また、AJCC で評価される「基本理念やエビデンスに基づいた実践」は、職場全体でのケアの質を底上げする要因となっている。競技を通じて得られるフィードバックは、利用者視点に立ったケアの改善につながり、「その人らしいケア」の実現や、利用者の QOL（生活の質）向上に寄与するものとなっている。

さらに、AJCC の取り組みは、個人のスキル向上にとどまらず、チームケアの充実や地域連携の促進といった、組織や地域での活動につながっている。これらの活動は、介護現場におけるサービスの質を向上させるだけでなく、利用者や家族から「選ばれる介護サービス」の実現に向けた取り組みとしても重要な役割を果たしている。

## (3) 介護職の社会的評価の向上

介護の「見える化」を通じて、AJCC は、介護職の社会的評価を高める重要な役割を果たしている。選手たちが競技で発揮する高い技術と倫理観は、一般市民や来場者に介護職の専門性と社会貢献度を強く印象づけている。

特に、ケアコンテストの実技やその評価とフィードバックの場面では、利用者役やアドバイザーとの関係において「出会い」（エンカウンター）の体験があり、そのことが「感謝」「感動」「かっこいい」という明るい介護イメージの（いわゆる“3K”）として受けとめられ、介護職に対する認識を変える契機になっている。

また、競技を通じて、介護職が高い他者貢献動機（プロソーシャル・モチベーション）の持ち、専門職として誇りをもってサービスを提供していることが可視化される。

さらに、AJCCの競技の様子が、TVや新聞、インターネットなどのメディアを通じて発信されることで、広く市民の間で介護への関心が高まり、エッセンシャルサービスの担い手であることが認識されるようになっていく。

こうした社会的評価の向上は、さらに介護職のモチベーションを高めるとともに、次世代の介護人材の養成・確保にもつながることが期待される。AJCCを通じた介護職の価値の可視化は、業界全体の発展に寄与する重要な要素となるものである。

#### **(4) 介護人材の養成と確保**

介護人材の養成と確保は、介護ニーズの量的拡大や重度化が進む中で、喫緊の課題として認識されている。AJCCは、全国規模のケアコンテストを通じて介護への社会的関心を高めるとともに、介護の質の向上と地域とのつながりを促進する継続的な活動を展開し、介護人材の養成と確保に寄与している。

また、これから介護職を目指す養成校の学生や生徒にとって、AJCCの実技見学や動画投稿コンテストへの参加は、介護実践の向上を目指す上で大きな意義を持つ。特に、ケアコンテストの実技を直接目にすることは、リアルな介護現場を体感する貴重な機会となり、介護の魅力を実感する契機となっている。こうした経験が、介護職を選択する上での重要な要因となることが期待される。

さらに、AJCCは多文化共生の推進を掲げ、外国籍選手がケアコンテストに参加できる機会を拡充している。この取り組みは、介護人材の多様性を尊重し、ダイバーシティの推進に寄与するものである。実際に、外国籍選手の競技での活躍は目覚ましく、介護の担い手としての期待が高まっている。

#### **(5) 新しい介護文化の創造**

AJCCの社会的インパクトのひとつとして、「新しい介護文化の創造」が挙げられる。ケアコンテストの場は、介護のプロ意識や他者貢献動機（プロソーシャル・モチベーション）の高い参加選手が介護実践を「磨き合う」機会であるとともに、介護の未来像を創り出す場となっている。また、全国規模での介護職員のネットワークや地域とのつながりを促進することで、新たな介護の価値観やスタイルの形成につながっている。

さらに、AJCCを通じた介護の「見える化」により、「明るい」「信頼できる」という新たな介護イメージが発信され、介護職員のメンタルヘルスの改善にも寄与している。これまで支配的であった「閉鎖的」「大変」といった介護のイメージを変革し、よりポジティブな介護文化の形成を促進するものである。

こうした取り組みは、共に支え合う共生社会の実現を目指すものであり、AJCCの継続的な活動が介護のイノベーションを推進し、新しい介護文化の創造と発展にさらに貢献することが期待される。

### 3. AJCC への期待と課題

介護の質向上と地域との繋がりを目指す AJCC の活動はさまざまな成果を創出し、多くの期待を集めている。一方で、本調査研究事業では AJCC の活動を継続し、さらに成果を得るための課題も明らかになっている。本項では、選手や選手派遣事業所、来場者などの声に基づいて、AJCC への期待と改善点を整理し、今後の発展につなげることを期待したい。

代表的な要望や希望とともに、いくつかの具体的改善点、要望事項を挙げておく。

#### (1) 大会の継続と参加機会の拡充

大会を継続して欲しいというのが参加選手及び選手派遣事業所等の多くの意見である。また、多くの介護職員（そして学生等）が参加できるよう地方大会の開催や代表選手選考を兼ねた法人内大会の開催を希望する要望や意見も寄せられている。

ケアコンテストへの選手としての参加が出来なくても、AJCC の活動を間接体験できるようにして欲しいという要望も多い。DVD やインターネットで実技やアドバイザーコメントを視聴することで体験を共有したいとの希望である。

- ▶ 参加枠の拡大や選考方式の見直しを検討して欲しい。
- ▶ コンテストの様子を動画公開し、職場で共有できる環境整備が望まれる。
- ▶ 職場全体での学びを増やすため、多くの関係者が参加できる体制が求められる。
- ▶ 広報活動を充実してさらに来場者（見学者、養成校の学生等）を増やして欲しい。
- ▶ 業界団体や職能団体との連携の強化が望まれる。
- ▶ 都道府県や地方ブロック別の地方大会の開催を期待したい。

#### (2) 学びと交流のさらなる促進

限られた機会のなかで、選手や関係者間の学びと交流をさらに深めたいという要望は多い。AJCC での学びや交流は、実技コンテストの当日や前夜祭だけでなく、職場での事前準備プロセスやコンテスト後に職場に戻ってからの取り組みのなかにもある。地域との関係においてもつながりをつくり、深める機会が

ある。

多様な意見や要望が寄せられているが、可能な改善と相違工夫を加えていくことが AJCC の成果をさらに高めることになる。学びや交流の体験を、より広く、深く共有することが期待される。

- 設定課題をもう少し早く配布してもらえれば、職場での学びが広がる。
- ブースでのアドバイザーのコメントの聞き取りやすさを改善する必要がある。
- 他の選手の実技を見学できる機会を増やして欲しい。
- 選手同士や関係者間の交流の場を拡充する必要がある。
- 見学者が少ない現状を改善するために、広報活動を充実する必要がある。
- 動画投稿養成校の選手及び指導者が交流できる機会や場が欲しい。
- 緊張している選手がリラックスできる控室などの環境整備が望まれる。

### (3) 現場に即した分かり易い課題・評価基準の設定

設定課題や評価基準を現場の実情に即した分かり易い内容に改善して欲しいという要望がある。コンテストとしての開催なので参加選手にとっては、大事な関心事項である。理解・納得性の高い設定課題や評価基準にして欲しいという要望である。

また、実技の場で得られるフィードバックを充実させることが、参加者の成長に大きく寄与すると期待されている。厳しい評価もよいが自信を失ってしまうようなフィードバックはどうかと思うとの選手派遣事業所からの要望もある。

高齢者役の役割演技や実技後のフィードバックに関する要望では均質性や標準化についての要望が出されている。

- 設定課題の内容や評価基準に現場の実情を反映する必要がある。
- 評価基準を改善し、実践的な形での評価や審査を期待したい。
- 実技の場で得られるアドバイスをさらに深められる体制の充実が求められる。
- 高齢者役の対応が人によって大きく違う場合がある。標準化して欲しい。

### (4) 動画投稿コンテストの充実

動画投稿コンテストでは、教育レベルに応じた部門区分の設置や、学生と教員の交流の場の充実への期待がある。また、エントリー方式や設定課題の見直し、動画制作手引きの改善など、参加のハードルを下げる工夫も重要である。これにより、多くの学生や教育機関が積極的に参加する場を提供することが期待される。これからの介護人材の養成のためには、養成校の学生や生徒を対象とする実技コンテストの実施も検討課題となる。

- ▶ 教育レベルに応じた部門区分の設置が必要である（大学・専門学校と高校）。
- ▶ 学生や教員の交流機会をリモートで提供して欲しい（例：Zoom）。
- ▶ 動画投稿の設定事例について選択できるようにして欲しい。
- ▶ 参加賞の授与が期待される（履歴書に記載可能な形で）。
- ▶ 動画制作の手引きや課題設定の明確化が必要である。
- ▶ 動画投稿作品の展示ブースの見せ方を工夫して欲しい。

## (5) 養成校との連携、外国籍選手枠の拡充

AJCC のさらなる発展及び介護人材の確保・養成の観点から、養成校との連携の強化、外国人選手枠の拡充が求められている。現在、動画投稿コンテストを通じて学生の参加機会を提供しているが、より多くの養成校や学生が AJCC の学びに触れる機会を増やすための仕組みづくりが期待される。また、外国籍の介護人材の増加を受け、AJCC における外国籍選手の参加枠の拡充も今後の重要な課題の一つである。

養成校との連携を深めることで、介護の学びの機会を拡大し、学生が AJCC の実技やフィードバックを通じて、実践的なスキルを向上できる環境を整えることが期待される。また、外国籍選手の参加を促進することで、より多様な視点を取り入れ、国際的な介護の実践交流の場としての AJCC の価値を高めることも期待されるところである。

### <養成校との連携強化>

- ▶ 養成校に向けたコンテストの説明会や事前学習の場の提供が期待される。
- ▶ 養成校の指導者（教員等）との連携を図ることができる機会と場を設定する。
- ▶ 学生が AJCC の学びを体験できるよう、見学やボランティアの機会を拡大する。
- ▶ 動画投稿コンテストを活用し、学生の学びを促進するためのフィードバック機会を充実させる。
- ▶

### <外国籍選手枠の拡充>

- ▶ 外国籍の介護人材が参加しやすいよう、選手枠の新設や参加基準の見直し、より多くの選手が参加しやすい環境を整える。
- ▶ 多様な国籍で交流できる機会と場づくり、ネットワークが欲しい。
- ▶ 養成校の外国籍学生が参加し易いプログラムの開発を期待したい。
- ▶ 日本の介護技術と文化を外国籍選手と共有することで、国際的な介護の質の向上につなげる。

《参考資料》 AJCC2024(第14回)調査研究事業 アンケート及びヒアリング調査票

AJCC2024(第14回)調査研究事業 選手事前アンケート (コンテスト前・Web調査)

- ・AJCC2024(第14回)に参加申込をいただきありがとうございます。
- ・本アンケートは、AJCCの効果分析に関する調査研究事業として実施するものです。
- ・アンケートにご協力をお願いいたします。8月2日までにご回答ください。
- ・スマホ、PC等でアンケートをご覧いただき、チェックを入れてご返信ください。
- ・ご回答は、プライバシーに配慮し、事業所や個人を特定しない範囲でデータ集計を行います。

1. ご自身の属性等についてお答えください。

① ケアコンテストの実技分野及び部門を選択してください。

分野及び部門(プルダウン)

1□認知症

○A部門 ○B部門

5□排泄

○A部門 ○B部門

2□看取り

○A部門 ○B部門

6□口腔ケア

○A部門 ○B部門

3□食事

○A部門 ○B部門

7□外国人介護職員分野

4□入浴

○A部門 ○B部門

② ご自身が所属する事業所の事業種を選択してください。

1□介護老人福祉施設(特養ホーム)

2□介護老人保健施設(老健)

3□認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

4□特定施設入居者生活介護(介護付き有料老人ホーム)

5□訪問介護(ホームヘルプサービス)

6□通所介護(デイサービス)

7□その他( )

③ ご自身の年齢階層を選択してください。

1□10歳代

2□20歳代

3□30歳代

4□40歳代

5□50歳代

6□60歳以上

④ ご自身の介護職としての経験を選択してください。

1□3年未満

2□3年以上5年未満

3□5年以上10年未満

4□10年以上

5□その他( )

⑤ ご自身の介護に関する保有資格等を選択してください。

(あてはまるものすべてを選択)

- 1介護福祉士
- 2介護支援専門員
- 3社会福祉士
- 4精神保健福祉士
- 5看護師
- 6理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
- 8管理栄養士
- 9介護職員初任者研修修了
- 10介護福祉士実務者研修修了
- 11その他( )

⑥ 所属する法人・事業所での組織上の立場を選択してください。

- 1管理職
- 2チームリーダー等指導的立場
- 3中堅職員(概ね3年以上)
- 4初任者(3年未満)
- 5その他( )

2. 今回のケアコンテスト参加についてお答えください。

① ご自身の参加回数を選択してください。

(あてはまるものすべてを選択)

- 1選手として初めての参加
- 2選手として複数回の参加である
- 3大会に来場するのは初めて
- 4大会には複数回来場
- 5その他( )

② 法人・事業所の参加回数を選択してください。

- 1初めての参加
- 2複数回の参加
- 3分からない
- 4その他( )

③ 今回のケアコンテストへの参加人数を選択してください。

- 11人の参加
- 22人から3人の参加
- 34人以上の参加
- 4分からない
- 5その他( )

④ ご自身のケアコンテスト参加動機を選択してください。

(あてはまるものすべてを選択)

- 1自発的意思
- 2上司の推薦(または指示)
- 3事業所の推薦(または指示)
- 4外部の方の紹介
- 5その他( )

⑤ ケアコンテストの事前準備における職場や職場の上司・同僚のサポートについてご自身の思いを選択してください。

- 1  積極的な支援・指導があった
- 2  ある程度の支援・指導があった
- 3  どちらとも言えない
- 4  あまり指導・支援がなかった
- 5  ほとんど指導・支援がなかった

⑥ ケアコンテストの準備プロセスについてご自身の思いに近いものを選択してください。  
(あてはまるものすべてを選択)

- 1  自分自身の介護を振り返る機会になった
- 2  介護の根拠(エビデンス)を考えるようになった
- 3  担当する分野の介護のあり方について深めることができた
- 4  介護の仕事の使命感や職業意識を自覚するようになった
- 5  職場の上司や仲間とコミュニケーションを密にする機会になった
- 6  職場での相互研さんや後輩の指導について気づきがあった
- 7  事業所を代表してコンテストに参加する責任感が芽生えた
- 8  他の事業所等、多くの方と交流するのが楽しみになった
- 9  コンテスト参加へのモチベーションが高まった
- 10  介護についてさらに深めたいと思うようになった
- 11  その他( )

⑦ ケアコンテストの準備プロセスで感じた体験やエピソードについてご記入ください。

.....

3. 介護技術・技能の向上に関するご自身のこれまでの取組みについてお答えください。

- 1: 積極的に取り組んできた
- 2: ある程度取り組んできた
- 3: どちらとも言えない
- 4: あまり取り組んでこなかった
- 5: ほとんど取り組んでこなかった

4. 介護技術・技能向上に関する職場としての取組みについてお答えください。

- 1: 積極的に取り組んでいる
- 2: ある程度取り組んでいる
- 3: どちらとも言えない
- 4: あまり取り組んでいない
- 5: ほとんど取り組んでいない

5. 介護の仕事についてどのように感じますか。ご自身の思いを簡潔にご記入ください。

.....

6. ケアコンテスト(AJCC)開催の意義についてどのように感じますか。ご自身の思いを簡潔にご記入ください。

.....

7. ケアコンテストについて、ご自身の思いや意気込みなど自由にご記入ください。

.....

ご協力ありがとうございました。

AJCC2024(第14回)調査研究事業 選手事後アンケート (コンテスト後・Web調査)

- ・AJCC2024(第14回)大会にご参加いただきありがとうございました。
- ・本アンケートは、AJCCの効果分析に関する調査研究事業として実施するものです。
- ・2回目のアンケートとなります。第14回大会のご体験を踏まえて8月末日までにご回答ください。  
(統計処理のため前回アンケートと重複する内容がありますがご了承ください)
- ・スマホ、PC等でアンケートをご覧いただき、チェックを入れてご返信ください。
- ・ご回答は、プライバシーに配慮し、事業所や個人を特定しない範囲でデータ集計を行います。

1. ご自身の属性等について改めてお答えください。

① ケアコンテストの実技分野及び部門を選択してください。

分野及び部門(プルダウン)

1□認知症

○A部門 ○B部門

5□排泄

○A部門 ○B部門

2□看取り

○A部門 ○B部門

6□口腔ケア

○A部門 ○B部門

3□食事

○A部門 ○B部門

7□外国人介護職員分野

4□入浴

○A部門 ○B部門

② ご自身が所属する事業所の事業種を選択してください。

1□介護老人福祉施設(特養ホーム)

2□介護老人保健施設(老健)

3□認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

4□特定施設入居者生活介護(介護付き有料老人ホーム)

5□訪問介護(ホームヘルプサービス)

6□通所介護(デイサービス)

7□その他( )

③ ご自身の年齢階層を選択してください。

1□10歳代

2□20歳代

3□30歳代

4□40歳代

5□50歳代

6□60歳以上

2. 今回のケアコンテスト参加についてお答えください。

① ご自身の参加回数を選択してください。

(あてはまるものすべてを選択)

1□選手として初めての参加

2□選手として複数回の参加である

3□大会に来場するのは初めて

4□大会には複数回来場

5□その他( )

- ② ケアコンテストの事前準備についてご自身の思いを選択してください。
- 1□十分事前準備をすることができた
  - 2□ある程度事前準備をすることができた
  - 3□どちらとも言えない
  - 4□あまり事前準備ができなかった
  - 5□ほとんど事前準備ができなかった
- ③ ケアコンテストの実技では実力を発揮できましたか、ご自身の思いを選択してください。
- 1□十分実力を発揮できた
  - 2□ある程度実力を発揮できた
  - 3□どちらとも言えない
  - 4□あまり実力を発揮できなかった
  - 5□ほとんど実力を発揮できなかった
- ④ 他の選手の実技を観戦し参考になりましたか、ご自身の思いを選択してください。
- 1□非常参考になった
  - 2□ある程度参考になった
  - 3□どちらとも言えない
  - 4□あまり参考にならなかった
  - 5□ほとんど参考にならなかった
- ⑤ アドバイザーからのコメントは参考になりましたか、ご自身の思いを選択してください。
- 1□非常参考になった
  - 2□ある程度参考になった
  - 3□どちらとも言えない
  - 4□あまり参考にならなかった
  - 5□ほとんど参考にならなかった
- ⑥ ケアコンテストの前夜祭での交流・懇親について、ご自身の思いを選択してください。
- 1□非常に有意義だった
  - 2□ある程度有意義であった
  - 3□どちらとも言えない
  - 4□あまり有意義でなかった
  - 5□ほとんど有意義でなかった
- ⑦ ケアコンテスト参加の経験についてご自身の思いに近いものを選択してください。  
(あてはまるものすべてを選択)
- 1□自身の介護を振り返り、見直す機会になった
  - 2□相互研さんで介護技術の向上になった
  - 3□根拠(エビデンス)に基づく介護のあり方を考えるようになった
  - 4□担当する分野の介護のあり方について深めることができた
  - 5□介護の仕事の使命感や職業意識を自覚するようになった
  - 6□職場の上司や仲間とコミュニケーションを密にする機会になった
  - 7□職場での相互研さんや後輩の指導について気づきがあった
  - 8□事業所の代表者としての意識が高まった
  - 9□他の事業所等、多くの方と交流することができた
  - 10□仕事についてのモチベーションが高まった
  - 11□介護についてさらに深めたいと思うようになった
  - 12□その他( )

⑧ 今回のコンテスト参加の満足度について

1□大いに満足している

2□満足している

3□どちらとも言えない

4□あまり満足していない

5□不満である

3. ケアコンテスト参加で感じた体験やエピソードについてご記入ください。

4. ケアコンテストについての感想、希望、改善点などについて自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

AJCC 2024(第14回)調査研究事業 選手ヒアリング(当日・面接ヒアリング)

\*お尋ねする項目についてYes,Noの回答をお願いいたします。

\*そのうえで項目に関連することについて体験、エピソード(喜び・感動・出会い等)をお聞かせください。

\*ご回答は、プライバシーに配慮し、個人を特定しない範囲で活用させていただきたく存じます。

1. まず、ケアコンテストの実技についてお尋ねします。

① 担当された実技分野及び部門はどちらでしたか。お名前も確認させていただきます。

1□認知症 2□食事 3□入浴 4□排泄 5□看取り 6□口腔ケア7□外国人介護職員

○A部門

○B部門

お名前:

② ご希望通りの分野、部門でしたか

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

③ ケアコンテストに参加しての今の気持ちを一言で表現することができますか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

(例えば、どんな言葉になりますか:満足、感動、挑戦、安堵、学び etc.)

④ ケアコンテストでは実力を発揮できましたか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

⑤ 他の選手の実技をみて参考になりましたか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

⑥ アドバイスコメントは参考になりましたか

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

⑦ 前夜祭では交流や懇親ができましたか

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

⑧ コンテストに参加してよかったですか

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

⑨ 次回のケアコンテストには他の職員も参加した方がよいと思いますか

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

2. 次に、ケアコンテストの準備についてお尋ねします。

① 事前課題やケース検討等、準備は十分行いましたか

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

② 職場の上司や同僚と一緒に準備を進めましたか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

③ 準備の取組みで良かったと思うことがありますか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

④ 職場の上司や同僚との関係で、普段とは違うかかわりができたと思いますか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

⑤ 今日のコンテストには、職場から一緒にきてくれている人がいますか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

3. これからのことや介護の仕事についてお尋ねします。

① ケアコンテストの経験を活かし、これからやりたいと思うことがありますか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

② 介護の仕事は好きですか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

③ 介護のお仕事で大切にしていることがありますか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

4. 最後に、このケアコンテストについてお尋ねします。

① このコンテストは続けるべきだと思いますか

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

② ケアコンテストの開催について何か希望することがありますか。

1□はい

2□どちらとも言えない

3□いいえ

ありがとうございました。

AJCC2024(第14回)調査研究事業 選手派遣事業所アンケート (コンテスト後・Web調査)

- ・AJCC2024(第14回)大会へ選手をご派遣していただきありがとうございました。
- ・本アンケートは、AJCCの効果分析に関する調査研究事業として実施するものです。
- ・アンケートにご協力をお願いいたします。8月末日までにご回答ください。
- ・スマホ、PC等でアンケートをご覧いただき、チェックを入れてご返信ください。
- ・ご回答は、プライバシーに配慮し、事業所や個人を特定しない範囲でデータ集計を行います。

1 法人・事業所の所在地(都道府県名)をご記入ください。

プルダウン(地域:東京・関東・中部等)

2. 事業所の事業種を選択してください。

(あてはまるものすべてを選択)

1介護老人福祉施設(特養ホーム)

2介護老人保健施設(老健)

3認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

4特定施設入居者生活介護(介護付き有料老人ホーム)

5訪問介護(ホームヘルプサービス)

6通所介護(デイサービス)

7その他( )

3. 法人及び事業所の介護職員数をお答えください。

法人  人

事業所  人

4. 法人・事業所がコンテスト(AJCC)に参加された回数を選択してください。

1はじめての参加

22回以上5回未満

35回以上10回未満

410回以上

5その他

5. ケアコンテストへの参加選手数についてお答えください。

今回  人

今回含めた総数  人

6. 法人・事業所における選手に対するサポートについて選択してください。

1大いにサポートした

2サポートしている

3どちらとも言えない

4あまりサポートしなかった

5まったくサポートしていない

7. どのようなサポートをされましたか(サポートしているの選択をした場合)

8. ケアコンテスト参加選手のモチベーションについて選択してください。
- 1非常に高まった
  - 2高まった
  - 3どちらとも言えない
  - 4あまり変わらない
  - 5まったく変わらない
9. ケアコンテスト参加選手の介護技能・技能について選択してください。
- 1非常に向上した
  - 2向上した
  - 3どちらとも言えない
  - 4あまり変わらない
  - 5まったく変わらない
10. ケアコンテストへの選手派遣に伴う他の職員への影響(波及効果)について選択してください。
- 1非常によい影響を与える
  - 2よい影響を与える
  - 3どちらとも言えない
  - 4あまり影響しない
  - 5まったく影響しない
11. ケアコンテストに参加して新たな視点や知見が得られたかどうかについて選択してください。
- 1非常に多く得られた
  - 2得られた
  - 3どちらとも言えない
  - 4あまり得られなかった
  - 5まったく得られなかった
12. ケアコンテスト参加に対する法人・事業所としての満足度について選択してください。
- 1非常に満足している
  - 2満足している
  - 3どちらとも言えない
  - 4あまり満足していない
  - 5まったく満足していない
13. 次回のケアコンテスト参加の予定について選択してください。
- 1ぜひ参加したいと思う
  - 2参加したいと思う
  - 3どちらとも言えない
  - 4あまり参加したくない
  - 5まったく参加したくない
14. ケアコンテスト(AJCC)の意義についてどのように感じますか。事業所としての考えを簡潔にお答えください。
- .....
15. ケアコンテスト(AJCC)について、希望、改善点など自由にお書きください。
- .....

ご協力ありがとうございました。

AJCC2024(第14回)調査研究事業 動画投稿養成校アンケート (コンテスト後・Web調査)

- ・AJCC2024(第14回)大会 動画投稿部門へご参加いただきありがとうございました。
- ・本アンケートは、AJCCの効果分析に関する調査研究事業として実施するものです。
- ・アンケートにご協力をお願いいたします。8月末日までにご回答ください。
- ・スマホ、PC等でアンケートをご覧いただき、チェックを入れてご返信ください。
- ・ご回答は、プライバシーに配慮し、事業所や個人を特定しない範囲でデータ集計を行います。

1. 学校所在地についてお答えください。

プルダウン(地域:東京・関東・中部等)

2. 学校の区分についてお答えください。

1 大学

2 専門学校

3 高校

4 その他( )

3. 動画投稿コンテストへの参加についてお答えください。

1 はじめて

2 複数回参加している

3 その他( )

4. 動画投稿した学生数についてお答えください。

今回  人

今回含めた総数  人

5. 動画投稿に当って学生に対する学校としてのサポートについてお答えください。

1 大いにサポートしている

2 サポートしている

3 どちらとも言えない

4 あまりサポートしていない

5 まったくサポートしていない

6. どのようなサポートをされましたか(サポートしているの選択をした場合)

7. 動画投稿を通じた学生の学びへの姿勢についてお答えください。

1 非常に高まった

2 高まった

3 どちらとも言えない

4 あまり変わらない

5 まったく変わらない

8. 動画投稿を通じた学生の介護技能・技能の変化についてお答えください。

1 非常に向上した

2 向上した

3 どちらとも言えない

4 あまり変わらない

5 まったく変わらない

9. 動画投稿を通じた学校内の他の学生への影響(波及効果)についてお答えください。

- 1非常に影響する
- 2影響する
- 3どちらとも言えない
- 4あまり影響しない
- 5まったく影響しない

10. 動画投稿コンテストへの参加が学校のブランド力への影響(波及効果)についてお答えください。

- 1非常によい影響を与える
- 2よい影響を与える
- 3どちらとも言えない
- 4あまり影響しない
- 5まったく影響しない

11. 動画投稿コンテストに参加して新たな視点や知見が得られたかどうかについて選択してください。

- 1非常に多く得られた
- 2得られた
- 3どちらとも言えない
- 4あまり得られなかった
- 5まったく得られなかった

12. 今回の動画投稿コンテスト参加に対する学校としての満足度について選択してください。

- 1大いに満足している
- 2満足している
- 3どちらとも言えない
- 4あまり満足していない
- 5まったく満足していない

13. 次回の動画投稿コンテスト参加の予定について選択してください。

- 1ぜひ参加したいと思う
- 2参加したいと思う
- 3どちらとも言えない
- 4あまり参加したくない
- 5まったく参加したくない

14. 動画コンテスト(AJCC)の意義についてどのように感じますか。学校としての考えを簡潔にお答えください。

-----

15. AJCCの開催(含む動画コンテスト)についての希望、改善点など自由にお書きください。

-----

ご協力ありがとうございました。

AJCC2024(第14回)調査研究事業 来場者アンケート (当日・Web及び用紙)

- ・第14回AJCC2024にお越しいただきありがとうございます。
- ・本アンケートは、AJCCの効果分析に関する調査研究事業として実施するものです。
- ・下記の質問項目にチェックを入れてお答えください。QRコードでの回答も可能です。
- ・ご回答は、プライバシーに配慮し、個人を特定しない範囲でデータ集計を行います。

1. ご自身の立場についてお答えください。

① ご来場(見学等)のお立場について

- 1一般来場者
- 2選手・事業所関係者
- 3教員等養成校関係者
- 4ケアコンテストアドバイザー
- 5ケアコンテストボランティア
- 6開催関係者(運営スタッフ等)
- 7その他( )

② お住まいの地域(都道府県)について

プルダウン(地域:東京・関東・中部等)

③ 年齢階層について

- 110歳代
- 220歳代
- 330歳代
- 440歳代
- 550歳代
- 660歳以上

④ 現在のお仕事について

- 1職業人(福祉関係)
- 2職業人(福祉関係以外)
- 3自営業
- 4教員
- 5学生
- 6主婦・主夫
- 7その他( )

⑤ ケアコンテストへの来場について

- 1初めての来場である
- 22~3回の来場である
- 34回以上の来場である
- 4その他( )



2. 介護についてそれぞれのお立場でお答えください。

① 介護についてのご自身の関心について

- 1大いに関心がある
- 2ある程度関心がある
- 3どちらとも言えない
- 4それほど関心はない
- 5ほとんど関心がない

② どのような関心か(関心があると答えられた方)、簡潔にご記入ください。

-----

3. ケアコンテスト(AJCC)についてそれぞれの立場でお答えください。

① ケアコンテスト(AJCC)開催の意義について

- 1非常に有意義である
- 2かなり有意義である
- 3どちらとも言えない
- 4あまり有意義とは思えない
- 5まったく有意義とは思えない

② その理由について簡潔にご記入ください。

-----

4. 介護の仕事についてどのように感じますか。ご自身の思いを簡潔にご記入ください。

-----

5. ご感想、ご意見等を自由にご記入ください。

-----

ご協力ありがとうございました。

この事業は、厚生労働省 令和6年度老人保健健康増進等事業  
(老人保健健康増進等事業補助金)の一環として行ったものである。

介護技能の向上を目的とするコンテストの効果分析に関する調査研究  
事業報告書

令和7年3月発行

責任者 廣江 研 (社会福祉法人 こうほうえん 会長)

発行者 廣江 晃 (社会福祉法人 こうほうえん 理事長)

発行所 社会福祉法人 こうほうえん

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳 1400

TEL : 0859-24-3111 / FAX : 0859-24-3113